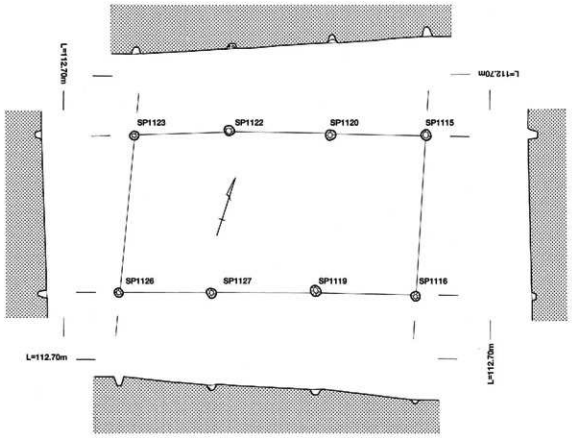
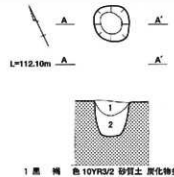


第116図　3区　SA1012遺構平・断面図

る。184は土師器の皿である。大きく直線的に開く立ち上がりをもち、口縁端部はやや尖り気味におさめる。口径は復元値で9.0cm、器高1.7cmを測る。底部は回転ヘラ切りによる切り離しで、外底面には大きく黒斑が残る。遺構の時期は出土遺物が非常に少ないために決定には困難を要するが、おおむね古代末～中世初頭頃であろうと思われる。



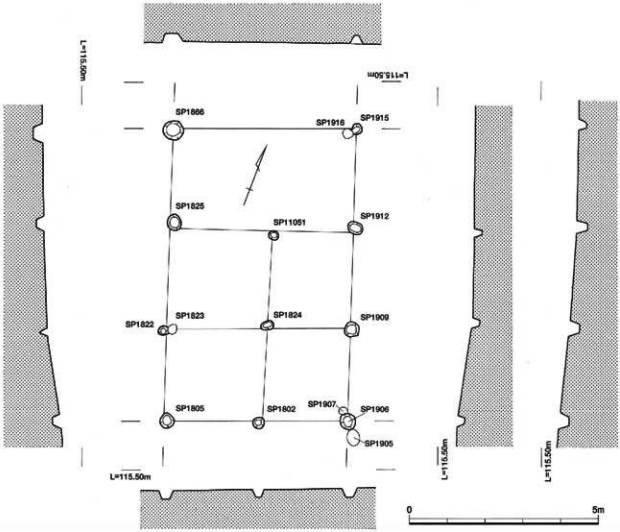
第117図　3区　SP1120遺構平・断面図

第118図　3区　SP1120出土遺物実測図

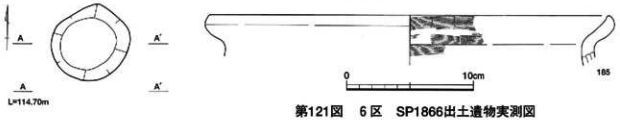
13号掘立柱建物跡（ＳＡ１０１３）（第119～121図）

6区の屋敷地3の中央に位置する。検出グリッドはM・N－69～71グリッドである。遺構の規模は桁行3間×梁間2間を測る総柱式である。北側桁行1間を除く南側には束柱を伴う。また、北側の梁間には柱穴が見あたらないことから、間仕切りおよび土間を設けていた可能性がある。主軸はN－69°－Eを向き、ＳＰ１８２３、１９０７、１９１６を切り、ＳＰ１９０５に切られる。柱間距離は桁行側では平均値で255.0cm、梁間側で245.0cmを測り、床面積は37.49m²を測る。

各柱穴の平面形状はややいびつながらも円形もしくは楕円形を呈するものに限られる。遺構断面形状はいずれも逆台形を呈



第119図　6区　SA1013遺構平・断面図



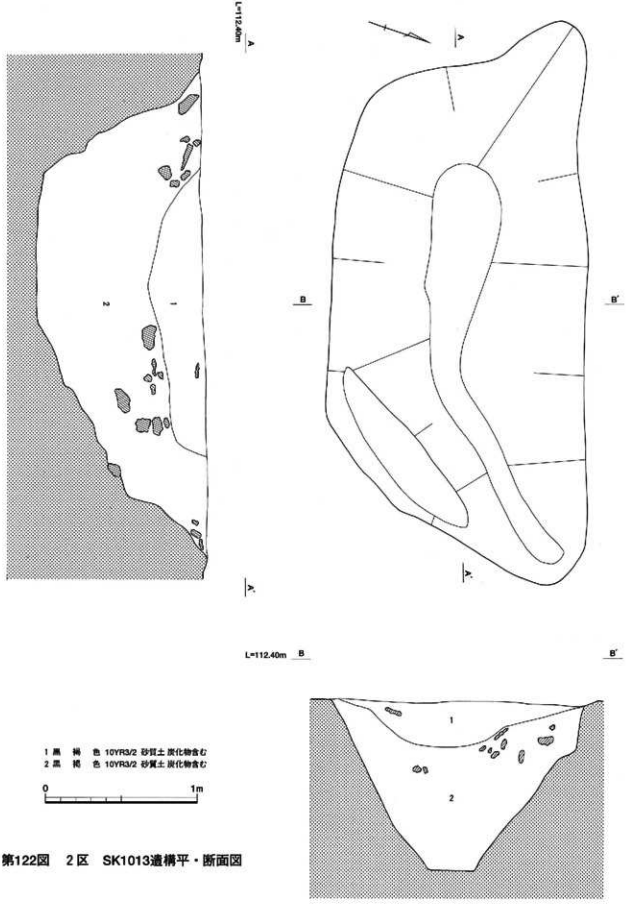
第121図　6区　SP1866出土遺物実測図

第120図　6区　SP1866
遺構平・断面図

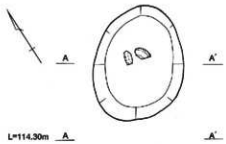
している。また土層観察の結果、柱痕跡および抜き取りを示す痕跡はいずれの柱穴においても確認できなかった。

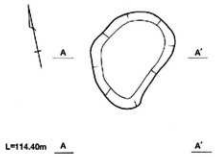
遺物はＳＰ１８６６から出土した１点を図化することができた。185は土師器の甕である。口径は復元値で32.2cmを測り、口縁端部は外面を丸くおさめさらに上方へわずかに拡張する。調整は外面にタテ方向のハケ、内面にヨコ方向のハケを施す。

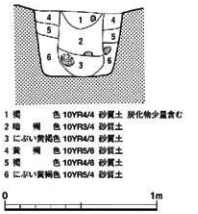
遺構の時期は出土した遺物が１点と明確な根拠にはよわいが、おそらく10世紀前後の年代になるものと思われる。



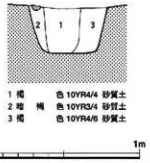
第122図　2区　SK1013遺構平・断面図



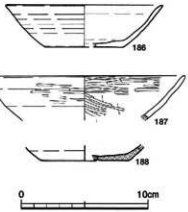




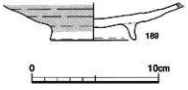
第123図　3区　SK1019遺構平・断面図



第125図　3区　SK1020遺構平・断面図



第124図　3区　SK1019出土遺物実測図



第126図　3区　SK1020出土遺物実測図

土坑（ＳＫ）

13号土坑（ＳＫ１０１３）（第122図）

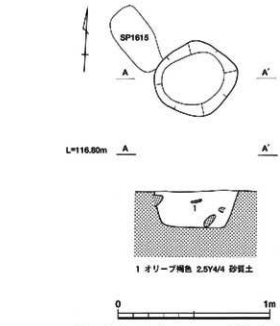
２区の北西側に位置する。検出グリッドはＡＢ－13グリッドである。東西に長軸をもち、遺構平面形状は北側に長辺をもつ台形を呈し、南東側の遺構立ち上がり上側には長軸1.32m、短軸0.28mを測るテラス部分を設けるが、その機能的なものまでは判明しない。遺構規模は長軸3.70m、短軸1.66m、遺構深度1.14mを測る。遺構断面形状は不整逆台形を呈する。

遺構覆土は２層に分層することができ、いずれも黒褐色を呈する砂質土が堆積する。１、２層とも炭化物と地山の自然礫を含むが、２層においてより多くの礫を含んでいた。

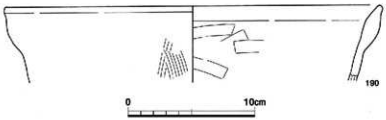
遺物はいずれも小破片で図化できるものの出土はなかった。

19号土坑（ＳＫ１０１９）（第123・124図）

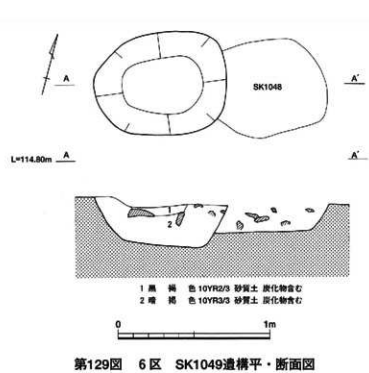
３区の南西側に位置する。検出グリッドはＳ－22グリッドである。遺構平面形状は、北東－南西方向に長軸をもつ楕円形を呈する。遺構規模は長軸0.70m、短軸0.58m、遺構深度0.45mを測る。遺構断面形



第127図　6区　SK1039遺構平・断面図



第128図　6区　SK1039出土遺物実測図



第129図　6区　SK1049遺構平・断面図

状は逆台形を呈する。

遺構覆土は6層に分層することができ、暗褐色～にぶい黄褐色を呈する砂質土が堆積していた。また、1～3層は柱の抜き取り後に堆積したものと思われる。また、3層中には炭化物の比較的大きなブロックが含まれていた。この炭化物ブロックが、直接柱抜き取り後の地鎮行為終了後に柱痕穴に投棄されたことを示すものかは判断できない。また、遺構は位置から見て隣接するSK1020においても柱痕跡が確認できることから掘立柱建物跡を構成する可能性が考えられたが、この2基以外に柱穴が位置していないことから単独の遺構と考えた。

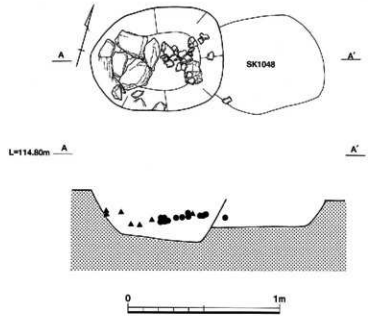
遺物は破片ではあるが、3点を図化することができた。186は土師器の杯である。内外面とも回転ナデ仕上げで薄い器壁をもちわずかに内彎させて立ち上がる。口縁端部はやや尖り気味である。外底面は回転ヘラ切りによる切り離しである。187は黒色土器A類椀である。内外面ともにヨコ方向のヘラミガキを施し、やや丸みをもった立ち上がりをもつ。188は須恵器の杯である。底部は回転ヘラ切りによる切り離しである。

遺構の時期は出土遺物から9世紀後半～10世紀代に属するものと考えられる。

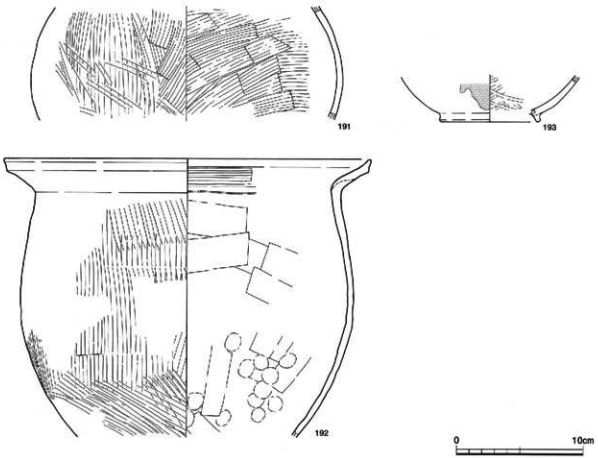
20号土坑（SK1020）

（第125・126図）

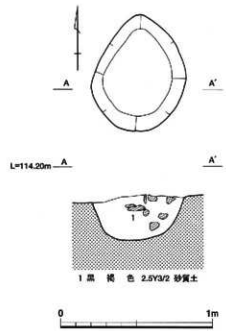
3区の南西側に位置する。検出グリッドはR・S－22グリッドである。遺構平面形状は不整円形を呈する。遺構規模は長軸0.66m、短軸0.46m、遺構深度0.32mを測る。遺構断面形状は逆台形を呈する。



第130図　6区　SK1049遺物出土状況図



第131図　6区　SK1049出土遺物実測図



第132図　6区　SK1050遺構平・断面図

遺構覆土は3層に分層することができ、いずれの土層にも褐色系を呈する砂質土が堆積していた。また、1層は柱の抜き取り後に堆積したものと考えられたが、2・3層において若干土質に差がみられたため土坑と判断した。前述と繰り返しになるが、隣接するＳＫ１０１９と併せて掘立柱建物跡を構成していた可能性が考えられたが、建物が建つような柱穴位置を捉えることはできなかった。

図化することができた遺物は土師器椀の1点のみである。189は土師器椀である。上半部を欠損しているが、底部の約4割が残存している。大きく開く椀部をもち、底部は回転ヘラ切りによる切り離しを面の高台以外に赤彩が施されている。このほか小破片で図化することはできなかったが、黒色土器Ａ類椀が出土している。

39号土坑（ＳＫ１０３９）（第127・128図）

6区の南側に位置する。検出グリッドはＪ－71グリッドである。遺構平面形状は不整円形を呈する。遺構規模は長軸0.56m、短軸0.5m、遺構深度0.25mを測る。遺構断面形状は逆台形を呈する。

遺構覆土はオリーブ褐色を呈する砂質土層が堆積する単一層である。遺構北西側でＳＰ１６１５を切る。遺構覆土中より土師器の甕が出土している。

図化することができたのは190の土師器甕（鍋？）のみである。頸部のくびれをもたず大きく開く口縁部をもち、口縁端部よりやや下側を肥厚させる。外面にはタテ方向のハケ、内面にはヨコ方向の板ナデを施す。

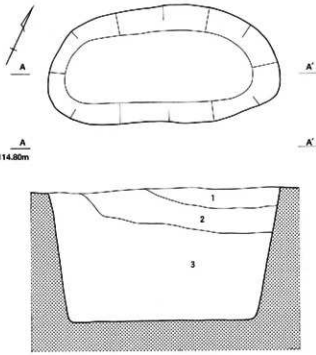
49号土坑（ＳＫ１０４９）（第129～131図）

6区の中央に位置する。検出グリッドはＮ－70グリッドである。遺構平面形状は東西に長軸をもつ楕円形を呈する。遺構規模は長軸0.87m、短軸0.68m、遺構深度0.34mを測る。遺構断面形状は逆台形を呈し、遺構の底部は東側へわずかに傾斜する。

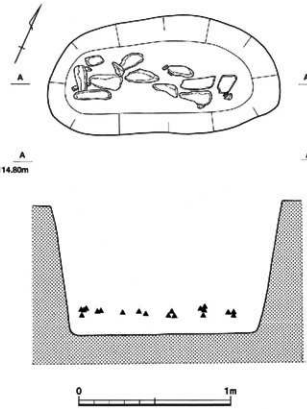
遺構覆土は2層に分層することができ、黒褐色および暗褐色を呈する砂質土が堆積する。遺構の東側でＳＫ１０５１を切る。

遺物は第2層中の底から浮いた状態で出土し、西側には人頭大の礫が、東側には土器片がそれぞれ集中してみられた。しかし、これらの遺物群が一括廃棄されたものかは明確にできていない。

遺物は3点の土器を図化することができた。191、192は土師器の甕である。両者とも外面の調整にタテ方向のハケを施し、内面はヨコ方向のハケもしくは板ナデで仕上げる。191は胴部が明確な球形を呈することから、口縁部が「く」の字状に屈曲する小型の甕と考えられる。192は胴部から屈曲して大きく開く口縁部をもち、口縁端部は上方にのみ拡張する。内面は口縁部にのみヨコハケを施し、底部には板ナデの後にユビオサエが顕著に残る。193は黒色土器Ａ類椀である。内面はヨコ方向のヘラミガキが



第133図　6区　SK1058遺構平・断面図



第134図　6区　SK1058遺物出土状況図

施されるが、外面にヘラミガキは認められない。しかし、外面の一部には赤色塗彩が施されている様に観察できるが、部分焼成温度の違いによる色調差の可能性がある。やや細身ではあるが、短くしっかりした「ハ」の字状の高台が貼付される。

遺構の時期は土師器の甕にやや古い様相が認められるものの、出土状況や黒色土器椀などから10世紀代と考えられる。

50号土坑（ＳＫ１０５０）（第132図）

6区の中央やや北よりに位置する。検出グリッドはＰ－70グリッドである。遺構平面形状は南北に長軸をもつ楕円形を呈する。遺構規模は長軸0.78m、短軸0.60m、遺構深度0.29mを測り、遺構断面形状は深い船底形を呈する。

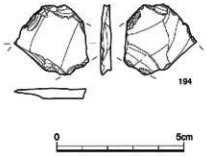
遺構覆土は黒褐色を呈する砂質土層が堆積する単一層で、この覆土中の東側に地山の礫を多く含んでいた。

遺物はすべて小破片であり、図化できるものの出土はみられなかった。

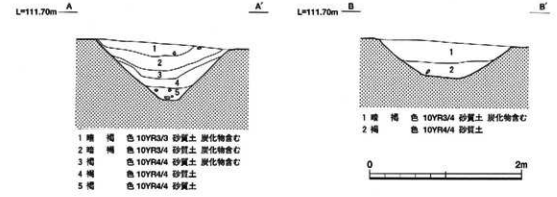
58号土坑（ＳＫ１０５８）（第133～135図）

6区の中央やや東側に位置する。検出グリッドはＯ－72グリッドである。遺構平面形状は東西に長軸をもつ楕円形を呈する。遺構規模は長軸1.54m、短軸0.80m、遺構深度0.86mを測り、遺構断面形状は深い逆台形を呈する。

遺構覆土は3層に分層することができ、暗



第135図　6区　SK1058出土遺物実測図



第136図　3区　SD1001土層断面図

オリーブ褐色および黒褐色を呈する砂質土層が堆積する。とくに1層において砂礫の混じりが多い。遺構の断面形状から土壙墓の可能性も考えられたが、平面プランが楕円形を呈することと土層の堆積状況が人為的なものとは考えられないために土坑として取り扱った。

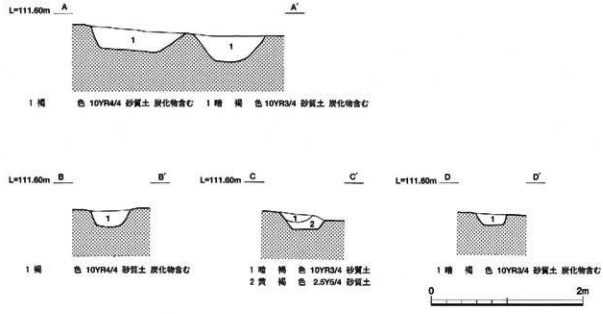
遺物は土器の出土はあるもののいずれも小片であるが、第3層下半の遺構の底付近から若干浮いた位置で人頭大の板状礫がほぼレベルを揃えて出土している。わずかな重なりがみられ配置に疎密があるが、板状礫を敷き詰め床面を構成するということにある程度の意識が働いていたことが看取できる。しかし、床面を構築する目的までは判明できていない。

遺物は、土器類などは図化することができなかったが、須恵器杯の小片が出土している。194はサヌカイト製の剥片である。おそらく流れ込みであろう。

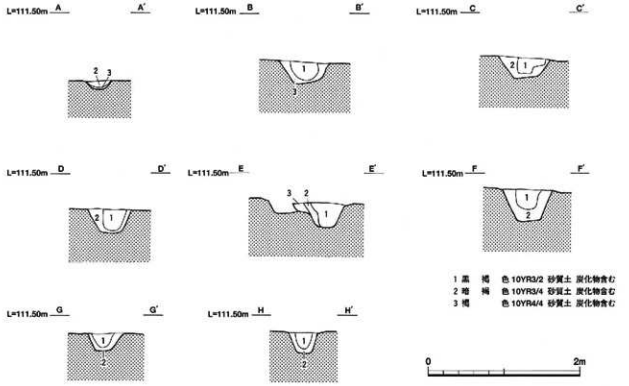
溝（SD）

1号溝（SD1001）（第15・136図）

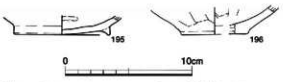
3区の北側に位置する。検出グリッドはY～AB－23・24グリッドである。遺構の北側は調査区外へ



第137図　3区　SD1002土層断面図



第138図　3区　SD1003土層断面図



第139図　3区　SD1003出土遺物実測図

と延び、南側はＳＲ１００１を切る。

遺構規模は検出長10.4m、最大幅2.84m、最小幅1.65mを測る。遺構の床面は南側のＳＲ１００１と切り合う部分で標高110.92m、北側の調査区壁とぶつかる部分で標高110.59mを測る。このことから比高差0.33mをもって北東へ傾斜する地形と直交して、等高線と平行する方向に流水方向をもつことがわかる。傾斜率は0.03%である。遺構断面形状は逆台形を呈する。

遺構の覆土は、暗褐色を呈するものと褐色を呈するものの大きく２つの色調を呈するが、いずれも砂質土が堆積する。標高の低い谷川の方ではさらに５層に分層することができた。また、暗褐色を呈する上層には各層とも炭化物を含んでいた。しかし、各地点での土層観察の結果、著しく遺構内において流水または滞水状況を示す堆積状況や土質はみられなかった。よって遺構の機能としては常時流水や滞水があったのではなく、一時的な水の流れがあったにすぎないものと考えられる。

一方、ＳＲ１００１を挟んだ南側の延長上にはＳＤ１００２が分岐した東側の溝があり、このことから両者は同一遺構の可能性が考えられる。しかし、土層観察によりＳＲ１００１を掘削してＳＤ１００１が開削されていることがわかったが、それ以上南側に延びる堆積状況が確認できなかったためこの地点で溝は終了しＳＤ１００２にまで連続しなかったものと思われる。また、北西方向に主軸をもつＳＤ１００２とは異なりＳＤ１００１の主軸方向は北東に向きを変え、ＳＤ１００３の北側調査区外の延長上に向かう。よって、ＳＲ１００１よりも北側部分においてはさほど区画性をもつことがなかったか、または自然流路からの取水が目的で開削されたことが想定される。

遺物はいずれも小破片で図化することはできなかったが、甕の胴部と思われる土師器片数点が出土している。

2号溝（ＳＤ１００２）（第15・137図）

３区の北東側に位置する。検出グリッドはＵ～Ｘ－24～28グリッドである。遺構の北側はＳＲ１００１と切り、南側はＳＤ１００３に切られる。また、ＳＲ１００１と切り合う南側で２条に分岐する。遺構規模は検出長27.5m、最大幅1.36m、最小幅0.2mを測る。遺構の床面は北側のＳＲ１００１と切り合う部分で東側が標高110.88m、西側が標高111.1m、南側のＳＤ１００３に切られる部分で標高111.07mを測る。このことから東側が比高差0.19m、西側が比高差0.13mをもって北東へ傾斜する地形と直交して、等高線と平行する方向に流水方向をもつことがわかる。傾斜率は東側が0.007%、西側が0.005%を測り両者ともほぼ水平である。ある。遺構断面形状は、逆台形を呈する。

遺構の覆土は、各観察地点で第１層が暗褐色もしくは褐色を呈し、第２層が黄褐色を呈する。土質はいずれの観察地点においても各層は砂質土が堆積していた。つまり、これら土質の状況からは恒常的な水の流れや滞水状況にあったことはうかがえない。また、多くの観察地点で遺構覆土に炭化物が含まれていることが確認できた。

ＳＲ１００１と切り合う南側で本遺構は東西２条に分岐しているが、両者の前後関係は今回の調査においては確認できなかった。しかし、遺構の床面の標高をみてみると、遺構の北端部分で西側の方が東側に比べて0.22m低い。このことから、西側の方が先に開削されていたものが何らかの事情により東側に付け替えられた可能性が考えられるが、断定はできない。

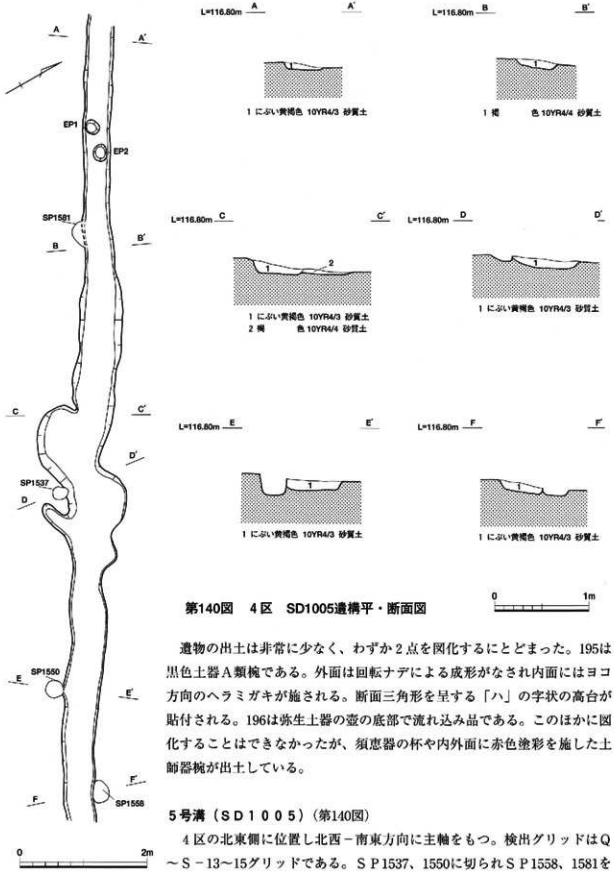
出土遺物はないが、ＳＲ１００１を挟んで本遺構の延長上に同一遺構の可能性が考えられるＳＤ１００１があることや、遺構規模や遺構断面形状がＳＤ１００３に類似しこれに切られることなどから本遺構はＳＤ１００３と同様な性格を持った区画溝であろうと考えられる。

3号溝（ＳＤ１００３）（第15・138・139図）

３区の東側に位置し調査区を南北に縦断する溝である。検出グリッドはＱ～Ｚ－27～29グリッドである。調査区の北側でＳＲ１００１を切り、ほぼ中央でＳＤ１００２を切る。遺構規模は検出長38m、幅はＳＤ１００２と切り合う最も広いところで1.1m、最も狭いところで0.18mを測る。深さはおおよそ0.3m前後を測る。遺構の床面は南側の調査区壁とぶつかる部分で標高110.99m、北側の自然流路ＳＲ１００１と切り合う部分で標高110.5mを測り、比高差約0.4mをもって南から北へ下る流水方向を示し、北東へ傾斜する地形と直交して等高線と平行する方向に開削されている。傾斜率約0.01%である。遺構断面形状は逆台形を呈する。

遺構覆土は３層に分層することができ、第１層が黒褐色を、第２層が暗褐色を、第３層が褐色を呈し上層になるほど黒みを帯びた色調を示す。いずれの層も砂質土が堆積しており、これら土質の状況からは恒常的な水の流れや滞水状況にあったことはうかがえない。各層とも炭化物を含んでいる。

また土層の観察から溝埋没後に再掘削した状況がみられ、第１層は再掘削後の堆積層を示すものと思われる。再掘削された溝はやや深い船底形もしくは逆台形を呈する遺構断面形状をもつ。加えて、いずれの観察地点でも再掘削後の遺構幅が狭くなっていた。しかし、出土遺物が非常に少ないために再掘削前後の時期差を特定できるまでには至っていない。

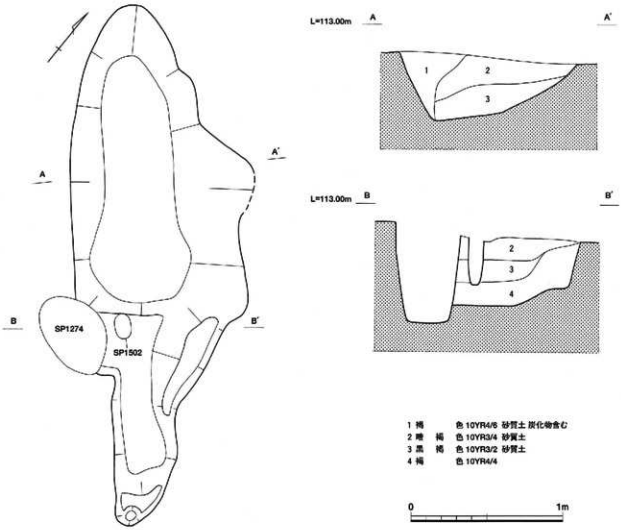


第140図　4区　SD1005遺構平・断面図

遺物の出土は非常に少なく、わずか2点を図化するにとどまった。195は黒色土器A類椀である。外面は回転ナデによる成形がなされ内面にはヨコ方向のヘラミガキが施される。断面三角形を呈する「ハ」の字状の高台が貼付される。196は弥生土器の壺の底部で流れ込み品である。このほかに図化することはできなかったが、須恵器の杯や内外面に赤色塗彩を施した土師器椀が出土している。

5号溝（SD1005）（第140図）

4区の北東側に位置し北西－南東方向に主軸をもつ。検出グリッドはQ～S－13～15グリッドである。SP1537、1550に切られSP1558、1581を切るが、調査区内でおさまる。遺構規模は検出長12.6m、最大幅は遺構中程



第141図　3区　SX1002遺構平・断面図

で南側にふくらみを見せる部分で1.2m、最小幅0.4mを測る。遺構深度はおおむね0.12mを測り、遺構の底は北西側で標高116.19m、南東側で標高116.1mを測ることから、北西から南東に向けての流水方向を示している。遺構断面形状は浅いレンズ状または逆台形を呈する。

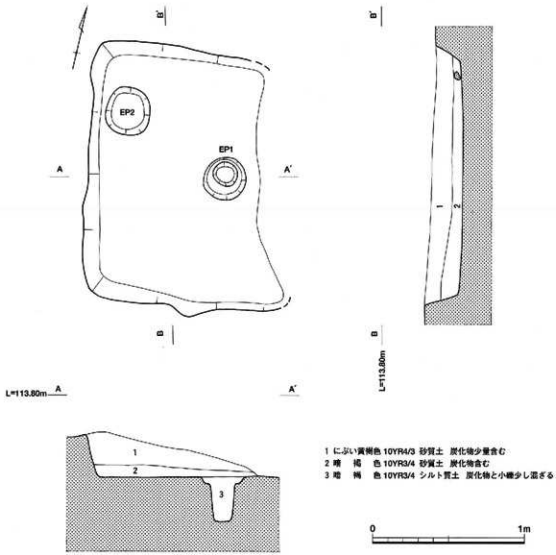
遺構覆土は2層に分層することができ、褐色およびにぶい黄褐色を呈する砂質土が堆積する。この溝の南東側延長上に自然流路ＳＲ１００１があるにもかかわらずその手前約3mのところで連結せずに終息していることと、この溝遺構周辺に掘立柱建物跡が存在しないことをあわせて考えると区画溝とは考えられず、小規模な排水を目的とした溝である可能性が高い。

遺物は小破片が数点出土したにとどまり、図化することはできなかった。

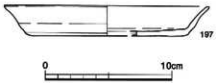
不明遺構（ＳＸ）

2号不明遺構（ＳＸ１００２）（第141図）

3区の中央やや南西側に位置する。検出グリッドはＴ－24・25グリッドである。ＳＡ１００９（ＳＰ１２７４）、ＳＰ１５０２に切られる。遺構規模は長軸3.40m、短軸0.3m、遺構最大深度0.45mを測る。



第142図　3区　SX1003遺構平・断面図

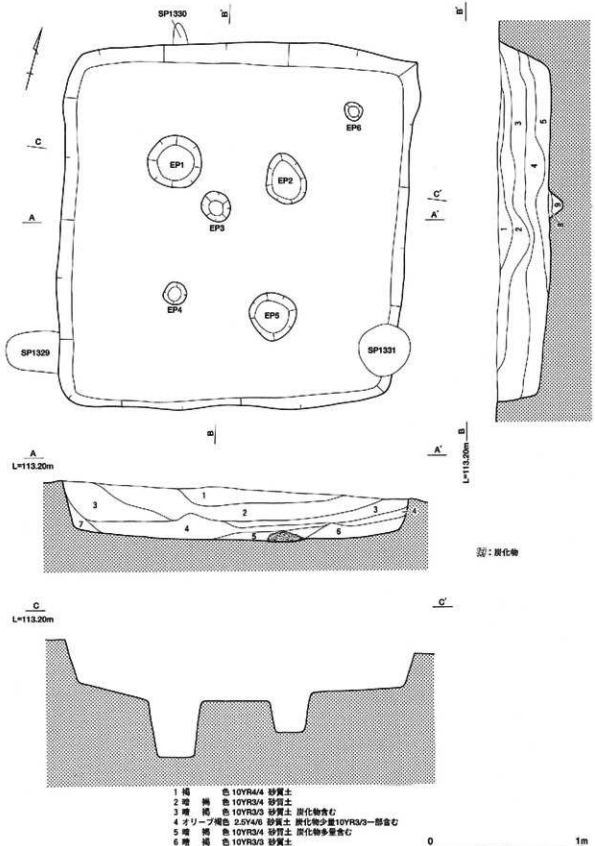


第143図　3区　SX1003出土遺物実測図

遺構平面形状は北西－南東に長軸をもち、南東側に突出するような不整形を呈する。遺構の南東側には2段のテラス状を呈する平坦部が形成されるが、機能的なものまでは判断できない。遺構断面形状は不整逆台形を呈する。

遺構覆土は4層に分層することができる。褐～暗・黒褐色を呈する砂質土が堆積し、B－B′断面では比較的安定した堆積が観察できた一方、A－A′断面ではやや乱れた堆積状況を示している。出土遺物もほとんどみられなかったことから、当該遺構の機能的なものは不明である。

遺物は小破片が出土したにとどまり、図化することができなかった。



第144図　3区　SX1004遺構平・断面図

3号不明遺構（ＳＸ１００３）（第142・143図）

3区の南側に位置する。検出グリッドはQ・R－25グリッドである。遺構の東側を後世のカクラン（現代）に破壊を受け、この破壊は床面にまでおよぶ。遺構規模は残存値で長軸1.72m、短軸1.13m、遺構深度0.29mを測る。遺構覆土は2層に分層することができ、にぶい黄褐色および暗褐色を呈する砂質土層が堆積する。遺構平面形状は方形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。また、遺構中央東寄りと北西コーナー付近に柱穴状の落ち込みを2基確認した。いずれも円形を呈し、遺構覆土は褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。ＥＰ１の掘り方は浅い位置で平坦部をもちそこから逆台形上に落ち込んでいくが、とくに柱痕跡などは確認できなかった。ＥＰ２も同様で掘り方は単純な逆台形を呈するが、柱痕跡などは確認できなかった。

このＳＸ１００３は一見すると竪穴住居跡状の掘り方を呈するが、遺構規模が小さすぎることと柱穴の配置に不足があることから居住のための施設ではなく、後述するＳＸ１００４と同様何らかの作業を行うための施設（小屋？）として捉えるべきものであろう。しかし、これらを特徴づける遺物の出土は見られなかったことから上記の機能を特定するまでには至っていない。

197は土師器の皿である。口径16.2cm、底径13.0cm、器高2.4cmを測る比較的大型の皿である。やや角度をもって開く口縁部は外反し、口縁端部は丸くおさめる。底部は回転ヘラ切りによる切り離しである。

出土遺物から遺構の時期は10世紀後半頃であろうと思われる。

4号不明遺構（ＳＸ１００４）（第144～146図）

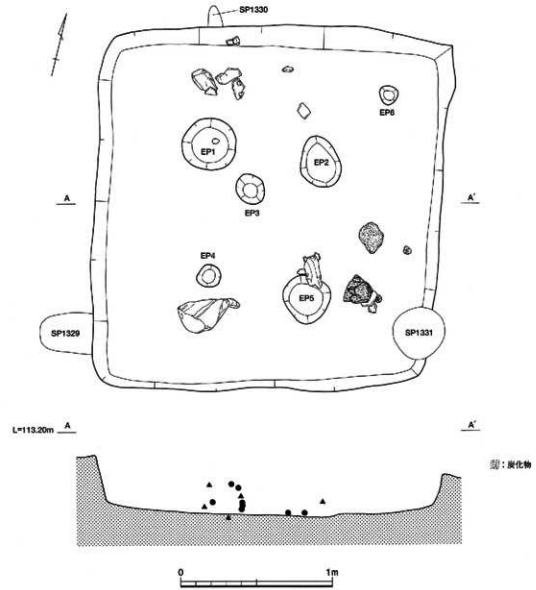
3区に南側に位置する。検出グリッドはQ・R－26・27グリッドである。遺構の南東コーナー部分をＳＡ１００１（ＳＰ１２３５）に切られ、南西コーナー部分でＳＰ１２３３を、そして北辺でＳＰ１２３４を切る。遺構規模は一辺が2.2～2.35mを測る方形を呈する。

遺構覆土は6層に分層することができる。いずれも暗褐色～オリーブ褐色を呈する砂質土が堆積しており、第5層の東側には炭化物が集中して堆積している様子が確認できた。この炭化物は周辺に被熱痕がみられないことからこの位置での火の使用があったことを示すものではなく、他の場所で火を使用し、そこで生じた炭化物を当遺構廃棄直後に一括して投棄したものと思われる。

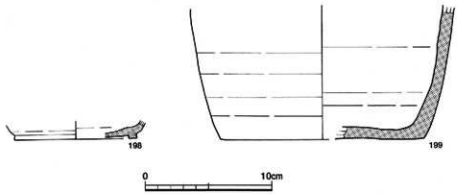
遺構内には6基の柱穴状の落ち込みがみられ、そのうちＥＰ１、ＥＰ２、ＥＰ５の3基（ないし4基：ＥＰ４）は竪穴住居跡の主柱穴に類似した遺構配置がうかがえる。遺構の掘り方は比較的深くしっかりしているものの、遺構規模が2.2×2.34mと小規模で竈を設けておらず火の使用痕もみられないことから居住空間とは考えにくい。加えて徳島県内では当該期には竪穴住居跡は消滅している時期に当たることなどから、当該遺構の性格的なものはＳＸ１００３と同様の簡易的な作業スペースとしてのものであろうと思われる。

遺物は、2点を図化することができた。198は須恵器の杯である。回転ヘラ切りによる切り離しののちに、台形状の短い高台を貼付する。199は須恵器の壺である。上半を欠損するが、底部は平底を呈し、ほぼ垂直に立ち上がる胴部をもつ。

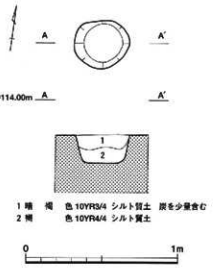
遺構の時期は出土遺物から9世紀半ば頃と考えられる。



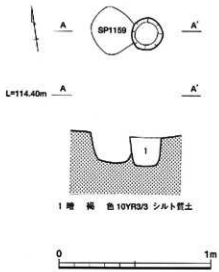
第145図　3区　SX1004遺物出土状況図



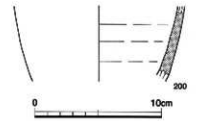
第146図　3区　SX1004出土遺物実測図



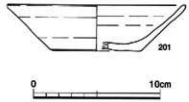
第147図　3区　SP1151遺構平・断面図



第149図　3区　SP1160遺構平・断面図

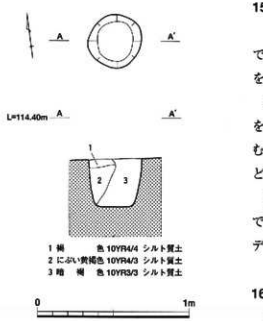


第148図　3区　SP1151出土遺物実測図



第150図　3区　SP1160出土遺物実測図

柱穴・小穴（ＳＰ）



第151図　3区　SP1167遺構平・断面図

151号小穴（ＳＰ１１５１）（第147・148図）

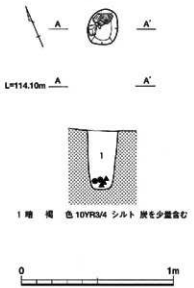
3区の南西側に位置する。検出グリッドはＳ－23グリッドである。遺構平面形状は円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.38m、遺構深度0.18mを測る。

遺構覆土は2層に分層することができ、褐色および暗褐色を呈するシルト質土が堆積する。第1層には炭化物を少量含む。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

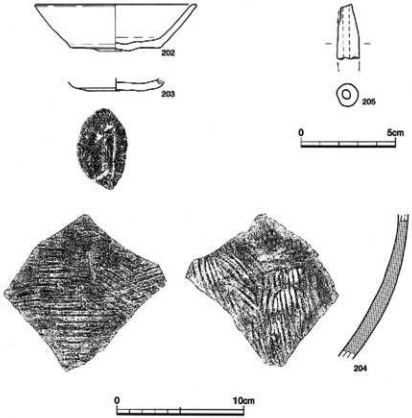
遺物は須恵器片が出土している。200は須恵器壺の胴部片である。胴部の立ち上がりは緩やかに開き、内外面を回転ナデで仕上げる。

160号小穴（ＳＰ１１６０）（第149・150図）

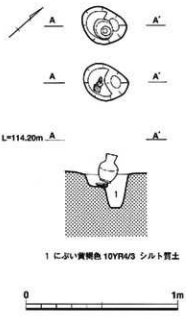
3区の南側に位置する。検出グリッドはＲ－23グリッドである。遺構西側でＳＰ１１５９を切る。遺構平面形状は円形



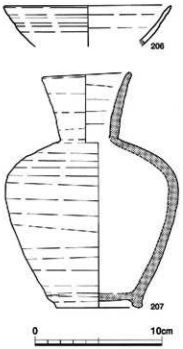
第152図　3区　SP1171
遺構平・断面図



第153図　3区　SP1171出土遺物実測図



第154図　3区　SP1172
遺構平・断面・遺物出土状況図



第155図　3区　SP1172出土遺物実測図

を呈し、遺構断面形状はやや深い逆台形を呈する。遺構規模は径0.21m、遺構深度0.19mを測る。

遺構覆土は暗褐色を呈するシルト質土層が堆積する単一層である。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物は土師器片が出土している。210は土師器の杯である。直線的に大きく開く立ち上がりをもち、口縁端部は丸くおさめる。底部は回転ヘラ切りによる切り離しである。口径14.0cm、器高3.6cmを測る。

167号小穴（ＳＰ１１６７）（第151図）

３区の南側に位置する。検出グリッドはQ－23グリッドである。遺構平面形状は円形を呈し、遺構断面形状はやや深い逆台形を呈する。遺構規模は径0.36m、遺構深度0.33mを測る。

遺構覆土は３層に分層することができ、第１層が褐色、第２層がにぶい黄褐色、第３層が暗褐色を呈し、土質はいずれもシルト質土が堆積している。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物は小破片が出土したにとどまり、図化することはできなかった。

171号小穴（ＳＰ１１７１）（第152・153図）

３区の南西側に位置する。検出グリッドはＲ－24グリッドである。遺構平面形状は北東－南西方向に主軸をもつ楕円形を呈し、遺構断面形状は深い逆台形を呈するが、底面は北側に向かって下る傾斜をもつ。遺構規模は径0.25m、遺構深度0.31mを測る。

遺構覆土は暗褐色を呈するシルト質土が堆積する単一層である。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。しかし、遺構北側の底には土器片と礫がまとめられて出土していることから、柱の抜き取り後にこれらの遺物が埋納された可能性も考えられるが断定するまでには至っていない。

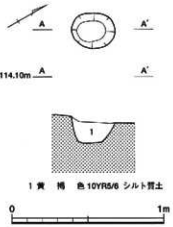
遺物は遺構の底直上に礫とともに集中して出土している。202、203は土師器の杯である。202は大きく直線的に開く立ち上がりをもち、口縁端部は丸くやや尖り気味におさめる。底部は両者とも回転ヘラ切りによる切り離しで203にはヘラ圧痕が残る。204は須恵器の甕片である。内耳しながら立ち上がる胴部片で、内面にも当て具痕が明瞭に残る。205は管状土錘である。約１／２を欠損する。ナデ調整で、黒斑をもつ。残存している端部には弱い縄ずれ痕があり、軽度の使用があったことがうかがえる。

172号小穴（ＳＰ１１７２）（第154・155図）

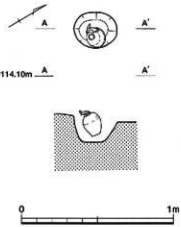
３区の南西側に位置する。検出グリッドはＲ－24グリッドである。遺構平面形状は北東－南西方向に長軸をもつ楕円形を呈し、南西側にはテラス状の平坦部分をもつ。遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は長軸0.3m、遺構最大深度0.23mを測る。

遺構覆土はにぶい黄褐色を呈するシルト質土が堆積する単一層である。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

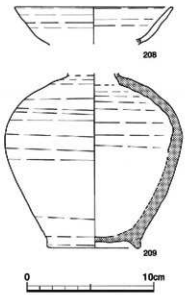
遺物は完形の須恵器甕を南西に15°傾けた状態で遺構中央に安置し、その直下の遺構テラス部分からは土師器杯片が出土している。当該遺構は掘立柱建物跡を構成する柱穴ではなく、また確認し得た掘立柱建物跡の一部を構成するものではないが可能性としては何らかの祭祀行為に伴う埋納がされたものと考えられる。遺構上面は削平を受けており、甕の上半部が遺構検出面よりも高いレベルで確認された。



第156図　3区　SP1173遺構平・断面図



第157図　3区　SP1173遺物出土状況図



第158図　3区　SP1173出土遺物実測図

おそらく壺が完全に埋没する状態で埋納されていたと考えられるが、確認できない。

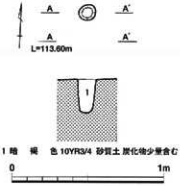
206は土師器の杯である。ほぼ直線的にのびる立ち上がりをもち、口縁端部はやや尖り気味に丸くおさめる。口径は復元値で13.2cmを測る。207は須恵器の壺である。緩やかに外反しながら立ち上がる口縁部をもち、口縁端部は丸くおさめる素口縁である。最大径を肩部にもち、回転ヘラ切りによる切り離しの後低く太い高台を貼付する。遺構の時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀頃に比定されるであろう。

173号小穴（ＳＰ１１７３）（第156～158図）

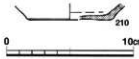
3区の南西側に位置する。検出グリッドはQ－25グリッドである。遺構平面形状は北東－南西に主軸をもつ楕円形を呈する。遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.32m、遺構深度0.15mを測る。

遺構覆土は黄褐色を呈する砂質土層が堆積する単一層である。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。遺物は須恵器壺と土師器杯が1点ずつ遺構のやや南東側に寄った状態で出土している。壺は口頸部を欠損し中軸を南西に24°傾け遺構床面より7cm浮いている。壺の肩部には底部が欠損した杯が乗せられるようにして出土しており、壺の口に蓋をしていたものがずれ落ちたものか。当該遺構は前述したＳＰ１１７２の北西側の近いところに位置しているが、両者をあわせても掘立柱建物跡を構成するような配置にはならず、また確認し得た掘立柱建物跡の一部を構成するものではない。しかし何らかの祭祀行為に伴う埋納がされたものと考えられる可能性が大きい。遺構の上面は削平を受けており、壺の肩部以上が検出レベルよりも高い位置で確認された。おそらく壺が完全に埋没する状態で埋納されていたと考えられるが、確認できない。

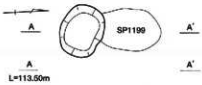
208は土師器の杯である。わずかに外反する立ち上がりをもち、口縁端部は丸くおさめる。口径12.5cmを測る。209は須恵器の壺である。頸部以下が残存しており、プロポーションはＳＰ１１７２から出土した207の須恵器壺に似る。底部は回転ヘラ切りによる切り離しで、低い「ハ」の字状の高台を貼付する。

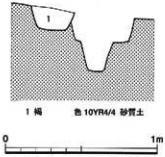


第159図 3区 SP1192
遺構平・断面図

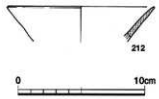


第160図 3区 SP1192
出土遺物実測図

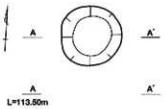


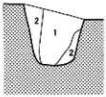


第161図 3区 SP1200遺構平・断面図

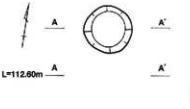


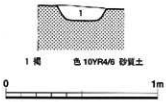
第162図 3区 SP1200
出土遺物実測図



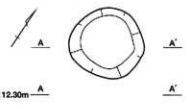


第163図 3区 SP1202
遺構平・断面図





第164図 3区 SP1209
遺構平・断面図



第165図 3区 SP1251
遺構平・断面図

遺構の時期は出土遺物から８世紀後半～９世紀頃に位置づけられる。

192号小穴（ＳＰ１１９２）（第159・160図）

３区の南西側に位置する。検出グリッドはＳ・Ｔ－22グリッドである。遺構平面形状は円形を呈し、遺構断面形状は深い船底形を呈する。遺構規模は径0.12m、遺構深度0.24ｍを測る。

遺構覆土は暗褐色を呈する砂質土が堆積する単一層で、炭化物を少量含んでいた。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

出土遺物は１点を図化することができた。210は底部のみが残存している須恵器の杯である。底部は回転切り離しによる切り離しである。焼成はあまり良くない。

200号小穴（ＳＰ１２００）（第161・162図）

３区の南側に位置する。検出グリッドはＳ－25グリッドである。遺構の東側でＳＰ１１９９を切る。遺構平面形状はややいびつな円形を呈する。遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.35m、遺構深度0.18ｍを測る。

遺構覆土は褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物は２点を図化することができた。211は黒色土器Ａ類椀である。内面にはやや幅広のヘラミガキがヨコ方向を主体として若干乱雑に施される。底部は回転ヘラ切りによる切り離しの後に高台が貼付されていたと思われる。212は須恵器の杯である。直線的に開く立ち上がりをもち、口縁端部は尖り気味におさめる。調整は内外面ともにヨコナデである。

202号柱穴（ＳＰ１２０２）（第163図）

３区の南側に位置する。検出グリッドはＳ－25グリッドである。遺構平面形状は円形を呈する。遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.44m、遺構深度0.37ｍを測る。

遺構覆土は２層に分層することができいずれも暗褐色を呈する砂質土が堆積する。土層の観察においては、柱痕跡と思われる堆積が観察でき、第１層がこれに相当する。

遺物は図化することはできなかったが須恵器の杯片が出土している。

209号小穴（ＳＰ１２０９）（第164図）

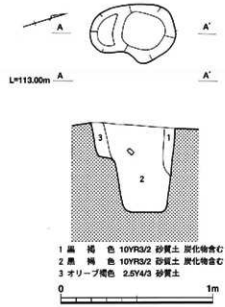
３区の南側に位置する。検出グリッドはＲ－24グリッドである。遺構平面形状は円形を呈する。遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.32m、遺構深度0.08ｍを測る。

遺構覆土は褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

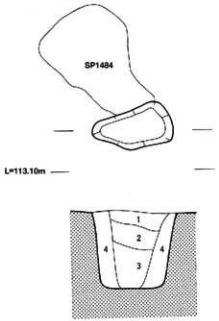
遺物は図化することはできなかったが土師器の甕や皿の小破片が出土している。

251号小穴（ＳＰ１２５１）（第165図）

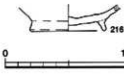
３区の中央に位置する。検出グリッドはじ－25グリッドである。遺構平面形状は円形を呈する。遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.5m、遺構深度0.42ｍを測る。



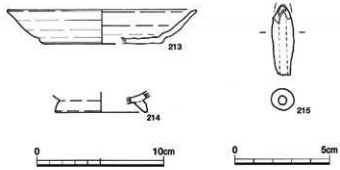
第166図　3区　SP1271遺構平・断面図



第168図　3区　SP1277遺構平・断面図



第169図　3区　SP1277出土遺物実測図



第167図　3区　SP1271出土遺物実測図

遺構覆土は6層に分層することができ、色調は全体的に暗褐色～黄褐色を呈する。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

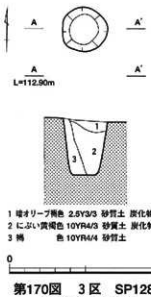
遺物は図化することはできなかったが須恵器の杯片が出土している。

271号小穴（ＳＰ１２７１）（第166・167図）

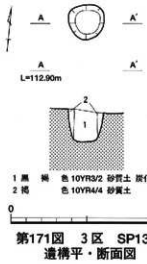
3区の中央やや南よりに位置する。検出グリッドはT－25グリッドである。遺構平面形状は南北に長軸をもついびつな楕円形を呈し、東側の上端は括れる。遺構の掘りかたは南側に幅の狭いテラス部分をもつ2段構成になっており、主部分では逆台形を呈する。遺構規模は長軸0.55m、遺構深度0.58mを測る。

遺構覆土は3層に分層することができた。黒褐色～オリーブ褐色を呈する砂質土が堆積し1・2層には炭化物が含まれていた。また、土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

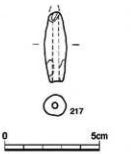
遺物は主に第2層から出土している。213は土師器の杯である。内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。口縁端部はやや尖り気味ながらも丸くおさめる。底部は回転ヘラ切りによる切り離しで、円盤状の底部の上面端部に粘土紐を巻き上げて成形したものと思われる。214は土師器椀の高台部分の残存である。外方に開く断面三角形の高台を貼付する。内外面ともに赤色塗彩を施す。215は土師質の管状土錘である。片方の端部を欠損する。焼成はあまり良くない。



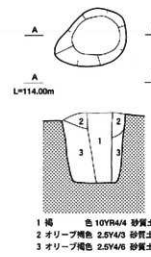
第170図　3区　SP1284
遺構平・断面図



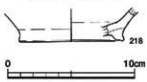
第171図　3区　SP1372
遺構平・断面図



第172図　3区　SP1372
出土遺物実測図



第173図　3区　SP1503
遺構平・断面図



第174図　3区　SP1503
出土遺物実測図

277号小穴（ＳＰ１２７７）（第168・169図）

3区の南側に位置する。検出グリッドはＳ－25グリッドである。遺構の北側がＳＰ１４８４を切る。遺構平面形状はいびつな楕円形を呈する。遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.56m、遺構深度0.48mを測る。

遺構覆土は4層に分層することができ、黒褐色～暗オリーブ褐色を呈する砂質土が堆積している。2層には炭化物が含まれていた。土層の観察において、1～3層が柱の抜き取り痕のような印象を受けたが断定するまでには至っていない。

遺物は1点を図化することができた。216は土師器の椀である。外方に開き、断面は薄い方形を呈する高台を貼付する。底面はやや丸みをもつ。

284号小穴（ＳＰ１２８４）（第170図）

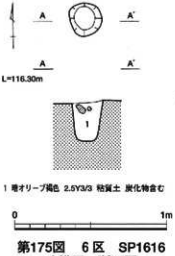
3区の中央やや南よりに位置する。検出グリッドはＴ－25グリッドである。遺構平面形状は円形を呈する。遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.3m、遺構深度0.34mを測る。

遺構覆土は3層に分層することができ、いずれも褐色系の色調を呈する砂質土が堆積する。1・2層中には炭化物が含まれていた。また、土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

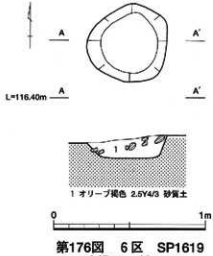
出土遺物は小破片のみであり、図化することはできなかった。

372号柱穴（ＳＰ１３７２）（第171・172図）

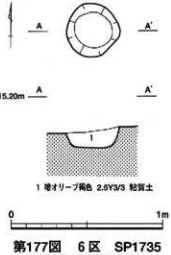
3区の南側に位置する。検出グリッドはＱ－28グリッドである。遺構平面形状はわずかにいびつな円形を呈する。遺構断面形状はやや丸みをもった逆台形を呈する。遺構規模は径0.25m、遺構深度0.2mを測る。



第175図　6区　SP1616
遺構平・断面図



第176図　6区　SP1619
遺構平・断面図



第177図　6区　SP1735
遺構平・断面図

遺構覆土は2層に分層することができ、いずれも褐色系を呈する砂質土が堆積する。また、第1層が土層の堆積状況から柱の抜き取り痕を示すものと思われる。当該遺構はＳＡ１００１の南東側に位置しているが、柱穴の配置から建物との関連性は求められない。調査区外へ延びる建物の一部を構成するものであろうか。

217は土師質の管状土錘である。上端を欠損する。ユビオサエを顕著に残す捏ね成形である。

503号柱穴（ＳＰ１５０３）（第173・174図）

3区の南西側に位置する。検出グリッドはＳ－23グリッドである。遺構平面形状は北東－南西方向に長軸をもつ卵形を呈する。遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は長軸0.51m、遺構深度0.44mを測る。

遺構覆土は3層に分層することができ、褐色～オリーブ褐色を呈する砂質土が堆積する。また、第1層は柱痕跡である状況が観察できた。当該遺構はＳＡ１００３の西側に位置しているが、柱穴の配置から建物との直接の関連性は求められない。または柵列の一部を構成するものの可能性も考えられる。

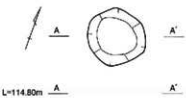
遺物は1点を図化することができた。218は土師器の椀である。還元炎焼成されており胎土は灰黄色の色調を呈し須恵器に近いが、プロポーションや調整は土師器椀のものである。断面が方形を呈する低い高台を貼付する。

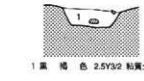
616号小穴（ＳＰ１６１６）（第175図）

6区の南側に位置する。検出グリッドはＪ－71グリッドである。遺構平面形状は円形を呈する。遺構断面形状はやや丸みをもった逆台形を呈する。遺構規模は径0.24m、遺構深度0.25mを測る。

遺構覆土は暗オリーブ褐色を呈する粘質土が堆積する単一層である。また、層上位には若干の地山礫が混じっていたほか炭化物を含んでいた。なお、土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

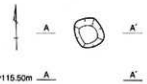
遺物は図化することはできなかったが、土師器の甕と思われる小破片が出土している。



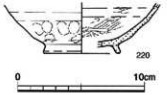


第178図　6区　SP1745遺構平・断面図

第179図　6区　SP1745出土遺物実測図



第180図　6区　SP1754遺構平・断面図



第181図　6区　SP1754出土遺物実測図

619号小穴（ＳＰ１６１９）（第176図）

6区の南側に位置する。検出グリッドはＪ－71グリッドである。遺構平面形状はややいびつな円形を呈する。遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.55m、遺構深度0.13mを測る。

遺構覆土はオリーブ褐色を呈する砂質土が堆積する単一層で、地山礫をやや多く含んでいた。また、土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物は図化することはできなかったが格子タタキをもつ土師器の甕片が出土している。

735号小穴（ＳＰ１７３５）（第177図）

6区の南西側に位置する。検出グリッドはＩ－68グリッドである。遺構平面形状はいびつな円形を呈する。遺構断面形状はやや丸みをもった逆台形を呈する。遺構規模は径0.37m、遺構深度0.11mを測る。遺構覆土は暗オリーブ褐色を呈する粘質土が堆積する単一層である。また、土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

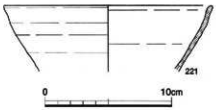
遺物は図化することはできなかったが土師器の甕片が出土している。

745号小穴（ＳＰ１７４５）（第178・179図）

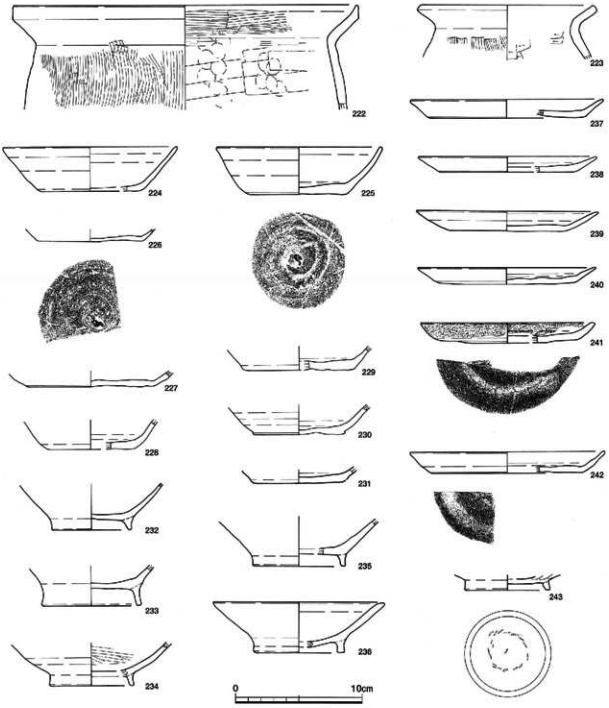
6区の西側に位置する。検出グリッドはＫ－67・68グリッドである。遺構平面形状はややいびつな円形を呈する。遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.4m、遺構深度0.13mを測る。

遺構覆土は黒褐色を呈する粘質土が堆積する単一層である。また、土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

出土遺物は1点を図化することができた。221は土師器の椀である。口径は復元値で16.3cmを測り、



第182図　2区　包含層出土遺物実測図



第183図　3区　包含層出土遺物実測図（1）

わずかに内彎する立ち上がりをもち、口縁端部は丸みをもっておさめる。わずかではあるが底部外面に高台を貼付した痕跡を残す。

754号小穴（ＳＰ１７５４）（第180・181図）

6区の西側に位置する。検出グリッドはK－69グリッドである。遺構平面形状は円形を呈する。遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.22m、遺構深度0.14mを測る。

遺構覆土は暗オリーブ褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。また、土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

出土遺物は1点を図化することができた。222は和泉系の瓦器椀である。外面下半部の調整にはユビオサエによる指頭圧痕が顕著に残り、内面はハケを施したのちに主にヨコ方向のヘラミガキを施す。貼り付け高台は「ハ」の字状に開き、断面が凵字状を呈する。

遺構の年代は出土遺物から12世紀後半頃と考えられる。

包含層出土遺物（第182～189図）

包含層から出土した遺物は当該期のものが多く、さらに3区に集中している傾向にある（第183～185図）。それも前項でふれた弥生時代の包含層出土遺物に対して調査区の北西側に位置する自然流路よりも南東側に多く出土している。つまり調査区の南東側には掘立柱建物跡群をはじめとして該期の遺構が3区に集中しており、屋敷地を形成していることと符合する。くわえて土師器、須恵器にかかわらず供膳具が圧倒的に多いことは屋敷地における生活状況を反映しているものと思われる。

以下調査区ごとの主だった遺物についてふれていくことにする。それによりそれぞれの調査区において遺物の疎密が反映され、当時の生活範囲がある程度推定できる一助になると考えられる。

1区においては図化できるような当該期の遺物は出土していない。

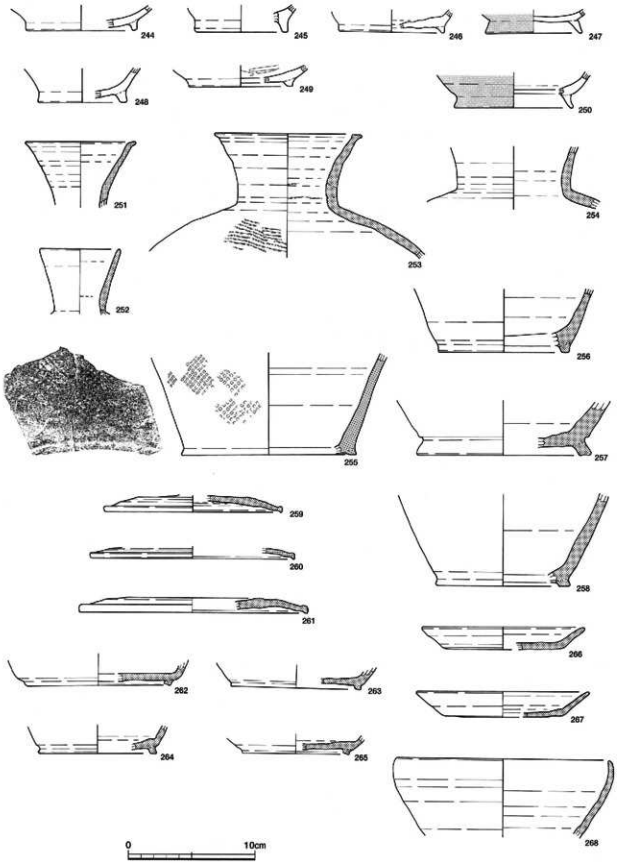
2区は1点の遺物を図化することができた。221は須恵器の椀である。わずかに内彎する立ち上がりをもち、口縁端部は丸みをもっておさめる。

3区は68点の遺物を図化することができた。222、223は土師器の甕である。両者とも口縁部のみの残存であるが、大型の222と小型の223が出土している。224～231は土師器の杯である。完形に復元できるものは2点にとどまった。232～236、244～250は土師器の椀である。237～242は土師器の皿である。251～258は須恵器の壺である。259～261は須恵器の蓋である。262～265は須恵器の椀である。266、267は須恵器の皿である。268は須恵器の鉢である。269～285は須恵器の杯である。286～288は管状土錘である。289は石製巡方である。

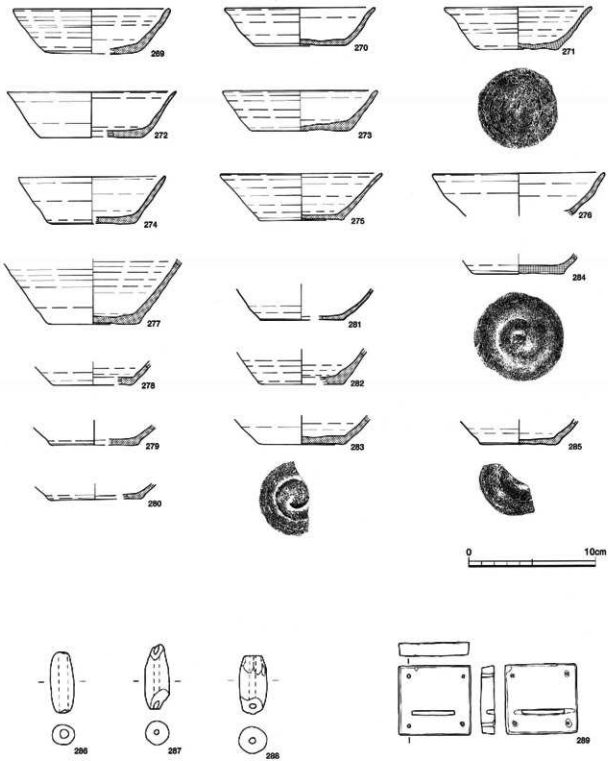
4区は4点の遺物を図化することができた。290は須恵器の杯である。291は須恵器の椀である。292は須恵器の皿である。293は鉄刀である。

5区は3点の遺物を図化することができた。294は須恵器の壺である。295、296は須恵器の椀である。

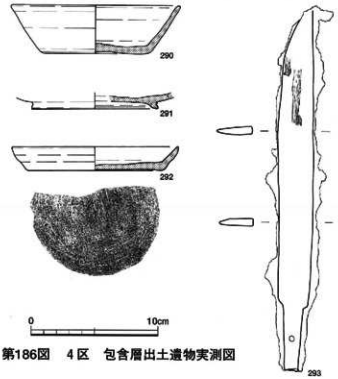
6区は30点の遺物を図化することができた。297～299は土師器の甕である。300～304は黒色土器A類椀である。305～307は須恵器の壺である。308～311は須恵器の蓋である。312～319、323～326は須恵器の椀である。320～322は須恵器の杯である。



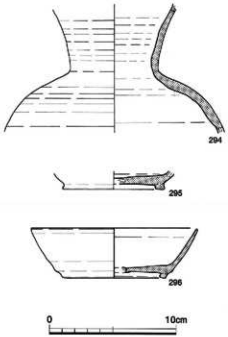
第184図　3区　包含層出土遺物実測図（2）



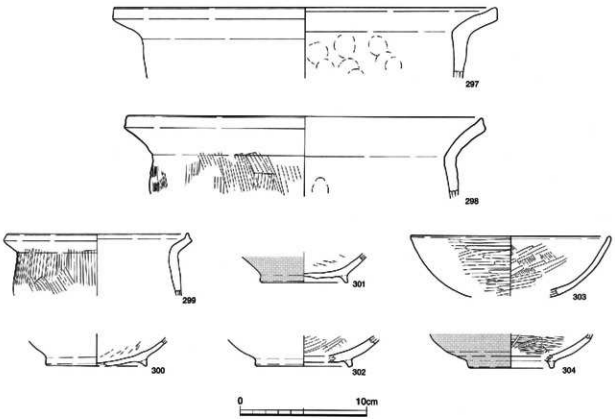
第185図　3区　包含層出土遺物実測図（3）



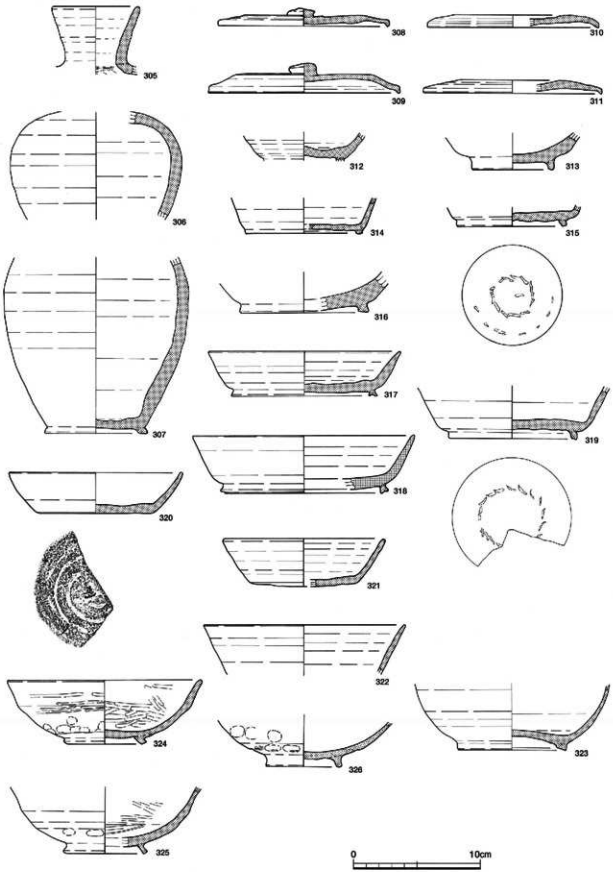
第186図　4区　包含層出土遺物実測図



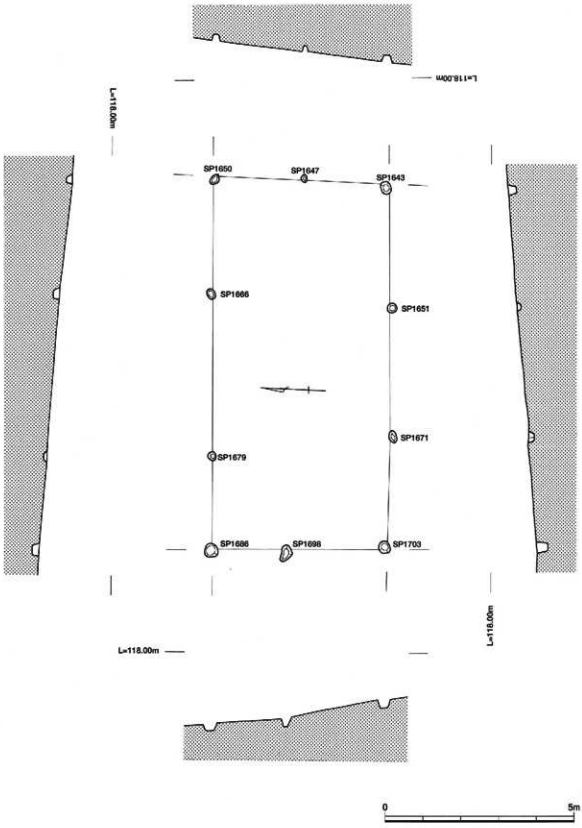
第187図　5区　包含層出土遺物実測図



第188図　6区　包含層出土遺物実測図（1）



第189図　6区　包含層出土遺物実測図（2）



第190図　6区　SA1014遺構平・断面図

（3）中世（第18～20図）

中世の遺構および遺物は3区と6区を中心に検出されており、その中でも包含層出土遺物を含めて6区に集中する傾向があるという状況が確認できた。

1区～7区の調査地全体での検出遺構数は掘立柱建物跡9棟、土坑16基、溝1条、柱穴・小穴26基の合計52基にのぼる。

掘立柱建物跡（ＳＡ）

当該期の掘立柱建物跡は全て6区に集中して検出された。さらに6区の中でも比較的遺構が密集している中央部やや北寄りに位置している。この6区北側の建物が集中している範囲を屋敷地3とする。これらの建物の中では主軸を約60°～70°前後東へ傾けるものが比較的多くみられるが、配列を意識したような遺構配置は見られない。また、柱穴の掘り方も平面形が円形を呈するものが主体で、さほど規模も大きくない。

ところが、元々掘立柱建物跡に直接伴う遺物は少ないが、今回確認された建物のほとんどは柱穴内に遺物を伴っていない。よって遺構の時期を特定できる要素が無いものについては、遺構が確認された周辺の包含層出土遺物において出土量の多い時期が建物のおおよその時期を示すものとして推測した。

14号掘立柱建物跡（ＳＡ１０１４）（第190図）

6区の南西側、屋敷地3の南西隅に位置する。検出グリッドはＥ・Ｆ－67～69グリッドである。遺構の規模は桁行3間×梁間2間を測る側柱式である。主軸はＮ－87°－Ｅを向き、ＳＡ１０１７とほぼ同じ方向を示す。当該建物1棟のみがほかの建物群から離れた位置にあり、もっとも近いＳＡ１０１５まで26mの距離にある。柱間距離は桁行側で326.7cmを測り、床面積は45.08m²を測る。

各柱穴の平面形状はややいびつなものもあるがおおむね円形もしくは楕円形を呈し、いずれも規模が比較的小さい。遺構断面形状はいずれも逆台形を呈する。また、土層観察の結果、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは確認できなかった。

遺構に伴う遺物の出土はなかった。

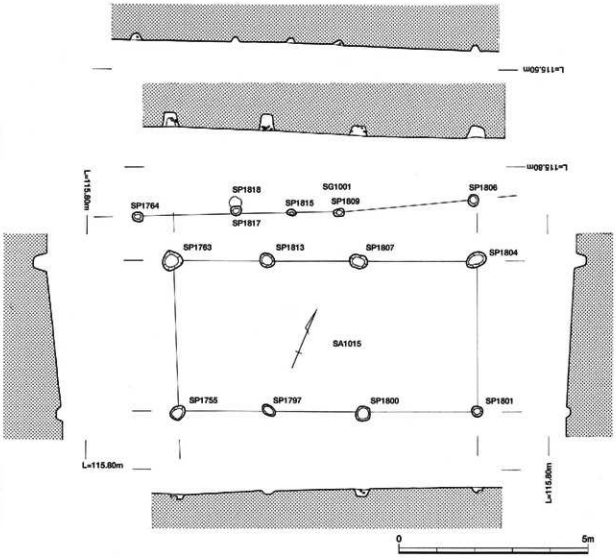
15号掘立柱建物跡・1号柵列（ＳＡ１０１５・ＳＧ１００１）（第191～195図）

6区の中央、屋敷地3のやや南西寄りに位置する。検出グリッドはＫ～Ｍ－69～71グリッドである。遺構の規模は桁行3間×梁間1間を測り、遺構の形状は側柱式である。主軸はＮ－67°－Ｅを向き、ＳＡ１０１６、１０１８、１０１９、１０２０、１０２１、１０２２とほぼ同方向を示す。柱間距離は桁行側では平均値で266.7cmを測り、床面積は32.48m²を測る。

各柱穴の平面形状は円形もしくは楕円形を呈する。遺構断面形状はいずれも逆台形を呈する。また土層観察の結果、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡は確認できなかった。

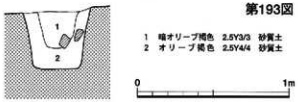
建物の北側には直線的にのびる柵列が伴う。主軸は東西方向にもち、4間の柱間距離は一定していない。また、柵列の一部を構成するＳＰ１８１７がＳＡ１０１８の南東角の柱穴（ＳＰ１８１８）を切る。この切り合い関係からみてＳＡ１０１５がＳＡ１０１８より新しい。

遺物はＳＰ１７６３より2点、ＳＰ１８０７より11点の計13点を図化することができた。327～329、331～337は土師器の皿である。いずれも回転台を用いた回転ナデ成形で、底部の切り離しは回転ヘラ切

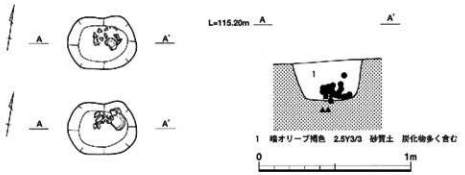


第191図　6区　SA1015・SG1001遺構平・断面図

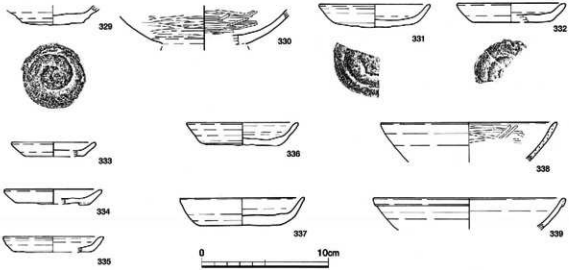
第193図　6区　SP1763出土遺物実測図



第192図　6区　SP1763遺構平・断面図



第194図　6区　SP1807遺構平・断面・遺物出土状況図



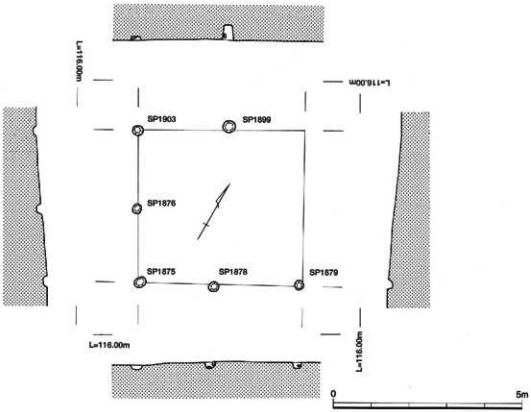
第195図　6区　SP1807出土遺物実測図

りによる切り離しである。立ち上がりは直線的に大きく開くものが主体となるが、内彎させる327などもある。また口縁端部は327、331、332、334、335、336のようにやや厚みをもたせ丸みをもっておさめるものと328、333、337のように薄く尖り気味におさめるものがある。329は底部のみの残存であるが、土師器の杯である。底部は回転糸切りによる切り離しである。330は黒色土器のA類椀である。内外面ともにヨコ方向のヘラミガキで仕上げる。338は瓦器椀である。外面はヨコナデを施し、内面は主にヨコ方向のヘラミガキで仕上げる。また内彎する立ち上がりをもち、口縁端部はやや尖り気味におさめるものの若干厚みをもたせる。339は瀬戸焼の陶器椀である。口縁部は外方に折り曲げる。

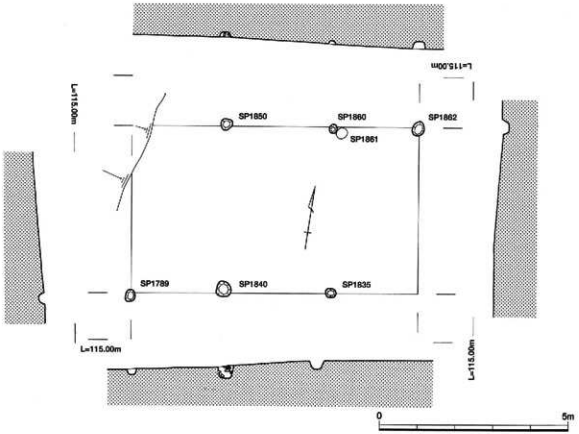
16号掘立柱建物跡（ＳＡ１０１６）（第196図）

6区の中央やや東より、屋敷地3のやや北東寄りに位置する。検出グリッドはM・N－71・72グリッドである。遺構の規模は桁行2間×梁間2間を測り、遺構の形状は側柱式である。主軸はN－60°－Eを向き、ＳＡ１０１５、１０１８、１０１９、１０２０、１０２１、１０２２とほぼ同方向を示す。柱間距離は桁行側では平均値で212.5cmを測り、床面積は17m²を測る。

各柱穴の平面形状は円形もしくは楕円形を呈する。遺構断面形状はいずれも逆台形を呈する。また土層観察の結果、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡は確認できなかった。



第196図　6区　SA1016遺構平・断面図



第197図　6区　SA1017遺構平・断面図

遺物はいずれの柱穴からも出土しなかった。

17号掘立柱建物跡（ＳＡ１０１７）（第197図）

６区の西側、屋敷地３の西端に位置する。検出グリッドはＭ・Ｎ－67～69グリッドである。建物の北西角にあたる部分が調査区外に位置する。遺構規模は桁行３間×梁間１間を測り、建物の形状は側柱式である。主軸はＮ－82°－Ｅを向き、ＳＡ１０１４とほぼ同じ方向を示す。柱間距離は桁行側の平均値で253.3cm、床面積は33.44m²を測る。

各柱穴の平面形状は円形を呈する。柱穴内の土層観察を行った結果、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは確認できなかった。

遺物はいずれの柱穴からも出土しなかった。

18号掘立柱建物跡（ＳＡ１０１８）（第198図）

６区の西側、屋敷地３の西側に位置する。検出グリッドはＬ・Ｍ－67～69グリッドである。遺構の規模は桁行３間×梁間１間を測り、遺構の形状は側柱式である。主軸はＮ－63°－Ｅを向き、ＳＡ１０１５、１０１６、１０１９、１０２０、１０２１、１０２２とほぼ同方向を示す。柱間距離は桁行側では平均値で276.7cmを測り、床面積は32.37m²を測る。

各柱穴の平面形状は円形もしくは楕円形を呈する。遺構断面形状はいずれも逆台形を呈する。また土層観察の結果、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡は確認できなかった。建物の南東隅にあたるＳＰ１８１８が、ＳＡ１０１５に伴う柵列ＳＧ１００１のＳＰ１８１７に切られる。この切り合い関係からみてＳＡ１０１５がＳＡ１０１８より新しい。

遺物はいずれの柱穴からも出土しなかった。

19号掘立柱建物跡（ＳＡ１０１９）（第199図）

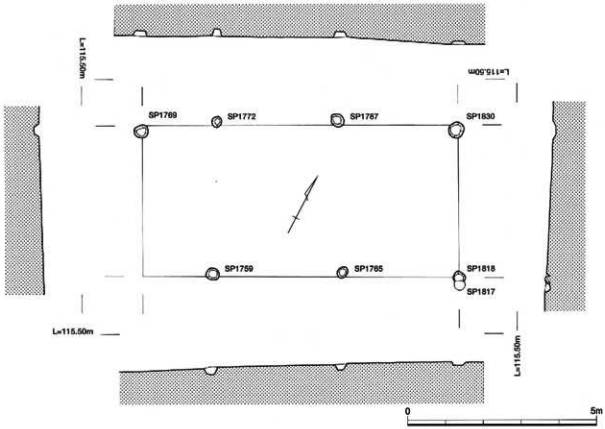
６区の中央やや北東より、屋敷地３のやや北東寄りに位置する。検出グリッドはＯ・Ｐ－70～72グリッドである。建物の北西側がＳＡ１０２０と重複する。遺構規模は桁行２間×梁間１間を測り、建物の形状は側柱式である。主軸はＮ－63°－Ｅを向き、ＳＡ１０１５、１０１６、１０１８、１０２０とほぼ同じ方向を示し、大まかにはＳＡ１０２１、１０２２とも主軸方向が一致する。柱間距離は桁行側では平均値で237cmを測り、床面積は15.41m²を測る。ＳＡ１０２１、１０１６に次いで小型の掘立柱建物跡である。

各柱穴の平面形状は円形もしくは楕円形を呈する。柱穴の断面観察を行った結果、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは確認できなかった。

遺物はいずれの柱穴からも出土しなかった。

20号掘立柱建物跡（ＳＡ１０２０）（第200図）

６区の中央、屋敷地３の中央北よりに位置する。検出グリッドはＮ～Ｐ－68～71グリッドである。建物の南東側がＳＡ１０１９と重複する。遺構の規模は桁行３間×梁間２間を測り、遺構の形状は側柱式である。主軸はＮ－67°－Ｅを向き、ＳＡ１０１５、１０１６、１０１８、１０１９、１０２１、１０２２とほぼ同方向を示す。柱間距離は桁行側では平均値で256.7cmを測り、梁間側では平均値で240cmを測る。床面積は36.96m²を測る。



第198図　6区　SA1018遺構平・断面図

各柱穴の平面形状は円形もしくは楕円形を呈し、建物の北東隅にあたる柱穴のみ遺構規模が飛び抜けて大きい。遺構断面形状はいずれも逆台形を呈する。また土層観察の結果、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡は確認できなかった。

遺物はいずれの柱穴からも出土しなかった。

21号掘立柱建物跡・2号柵列（ＳＡ１０２１・ＳＧ１００２）（第201図）

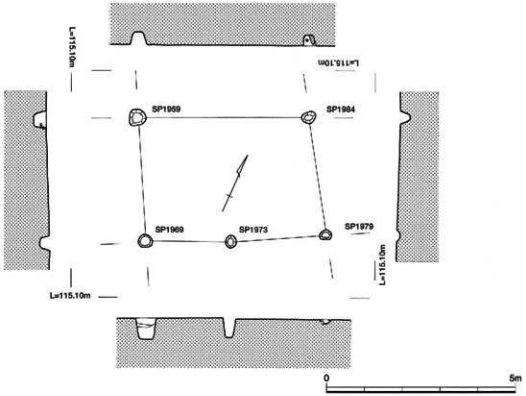
6区の東側、屋敷地3の北東端に位置する。検出グリッドはＰ・Ｑ－72・73グリッドである。遺構の規模は桁行2間×梁間1間を測り、建物の形状は側柱式である。主軸はＮ－71°－Ｗを向き、ＳＡ１０２２とほぼ同方向を示し、大まかにはＳＡ１０１５、１０１６、１０１８、１０１９、１０２０とも主軸方向が一致する。柱間距離は桁行側では平均値で215cmを測り、床面積は10.84m²を測る比較的小型の掘立柱建物跡である。

各柱穴の平面形状は円形もしくは楕円形を呈する。柱穴の断面観察を行った結果、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは確認できなかった。

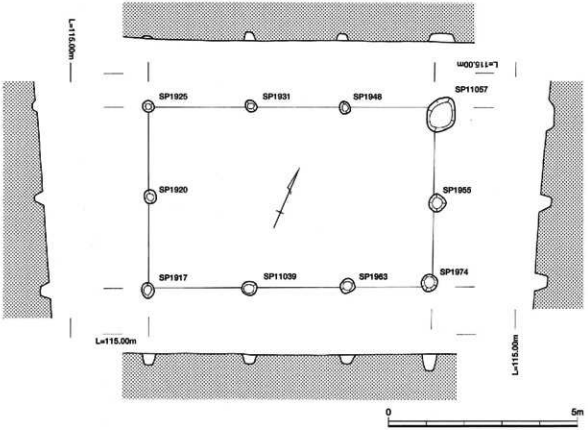
またこの建物の北・西辺には、「Ｌ」字型に延びる柵列が構築される。柱間距離は一定しておらず、柱穴の規模にも若干のばらつきがある。南北に延びる柵列がＳＫ１０５５、１０５６と重複しており、柱間距離を考慮すると当該遺構はＳＫ１０５５、１０５６に切られる可能性が考えられる。

ＳＡ１０２１に伴うと考えられるＳＧ１００２がＳＡ１０２２の南東角の柱穴ＳＰ１１０１７を切ることから、ＳＡ１０２２よりもＳＡ１０２１の方が時期的に新しいと考えられる。

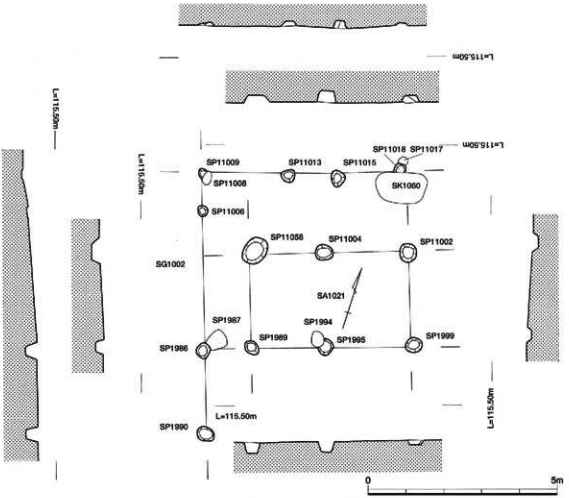
遺物はいずれの柱穴からも出土しなかった。



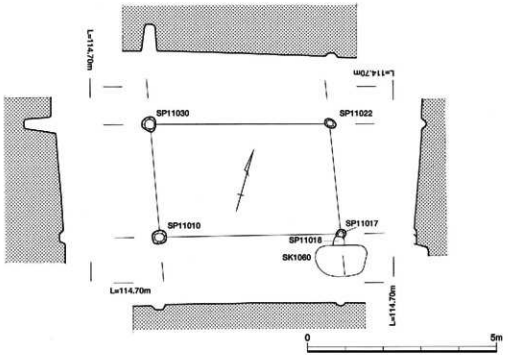
第199図　6区　SA1019遺構平・断面図



第200図　6区　SA1020遺構平・断面図



第201図　6区　SA1021・SG1002遺構平・断面図



第202図　6区　SA1022遺構平・断面図

22号掘立柱建物跡（ＳＡ１０２２）（第202図）

６区の東側、屋敷地３の北東端に位置する。検出グリッドはＰ・Ｑ－71・72グリッドである。遺構規模は桁行１間×梁間１間を測り、建物の形状は側柱式である。主軸はＮ－74°－Ｅを向き、ＳＡ１０２１とほぼ同方向を示し、大まかにはＳＡ１０１５、１０１６、１０１８、１０１９、１０２０とも主軸方向が一致する。床面積は10.84m²を測る比較的小型の掘立柱建物跡である。

各柱穴の平面形状は円形もしくは楕円形を呈する。柱穴の断面観察を行った結果、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは確認できなかった。

当該遺構の南東角の柱穴ＳＰ１１０１７がＳＡ１０２１に伴うと考えられるＳＧ１００２により切られることから、ＳＡ１０２２よりもＳＡ１０２１の方が時期的に新しいと考えられる。

遺物はいずれの柱穴からも出土しなかった。

土坑（ＳＫ）

１号土坑（ＳＫ１００１）（第203図）

１区の北西側に位置する。検出グリッドはＡＡ－７である。遺構北西側でＳＰ１０２５を切る。遺構平面形状は南北に長軸をもつ楕円形を呈する。遺構の掘り方は検出面が削平を受けており、北側約３分の２が浅く残存している一方で南側は船底形の遺構断面形状を呈しなおかつ深い。また北側でもさらに西側の方が若干深くなる。遺構規模は長軸1.40m、短軸0.60m、遺構深度は深い部分で0.44mを測る。

遺構覆土は２層に分層することができ、色調は第１層がにぶい黄褐色、第２層が褐色を呈し、いずれも砂質土が堆積している。また、第１層には炭化物が少量含まれ、第２層には地山の岩盤礫がやや多く含まれる。

遺物の出土量は少なくすべて小破片であり、図化できるものはなかった。

４号土坑（ＳＫ１００４）（第204図）

１区の北西側に位置する。検出グリッドはＡＢ・ＡＣ－９である。遺構の東側は大きく削平を受け残存していない。また、遺構の北側をＳＫ１００５に切られる。遺構平面形状は残存している範囲で南北に主軸をもつ楕円形を呈する。遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は残存部分で長軸2.90m、短軸0.70m、遺構深度0.40mを測る。

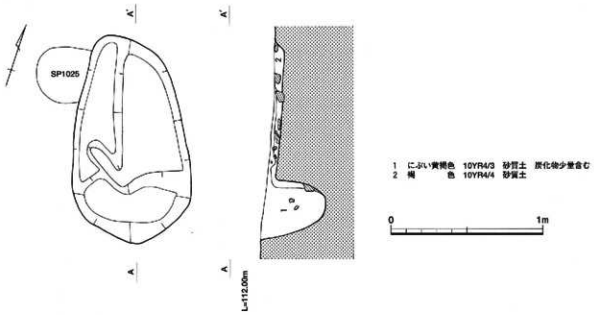
遺構覆土はにぶい黄褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。

遺物はすべて小破片であり、図化できるものはなかった。

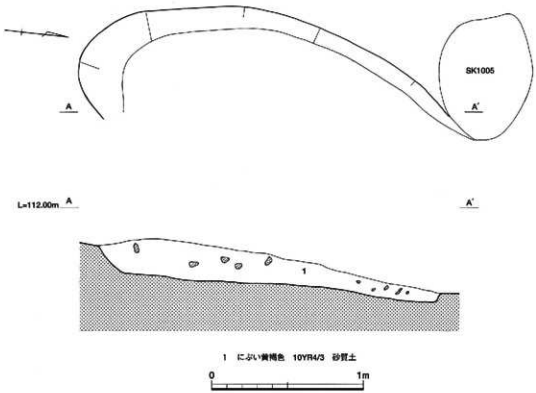
５号土坑（ＳＫ１００５）（第205・206図）

１区の北側に位置する。検出グリッドはＡＣ－９である。遺構の南東側でＳＫ１００４を切る。遺構平面形状は東西に長軸をもつ不整楕円形を呈する。遺構の掘り方は東側が浅く、西側に柱穴状の落ち込みをもつ。遺構断面形状は柱穴状の落ち込み部分で逆台形を呈する。遺構規模は長軸0.88m、短軸0.64m、遺構深度は深い部分で0.54mを測る。

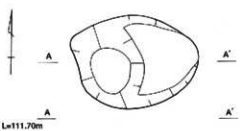
遺構覆土はにぶい黄褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。遺物は１点を図化することができた。340は底部のみの残存であるが、土師器の小皿である。底部は回転ヘラ切りによる切り離しののちにナデを施して仕上げる。



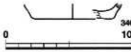
第203図　1区　SK1001遺構平・断面図



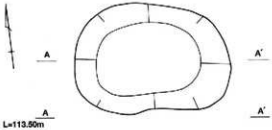
第204図　1区　SK1004遺構平・断面図



第205図　1区　SK1005遺構平・断面図



第206図　1区　SK1005出土遺物実測図



第207図　2区　SK1009遺構平・断面図

9号土坑（ＳＫ１００９）（第207図）

2区の南東側に位置する。検出グリッドはX－17である。遺構平面形状は東西に主軸をもつ楕円形を呈し、南側の上端はわずかに括れる。遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は長軸1.40m、短軸0.68m、遺構深度0.22mを測る。

遺構覆土は暗褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。炭化物をわずかに含んでいる。

遺物はすべて小破片であるため図化することができなかった。

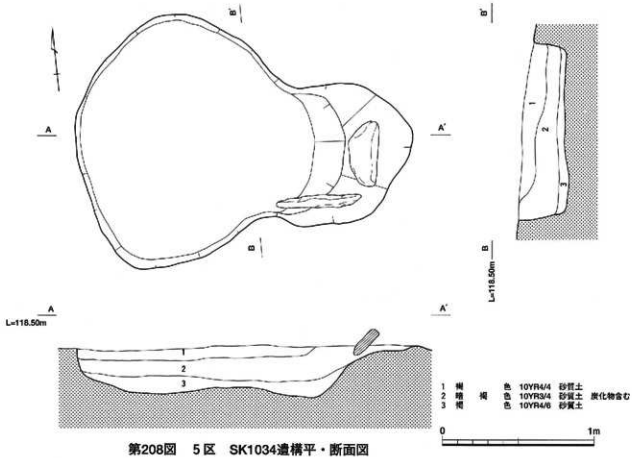
34号土坑（ＳＫ１０３４）（第208・209図）

5区の中央やや南西側に位置する。検出グリッドはM－19グリッドである。遺構平面形状は東西方向に主軸をもつ楕形を呈する。遺構断面形状は逆台形を呈し、東側は浅く延びる。遺構規模は長軸2.20m、短軸0.90m、遺構最大深度0.36mを測る。

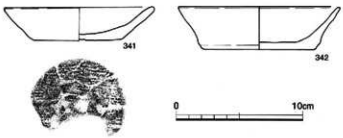
遺構覆土は3層に分層することができ、第1、第3層が褐色を呈し、第2層が暗褐色を呈するいずれも砂質土が堆積している。第2層には炭化物をわずかに含んでいる。

また東側立ち上がりの浅く、緩やかに傾斜している部分では結晶片岩の人頭大の板石が2点、主軸と直交させ、さらにはその南西側に主軸と平行に面をあわせ立てた状態で置かれている。この2点の板石の意図するものや機能的なものまでは判断するための材料が少なく、詳細は不明である。

遺物は2点を図化することができた。341、342は土師器の杯である。341は緩やかに大きく開く立ち上がりをもち、口縁端部は肥厚し丸くおさめる。底面にはヘラ圧痕が残る。342はややきつい立ち上がりをもち、口縁端部は丸くおさめるものの薄く仕上げる。



第208図　5区　SK1034遺構平・断面図



第209図　5区　SK1034出土遺物実測図

2号土坑（ＳＫ２００２）（第210・211図）

5区の南西側に位置する。検出グリッドはＬ・Ｍ－17グリッドである。遺構平面形状は円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は長軸0.94m、短軸0.88m、遺構深度0.15mを測る。

遺構覆土はオリーブ褐色を呈する砂質土が堆積する単一層で、炭化物を含む。

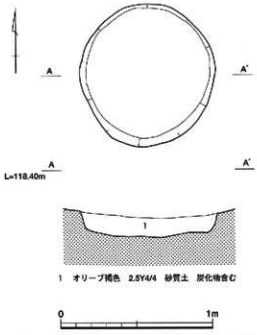
遺物は1点を図化することができた。343は土師器の杯である。底部のみの残存であるが、やや緩やかに立ち上がる胴部がわずかに残存しており、底部は回転ヘラ切りによる切り離しである。

36号土坑（ＳＫ１０３６）（第212・213図）

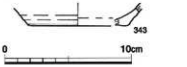
6区の南東側に位置する。検出グリッドはＪ－74・75グリッドである。遺構平面形状は不整形を呈し、北側2ヶ所と南側1ヶ所で括れる形状をもつ。遺構断面形状はややいびつな逆台形を呈し、東端はやや浅いテラス状のような階段状を呈する。遺構規模は長軸2.08m、短軸0.50m、遺構深度0.30mを測る。

遺構覆土はオリーブ褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。

遺物は1点を図化することができた。344は土師器の羽釜である。口縁部は内傾し、口縁端部は丸みをもっておさめる。貼り付けられた鍔は低く丸みをもっておさめられ、外面には脚部の剥離痕をとどめ



第210図　5区　SK2002遺構平・断面図



第211図　5区　SK2002出土遺物実測図

る。鍔部以下の内外面にはユビオサエによる指頭圧痕が顕著に残る。

38号土坑（ＳＫ１０３８）（第214・215図）

6区の南東側に位置する。検出グリッドはＪ・Ｋ－73グリッドである。遺構の北西側でＳＫ１０３７を切る。遺構平面形状は円形を呈し、遺構断面形状は北東部がやや緩やかに立ち上がる逆台形を呈する。遺構規模は長軸0.85m、短軸0.77m、遺構深度0.26mを測る。遺構覆土は3層に分層することができ、色調は第1層がオリーブ褐色、第2層が暗オリーブ褐色、第3層が黒褐色を呈する。各層の土質は第1・2層では砂質土が堆積し、第3層には粘質土が堆積する。また第1層には褐色を呈する砂粒を含み、第2・3層には炭化物が含まれており、炭化物は第3層にとくに多く含まれていた。

遺物は遺構中央部の底から若干浮いた状態で礫とともに出土した。これら出土遺物のほとんどは第2層に含まれることから、遺構の埋没過程において廃棄されたものと考えられる。345は土師器の羽釜または鍋である。胴部のみの残存で、内外面とも板ナデとユビオサエにより仕上げられている。346は羽釜の脚部である。ユビナデにより仕上げられており、土器本体部分の器壁とともに欠損しているため、羽釜の内面は板ナデによる調整が施されていたことが観察できる。

51号土坑（ＳＫ１０５１）（第216・217図）

6区の中央に位置する。検出グリッドはＯ－70グリッドである。遺構平面形状は北西－南東方向に主軸をもつ楕円形を呈し、南西側がわずかに括れる。遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は長軸1.36m、短軸0.71m、遺構深度0.38mを測る。

遺構覆土は暗オリーブ褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。

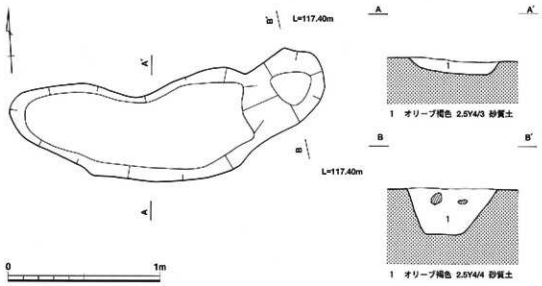
遺物は1点を図化することができた。347は土師器の杯である。回転ヘラ切りによる切り離しをもつ底部から立ち上がり、胴部中位から大きく開く口縁部をもつ。

52号土坑（ＳＫ１０５２）（第218図）

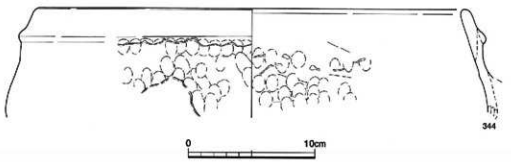
6区の中央に位置する。検出グリッドはＯ－70グリッドである。遺構平面形状は不整円形を呈し、断面形状は西側が緩やかに立ち上がる逆台形を呈する。遺構規模は長軸1.02m、短軸0.83m、高さ0.33mを測る。

遺構覆土は、黒褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。

遺物はすべて小破片であり、図化できるものはなかった。



第212図　6区　SK1036遺構平・断面図



第213図　6区　SK1036出土遺物実測図

53号土坑（ＳＫ１０５３）（第219図）

6区の中央やや東よりに位置する。検出グリッドはＰ－71グリッドである。遺構平面形状は円形を呈し、断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は長軸1.00m、短軸0.96m、高さ0.42mを測る。

遺構覆土は、黒褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。遺構覆土内には、西側を中心に岩盤小礫を含んでいる様子が確認できた。

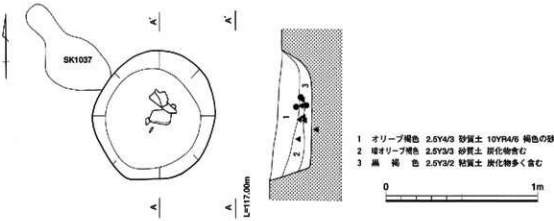
遺物は図化できるものはなかった。

54号土坑（ＳＫ１０５４）（第220図）

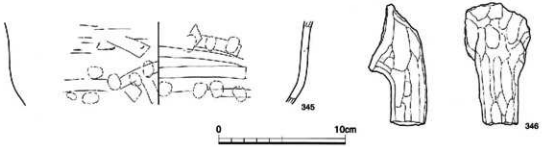
6区の中央やや東よりに位置する。検出グリッドはＰ－71グリッドである。遺構の東側でＳＫ１０５５、１０５７を切る。遺構平面形状は不整方形を呈し、断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は長軸1.04m、短軸0.92m、高さ0.38mを測る。

遺構覆土は、岩盤礫を含み、黒褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。

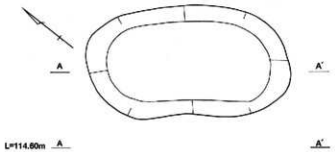
遺物はすべて小破片であり、図化できるものはなかった。



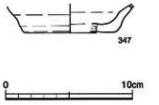
第214図　6区　SK1038遺構平・断面図



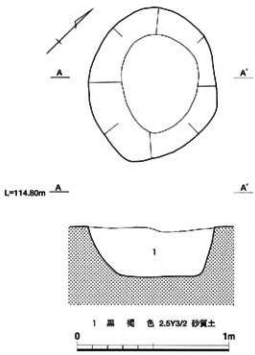
第215図　6区　SK1038出土遺物実測図



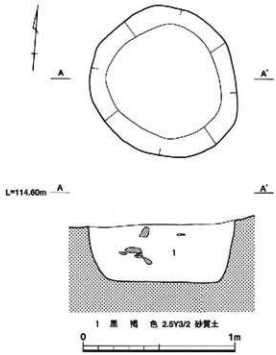
第216図　6区　SK1051遺構平・断面図



第217図　6区　SK1051出土遺物実測図



第218図　6区　SK1052遺構平・断面図



第219図　6区　SK1053遺構平・断面図

55号土坑（ＳＫ１０５５）（第220・221図）

6区の中央やや東よりに位置する。検出グリッドはＰ－71・72グリッドである。遺構の東側でＳＫ１０５６、南側でＳＫ１０５７を切り、遺構の西側をＳＫ１０５４に切られる。ＳＡ１０２１に伴うＳＧ１００２と重複しており、ＳＧ１００２の柱間距離を考慮すると当該遺構が切っている可能性が考えられる。遺構平面形状は不整円形を呈し、断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は、残存値で長軸0.94m、短軸0.74m、高さ0.45mを測る。

遺構覆土は、岩盤礫を含み、暗オリーブ褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。

遺物は3点を図化することができた。348は土師器の杯である。349、350は土師器の小皿である。いずれも残存状況は良くないが、底部は回転ヘラ切りによる切り離しである。

56号土坑（ＳＫ１０５６）（第220図）

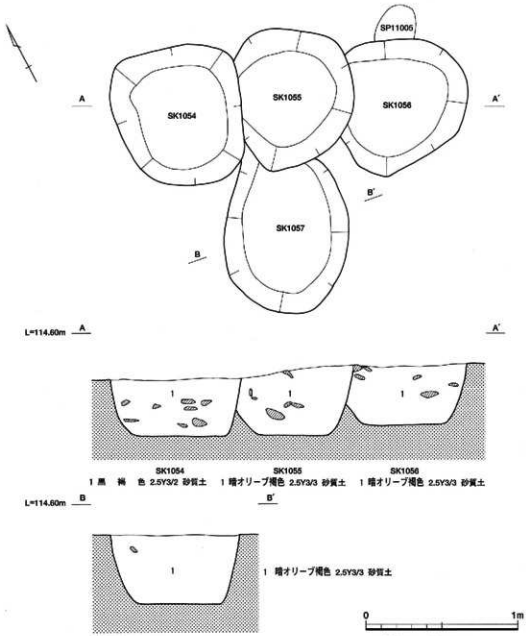
6区の中央やや東よりに位置する。検出グリッドはＰ－72グリッドである。遺構の北側でＳＰ１１００５を切り、遺構の西側をＳＫ１０５５に切られる。ＳＡ１０２１に伴うＳＧ１００２と重複しており、ＳＧ１００２の柱間距離を考慮すると当該遺構が切っている可能性が考えられる。遺構平面形状は不整円形を呈し、断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は、残存値で長軸0.94m、短軸0.75m、高さ0.41mを測る。

遺構覆土は、層上位に岩盤礫を含み、暗オリーブ褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。

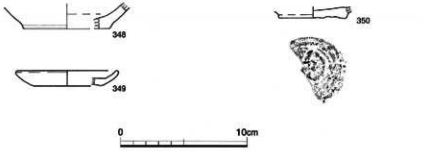
遺物はすべて小破片であり、図化できるものはなかった。

57号土坑（ＳＫ１０５７）（第220図）

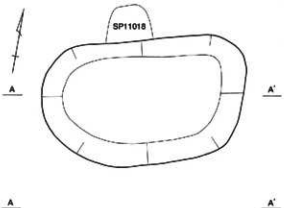
6区の中央やや東よりに位置する。検出グリッドはＰ－71・72グリッドである。遺構の北側をＳＫ１０５４、１０５５に切られる。遺構平面形状は北東－南西に長軸をもつ楕円形を呈し、断面形状は逆台



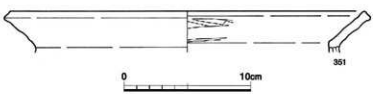
第220図　6区　SK1054・1055・1056・1057遺構平・断面図



第221図　6区　SK1055出土遺物実測図



第222図　6区　SK1060遺構平・断面図



第223図　6区　SK1060出土遺物実測図

形を呈する。遺構規模は、残存値で長軸1.17m、短軸0.82m、高さ0.50mを測る。

遺構覆土は、暗オリーブ褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。

遺物はすべて小破片であり、図化できるものはなかった。

60号土坑（ＳＫ１０６０）（第222・223図）

6区の東側に位置する。選出グリッドはＰ・Ｑ－72・73グリッドである。遺構の北側でＳＡ１０２１に伴うＳＧ１００２の東端にあたるＳＰ１１０１８を切る。遺構平面形状は東西に長軸をもつ不整楕円形を呈し、断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は長軸1.37m、短軸0.85m、高さ0.44mを測る。

遺構覆土は、層上位に岩盤礫を含み、黒褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。

遺物は1点を図化することができた。351は土師器の甕である。

溝（ＳＤ）

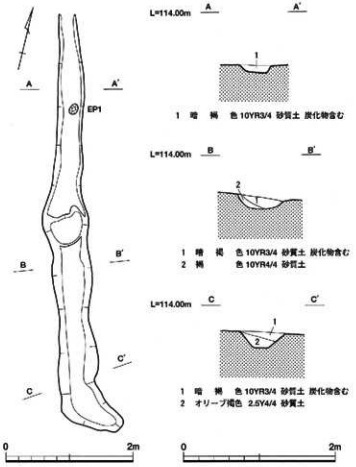
4号溝（ＳＤ１００４）（第224・225図）

3区の南西側でＳＡ１００７の西側に位置し、南北方向に主軸をもつ。遺構の南側はＬ字型に折れ、東を向いた直後に終息する。検出グリッドはＳ～Ｕ－22・23グリッドである。遺構規模は全長7.15m、最大幅は遺構中程のややふくらんだ部分で0.7m、最小幅は遺構北端で0.25mを測る。遺構深度はおおむね0.1～0.2m前後を測り、遺構の底は北側で標高113.18m、東に折れた終息部分で標高113.48mを測る。遺構は北側に下る緩傾斜地に位置しており、遺構の底部も南から北へ比高差0.3mをもって下っていることから溝の流水方向もこれに一致する。

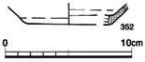
遺構覆土は第1層に暗褐色、第2層に褐色、第3層にオリーブ褐色を呈するいずれも砂質土が堆積する。堆積土の土質はとくに流水や滞水状況を示すものではないことから、常時流水があった溝ではなく、一時的に流水があったものであろう。遺構断面形状は浅い逆台形を呈し、遺構中央部分が船底形を呈する。

なお、本遺構はＳＡ１００７の雨だれ溝または建物に伴う排水溝である可能性を十分に含んでいるが、これを断定するまでには至っていないために単独の溝として取り扱った。

遺物は1点を図化することができた。352は須恵器の杯である。底部は回転ヘラ切りによる切り離しである。またこのほかにも図化することはできなかったが、黒色土器Ａ類椀片が出土している。



第224図　3区　SD1004遺構平・断面図



第225図　3区　SD1004出土遺物実測図

小穴・柱穴（ＳＰ）

14号小穴（ＳＰ１０１４）（第226図）

１区の中央に位置する。検出グリッドはＺ－８グリッドである。遺構平面形状は東西に長軸をもつ楕円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.36m、遺構深度0.17mを測る。

遺構覆土は、褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物はすべて小破片であり、図化することはできなかった。

15号小穴（ＳＰ１０１５）（第227・228図）

１区の中央に位置する。検出グリッドはＺ－９グリッドである。遺構平面形状は南北に長軸をもつ楕円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.44m、遺構深度0.34mを測る。

遺構覆土は、暗褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。また、覆土層中には、炭化物をわずかに含んでいた。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物は１点を図化することができた。353は土師器の杯である。

16号小穴（ＳＰ１０１６）（第229図）

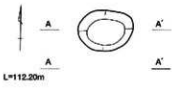
１区の中央に位置する。検出グリッドはＺ－９グリッドである。遺構平面形状は円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.27m、遺構深度0.22mを測る。

遺構覆土は、にぶい黄褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

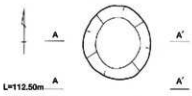
遺物はすべて小破片であり、図化することはできなかった。

86号小穴（ＳＰ１０８６）（第230図）

２区の南側に位置する。検出グリッドはＹ－14グリッドである。遺構平面形状は円形を呈し、遺構断面形状は、逆台形を呈する。遺構規模は径0.42m、遺構深度0.28mを測る。

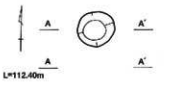


第226図 1区 SP1014
遺構平・断面図

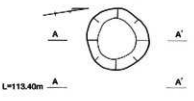


第227図 1区 SP1015
遺構平・断面図

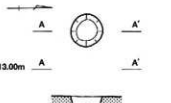
第228図 1区 SP1015
出土遺物実測図



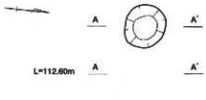
第229図 1区 SP1016
遺構平・断面図

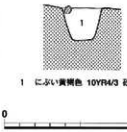


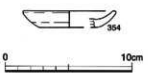
第230図 2区 SP1086
遺構平・断面図



第231図 2区 SP1087
遺構平・断面図

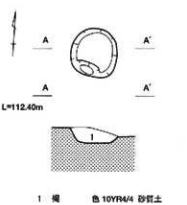




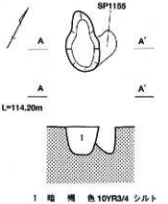


第233図 2区 SP1095
出土遺物実測図

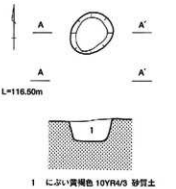
第232図 2区 SP1095遺構平・断面図



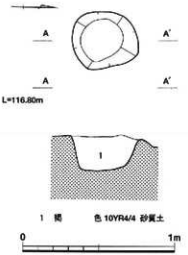
第234図　3区　SP1212
遺構平・断面図



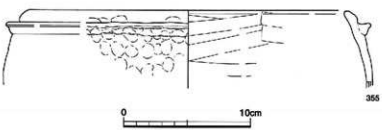
第235図　3区　SP1482
遺構平・断面図



第236図　4区　SP1527
遺構平・断面図



第237図　4区　SP1532遺構平・断面図



第238図　4区　SP1532出土遺物実測図

遺構覆土は2層に分層することができ、第1層はにぶい黄褐色を呈し、第2層は褐色を呈するいずれも砂質土が堆積する。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物はすべて小破片であり、図化することはできなかった。

87号小穴（ＳＰ１０８７）（第231図）

2区の中央やや西よりに位置する。検出グリッドはZ－14グリッドである。遺構平面形状は円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.25m、遺構深度0.16mを測る。

遺構覆土は、にぶい黄褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物はすべて小破片であり、図化することはできなかった。

95号小穴（ＳＰ１０９５）（第232・233図）

２区の中央やや北西よりに位置する。検出グリッドはＡＢ－14グリッドである。遺構平面形状は円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.30m、遺構深度0.22mを測る。

遺構覆土は、にぶい黄褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物は１点を図化することができた。354は土師器の小皿である。

212号小穴（ＳＰ１２１２）（第234図）

３区の南側に位置する。検出グリッドはＲ・Ｓ－24・25グリッドである。遺構平面形状は円形を呈し、遺構内の南側はさらに一段深く掘り窪められる。遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.35m、遺構深度0.10mを測る。

遺構覆土は、褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物はすべて小破片であり、図化することはできなかった。

482号小穴（ＳＰ１４８２）（第235図）

３区の南側に位置する。検出グリッドはＲ－23グリッドである。遺構の東側でＳＰ１１５５を切る。遺構平面形状は北西－南東に主軸をもつ不整楕円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.41m、遺構深度0.18mを測る。

遺構覆土は暗褐色を呈するシルトが堆積する単一層である。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物はすべて小破片であり、図化することはできなかった。

527号小穴（ＳＰ１５２７）（第236図）

４区の北東側に位置する。検出グリッドはＲ－14グリッドである。遺構平面形状はややいびつな円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.30m、遺構深度0.14mを測る。

遺構覆土は、にぶい黄褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物はすべて小破片であり、図化することはできなかった。

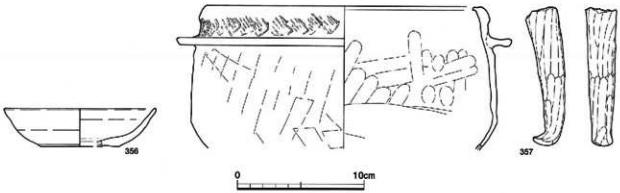
532号小穴（ＳＰ１５３２）（第237・238図）

４区の北東側に位置する。検出グリッドはＲ－14グリッドである。遺構平面形状はややいびつな円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.45m、遺構深度0.22mを測る。

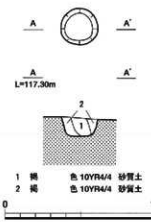
遺構覆土は、褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物は１点を図化することができた。355は土師器の羽釜である。貼付された鍔の下側や鍔部以下の外面位はユビオサエが顕著に施され、内面はヨコ方向の板ナデが施される。

第239図　4区　SP1552遺構平・断面・遺物出土状況図



第240図　4区　SP1552出土遺物実測図



第241図　4区　SP1580
遺構平・断面図

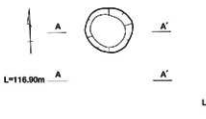
552号小穴（ＳＰ１５５２）（第239・240図）

４区の北東側、ＳＰが集中する部分に位置する。検出グリッドはＱ－15グリッドである。遺構平面形状は円形を呈する。遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.27m、遺構深度0.24mを測る。

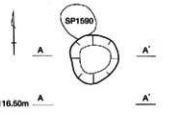
遺構覆土は暗褐色を呈するシルト質土が堆積する単一層である。また、土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物は床面よりも若干浮いたレベルからややまとまって出土した。まず破砕され底部を欠損した土師器羽釜とその脚部１点と土師器の杯片を重複部分がないように敷き並べている。そしてさらに人頭大の結晶片岩の板石で蓋をするように水平を意識しつつ安置している。この遺物出土の状況がすなわち地鎮などの祭祀のための埋納行為につながるにはいくつかの要素が不足しているため断定できないが、かなりの意図を持って埋納されていたであろうことが考えられる。

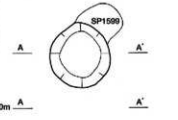
356は土師器の杯である。わずかに内攀する立ち上がりをもち、口縁端部は丸くおさめる。底部は回転ヘラ切りによる切り離しである。口径は復元値で12.0cmを測る。357は土師器の羽釜と脚部である。口縁端部の形状は方形状におさめるもののわずかに内側へ拡張する。また口縁部直下の外面には断面方形を呈する水平の鍔を貼り付けた後にハケ状の工具をなでつけて整えている。調整は外面にはタテ方向の板ナデを施し、内面にはユビオサエによる指頭圧痕が顕著に残る。脚部はユビナデによる成形、調整



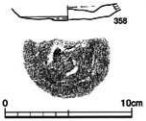
第242図　5区　SP2009
遺構平・断面図



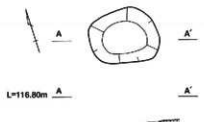
第244図　6区　SP1591
遺構平・断面図



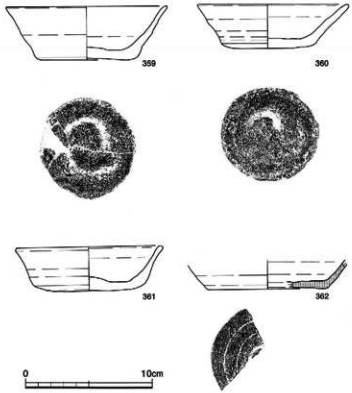
第245図　6区　SP1598
遺構平・断面図



第243図　5区　SP2009
出土遺物実測図



第246図　6区　SP1600
遺構平・断面図



第247図　6区　SP1600出土遺物実測図

で先端を短く折り曲げる。両者は胎土の観察などから同一個体と思われる。

遺構の時期は出土遺物から13世紀初頭頃と思われる。

580号小穴（ＳＰ１５８０）（第241図）

４区の東側に位置する。検出グリッドはＰ－15グリッドである。遺構平面形状は円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.24m、遺構深度0.12mを測る。

遺構覆土は２層に分層することができ、いずれも褐色を呈する砂質土が堆積していた。しかし第１層において粘性があり、柱痕跡の可能性が考えられるが断定するまでには至らなかった。

遺物はすべて小破片であり、図化することはできなかった。

９号小穴（ＳＰ２００９）（第242・243図）

５区の中央やや南東よりに位置する。検出グリッドはＭ－21グリッドである。遺構平面形状は円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.32m、遺構深度0.15mを測る。

遺構覆土は褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物は１点を図化することができた。358は土師器の杯である。底部は回転ヘラ切りによる切り離しである。

591号小穴（ＳＰ１５９１）（第244図）

６区の南東側に位置する。検出グリッドはＫ－73グリッドである。遺構の北側でＳＰ１５９０を切る。遺構平面形状は円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.33m、遺構深度0.36mを測る。

遺構覆土は２層に分層することができ、第１層には暗オリーブ褐色の粘質土が堆積し、第２層にはオリーブ褐色を呈する砂質土が堆積する。また、第１層には炭化物が含まれていた。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物はすべて小破片であり、図化することはできなかった。

598号小穴（ＳＰ１５９８）（第245図）

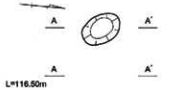
６区の南東側に位置する。検出グリッドはＪ－72グリッドである。遺構の北東側でＳＰ１５９９を切る。遺構平面形状は円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.48m、遺構深度0.38mを測る。

遺構覆土はオリーブ褐色を呈する粘質土が堆積する単一層である。覆土内には炭化物が含まれていた。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

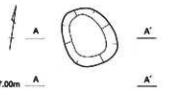
遺物はすべて小破片であり、図化することはできなかった。

600号小穴（ＳＰ１６００）（第246・247図）

６区の南東側に位置する。検出グリッドはＪ－72グリッドである。遺構平面形状は東西に主軸をとる楕円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.48m、遺構深度0.36mを測る。



第248図　6区　SP1601
遺構平・断面図

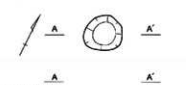


第249図　6区　SP1605
遺構平・断面図

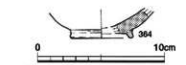
第250図　6区　SP1605
出土遺物実測図

遺構覆土は暗オリーブ褐色を呈する粘質土が堆積する単一層である。覆土内には炭化物が含まれており、層上位には岩盤の角礫が含まれていた。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物は4点を図化することができた。359～361は土師器の杯である。いずれも底部は回転ヘラ切りによる切り離しで口縁部は開きながら立ち上がり、口縁端部は丸くおさめ360と361はやや肥厚する。362は須恵器の杯である。底径は比較的大きく、底部は回転ヘラ切りによる切り離しである。



第251図　6区　SP1608
遺構平・断面図



第252図　6区　SP1608
出土遺物実測図

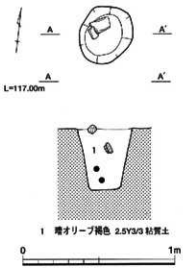
第253図　6区　SP1613
遺構平・断面図

601号小穴（ＳＰ１６０１）（第248図）

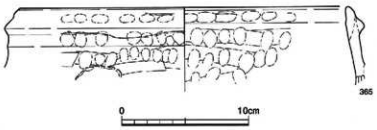
6区の南東側に位置する。検出グリッドはＪ－72グリッドである。遺構平面形状は北西－南東に主軸をとる楕円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.28m、遺構深度0.32mを測る。

遺構覆土は暗オリーブ褐色を呈する粘質土が堆積する。覆土内には炭化物が含まれていた。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

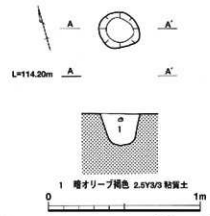
遺物はすべて小破片であり、図化することはできなかった。



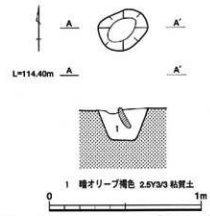
第254図　6区　SP1614遺構平・断面図



第255図　6区　SP1614出土遺物実測図



第256図　6区　SP1744遺構平・断面図



第257図　6区　SP1761遺構平・断面図

605号小穴（ＳＰ１６０５）（第249・250図）

6区の南東側に位置する。検出グリッドはＪ－72グリッドである。遺構平面形状はややいびつな円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.40m、遺構深度0.38mを測る。

遺構覆土は暗オリーブ褐色を呈する粘質土が堆積する単一層である。覆土内には炭化物が含まれていた。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物は1点を図化することができた。363は土師器の杯である。器高は非常に低く、緩やかに開く立ち上がりは皿に近いプロポーションをもつ。

608号小穴（ＳＰ１６０８）（第251・252図）

6区の南東側に位置する。検出グリッドはＪ－72グリッドである。遺構平面形状はややいびつな円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.27m、遺構深度0.27mを測る。

遺構覆土は暗オリーブ褐色を呈する粘質土が堆積する単一層である。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物は1点を図化することができた。364は須恵器の椀である。底部を回転ヘラ切りにより切り離したのちに断面が台形を呈する高台を貼付する。

613号小穴（ＳＰ１６１３）（第253図）

6区の南側に位置する。検出グリッドはＩ・Ｊ－71グリッドである。遺構平面形状はややいびつな円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.38m、遺構深度0.44mを測る。

遺構覆土は2層に分層することができ第1層には黒褐色を呈する粘質土が堆積し、第2層にはオリーブ褐色を呈する粘質土が堆積する。また、第1層の覆土内には炭化物が含まれていた。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物はすべて小破片であり、図化することはできなかった。

614号小穴（ＳＰ１６１４）（第254・255図）

6区の南側に位置する。検出グリッドはＪ－71グリッドである。遺構平面形状はややいびつな円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.40m、遺構深度0.40mを測る。

遺構覆土は暗オリーブ褐色を呈する粘質土が堆積する単一層である。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物は遺構の底から若干浮いた位置で、かつ遺構の北西側から出土している。

遺物は1点を図化することができた。365は土師器の羽釜である。鍔は低く、断面は三角形を呈したものを貼付し、内外面とも板ナデののちにユビオサエが口縁部付近まで顕著に施される。胴部外面には脚部が剥離した痕跡が1ヶ所認められた。

744号小穴（ＳＰ１７４４）（第256図）

6区の東側に位置する。検出グリッドはＫ・Ｌ－67グリッドである。遺構平面形状はややいびつな円形を呈し、遺構断面形状は船底形を呈する。遺構規模は径0.30m、遺構深度0.21mを測る。

遺構覆土は暗オリーブ褐色を呈する粘質土が堆積する単一層である。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物はすべて小破片であり、図化することはできなかった。

761号小穴（ＳＰ１７６１）（第257図）

6区の東側に位置する。検出グリッドはＬ－68グリッドである。遺構平面形状は北東－南西に主軸をもつ楕円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.34m、遺構深度0.21mを測る。

遺構覆土は暗オリーブ褐色を呈する粘質土が堆積する単一層である。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物はすべて小破片であり、図化することはできなかった。

980号小穴（ＳＰ１９８０）（第258・259図）

6区の中央に位置する。検出グリッドはＯ－71グリッドである。遺構平面形状は東西に主軸をもつ楕円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.43m、遺構深度0.36mを測る。

遺構覆土は暗オリーブ褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。覆土内には炭化物が含まれていた。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

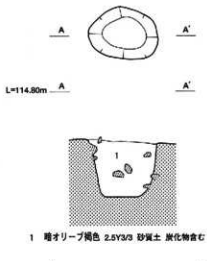
遺物は3点を図化することができた。366は土師器の杯である。367、368は土師器の小皿である。いずれも底部は回転ヘラ切りによる切り離しである。

1001号小穴（ＳＰ１１００１）（第260・261図）

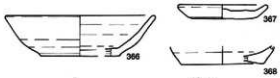
6区の東側に位置する。検出グリッドはP－73グリッドである。遺構平面形状は円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.60m、遺構深度0.18mを測る。

遺構覆土は暗オリーブ褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

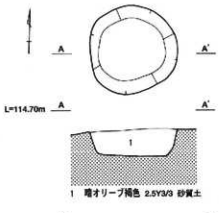
遺物1点を図化することができた。369は土師器の杯である。底部は回転ヘラ切りによる切り離しののちにヘラ圧痕をとどめる。



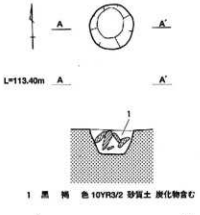
第258図　6区　SP1980遺構平・断面図



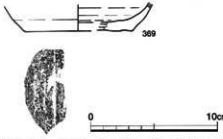
第259図　6区　SP1980出土遺物実測図



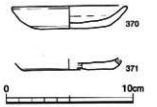
第260図　6区　SP11001遺構平・断面図



第262図　6区　SP11050遺構平・断面図



第261図　6区　SP11001出土遺物実測図



第263図　6区　SP11050出土遺物実測図

1050号小穴（ＳＰ１１０５０）（第262・263図）

6区の中央に位置する。検出グリッドはN－69・70グリッドである。遺構平面形状は円形を呈し、遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構規模は径0.28m、遺構深度0.16mを測る。

遺構覆土は黒褐色を呈する砂質土が堆積する単一層である。覆土内には、多くの岩盤礫とともに炭化物が含まれていた。土層の観察においては、柱痕跡や抜き取りを示す痕跡などは検出できなかった。

遺物は2点を図化することができた。370、371は土師器の皿が出土している。いずれも底部は回転ヘラ切りによる切り離しである。

包含層出土遺物（第264～273図）

当該期の包含層出土遺物はこれまでの弥生時代や古代のものと異なり1区と6区に多く見られた。6区においては比較的多くの当該期遺構がみられたものの、その分布には偏重があり遺構密度には大きく疎密がみられた。したがって包含層出土遺物も当該期の遺構が多く分布する範囲から多く出土している。

372～397は1区から出土した遺物である。372～381は土師器の杯である。口縁部の立ち上がりは大きく2つのタイプが見られ、内彎する374、376、379、380と直線的に立ち上がる373、375、377、378、381がある。382、383は土師器の小皿である。いずれも底部は回転ヘラ切りによる切り離しである。384、385は土師器の羽釜である。384はやや内傾する口縁部をもち、口縁端部は断面が方形を呈する。鍔は貼付してあるが、低くあまり明瞭なではない。外面の調整は、口縁部以下全面にユビオサエが施される。385は胴部上端の壁を外反させ鍔とし、その上に粘土を積み上げ口縁部としている。よって口縁部はほぼ垂直となり、鍔は明瞭につく。外面の調整はユビオサエが顕著に施されるが、鍔部以下に限られる。386～389は土師器の羽釜の脚部である。390、391は土師器の茶釜である。いずれも口縁部は垂直に立ち上がり、口縁端部はまるくおさめる。390は口縁部直下に焼成前の透かし孔をもつ。392～394は土師器の鍋である。いずれも口縁部は外傾し、さらに肥厚させる。外面にはユビオサエが顕著に施され、内面にはヨコ方向の板ナデが施される。口縁部径は45.2～37.6cmを測る大型のものである。

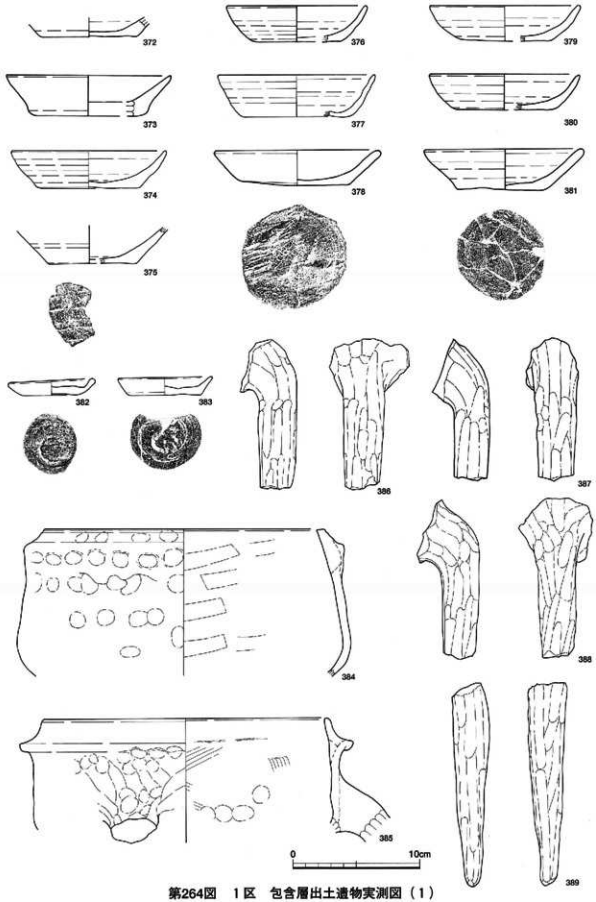
395は備前の大甕である。底径は復元値で46.6cmを測り、底部の器壁は薄い。外面にはタテ方向のハケが短いストロークで密に施され、内面はヨコ方向に板ナデが施される。

396は陶器の碗である。

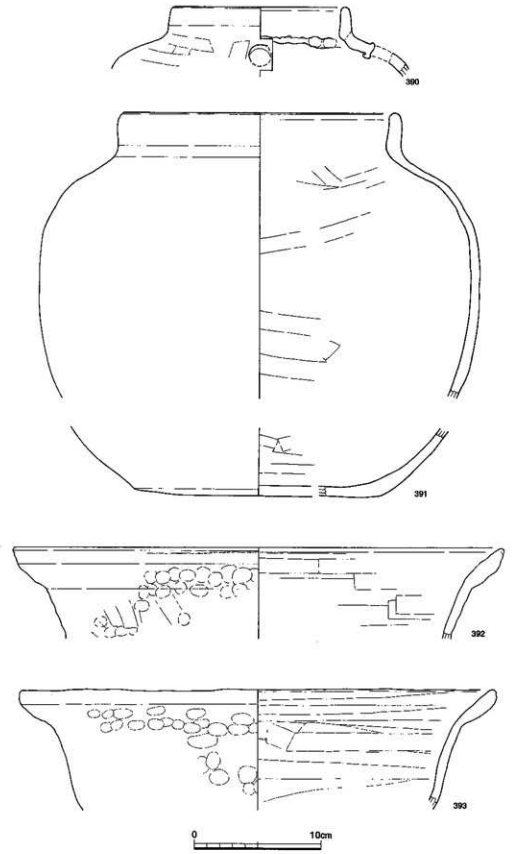
397は壁土である。胎土中に混和剤として藁のような植物を長さ0.5～1cm前後に刻んだものを混ぜ込んでおり、その圧痕が表面においても多数確認できる。

398～407は2区から出土した遺物である。398～400は土師器の小皿である。いずれも底部は回転ヘラ切りによる切り離しである。401～403は土師器の杯である。いずれも口縁部は直線的に立ち上がり、口縁端部は薄く仕上げる。口径も12cm前後に揃う。404は土師器の鍋である。口縁部は外傾しながらも内彎して立ち上がる。口径21.7cm、残存高9.8cmを測る小型品である。外面にはユビオサエによる指頭圧痕が顕著に残り、内面は口縁部以下胴部中位までヨコ方向の板ナデが施される。405は土師器の羽釜の脚部である。406は瓦器椀である。外面にはユビオサエによる指頭圧痕が顕著に残る。内面にはヨコ方向のヘラミガキが施される。底部には断面が三角形を呈する低い輪高台が貼付される。407は龍泉窯産の青磁碗である。外面に蓮弁文をもつ。見込みには4花弁が陰刻される。

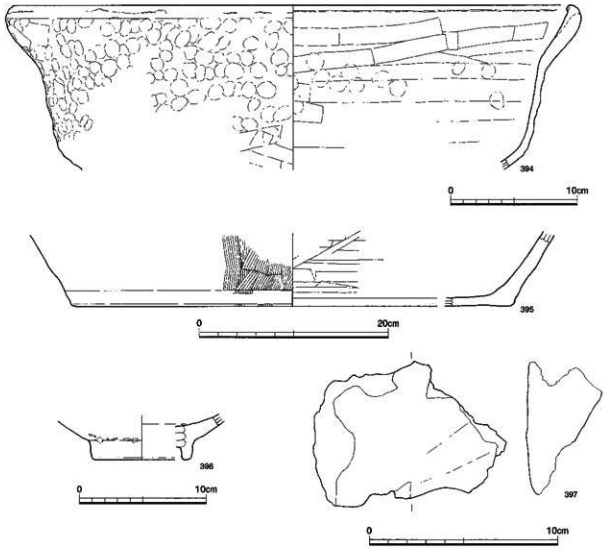
408は3区から出土した鞴の羽口である。遺構に伴うものではなく、鍛冶関連遺構も検出されていないことから年代の特定ができないが中世遺物として掲載した。



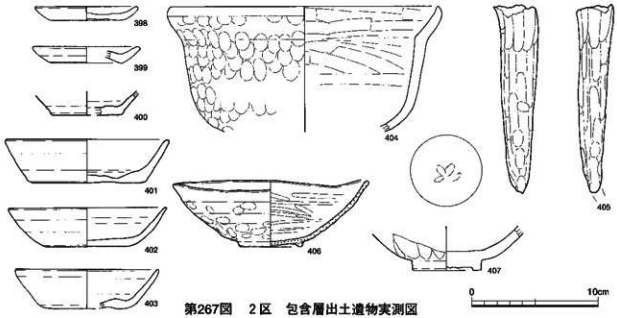
第264図　1区　包含層出土遺物実測図（1）



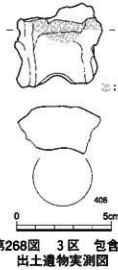
第265図　1区　包含層出土遺物実測図（2）



第266図　1区　包含層出土遺物実測図（3）



第267図　2区　包含層出土遺物実測図



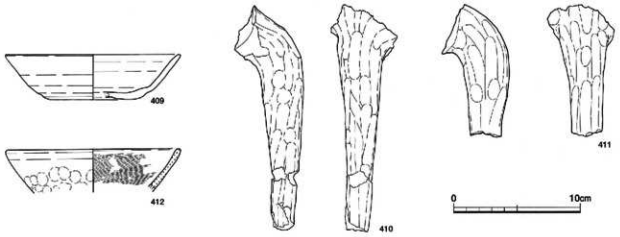
第268図　3区　包含層出土遺物実測図

409～412は4区から出土した遺物である。409は土師器の杯である。直線的に大きく開く口縁部をもち、口縁端部はまるくおさめる。底部は回転ヘラ切りによる切り離しである。410、411は土師器の羽釜の脚部である。412は瓦器椀である。外面の下半にはユビオサエによる指頭圧痕が顕著に残る。内面はナナメ方向のきめの細かいハケが施される。

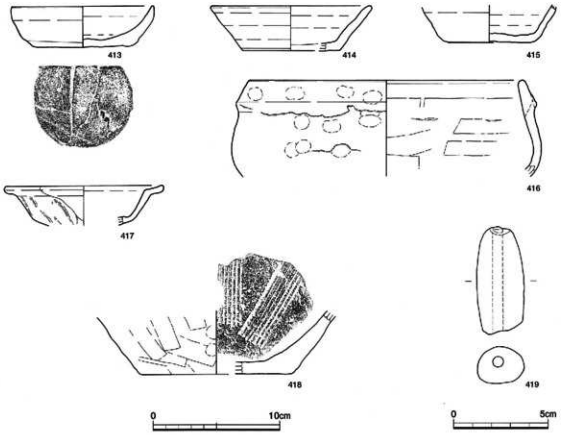
413～421は5区から出土した遺物である。413～415は土師器の杯である。413は口縁部が内彎しながら立ち上がり、口縁端部は薄くおさめる。414は口縁部がわずかに外反しながら立ち上がり、口縁端部はまるくおさめる。いずれも底部は回転ヘラ切りによる切り離しで、413はその後ナデが施される。416は土師器の羽釜である。口縁部は内傾し、口縁端部はまるくおさめる。外面に貼付される鍔は断面が三角形を呈するものの低い。外面にはユビオサエによる指頭圧痕が残る。内面はヨコ方向の板ナデが施される。417は龍泉窯産の青磁皿である。口縁部は屈曲して外反し、外面には蓮弁文が施されるが、退化している。418は陶器の擂り鉢である。備前産か？419は管状土錘である。420、421は北宋銭である。かなり磨滅が進んでおり文字が判別しにくくなっているが、420が「熙寧元寶」である。421が「皇宋通寶」である。

422～444は6区から出土した遺物である。422～428は土師器の杯である。いずれも底部は平底を呈し、回転ヘラ切りによる切り離しである。口縁部は直線的に立ち上がり、口縁端部を丸くおさめるものが多い。422、423は底部外面に段を有する。成形の際粘土板の周縁に粘土紐を巻き上げて成形したことがうかがえる。428は口縁部を欠損するが、底部の周縁が突出している。429～437は土師器の小皿である。全て底部は回転ヘラ切りによる切り離しである。438、439は土師器の鍋である。いずれも胴部は球形を呈し、屈曲する口縁部は直線的にのびる。438は外面にユビオサエによる指頭圧痕が顕著に残る。439は外面にはハケによる調整が施され、胴部上半にはタテ方向、そののちに胴部下半にヨコ方向に施される。440は東播系須恵器の捏ね鉢である。441は白磁の碗である。442、443は鞴の羽口である。残存状況は悪く、いずれも一部のみの残存である。442は復元値で内径4.35cm、外径9.15cmを測る。444は管状土錘である。外面にユビオサエによる指頭圧痕を残し、全長3cmと小型品である。

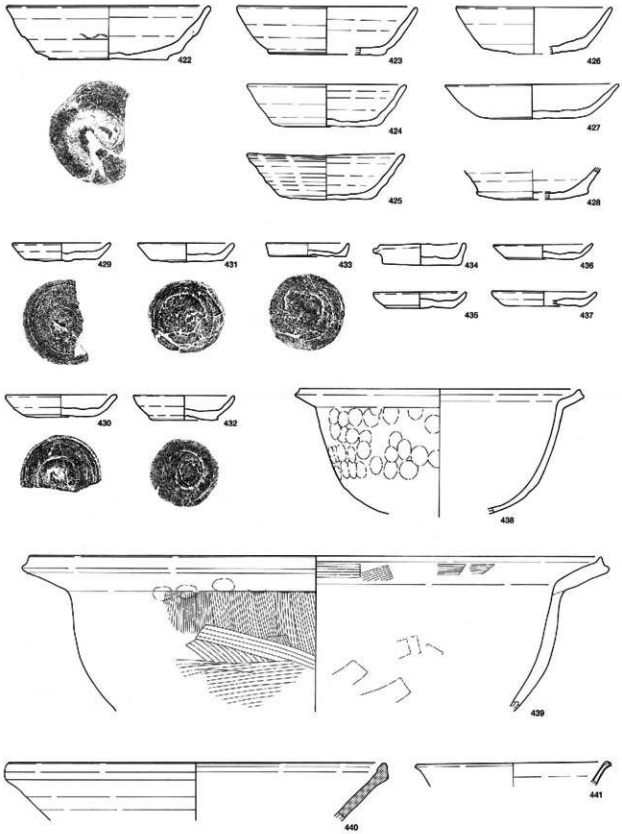
445～468は7区から出土した遺物である。445～447は土師器の杯である。底部はいずれも回転切り離しによる切り離しである。一部ヘラ状の圧痕をとどめるものがある。448～453は土師器の小皿である。全て底部は回転ヘラ切りによる切り離しである。454～456は土師器の椀である。いずれも残存状況が悪く、全容を復元できるものはないが、高台は大きく2つのタイプが見られる。半円状の低い高台をもつ454と断面が三角形を呈する455、456である。また455の高台は低く、456の高台はやや高さがある。457～461は須恵器の椀である。外面はヨコ方向のヘラミガキにより仕上げられており、内面は、外面と同様にヘラミガキにより仕上げる459、460とヨコ方向のハケにより仕上げる458とナデにより仕上げる457が見られる。高台は、457が断面台形を呈し厚みをもつ。458は半円状の厚みがある低い高台を貼付する。459～461は断面三角形の低い高台を貼付する。462は須恵器の皿である。底部は回転ヘラ切りによる切り離しである。口縁部は内彎しながら立ち上がり、口縁端部はまるくおさめる。463、464は瓦器椀である。465は白磁の碗である。口縁端部を外側に折り曲げ、肥厚させている。466は白磁の壺であろうか。口縁部直下から屈曲して肩が張るようにのびる残存部がある。467は天目茶碗である。468、469は鞴の



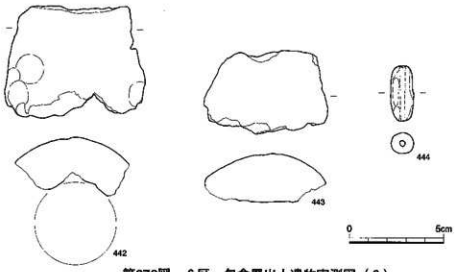
第269図　4区　包含層出土遺物実測図



第270図　5区　包含層出土遺物実測図



第271図　6区　包含層出土遺物実測図（1）



第272図　6区　包含層出土遺物実測図（2）

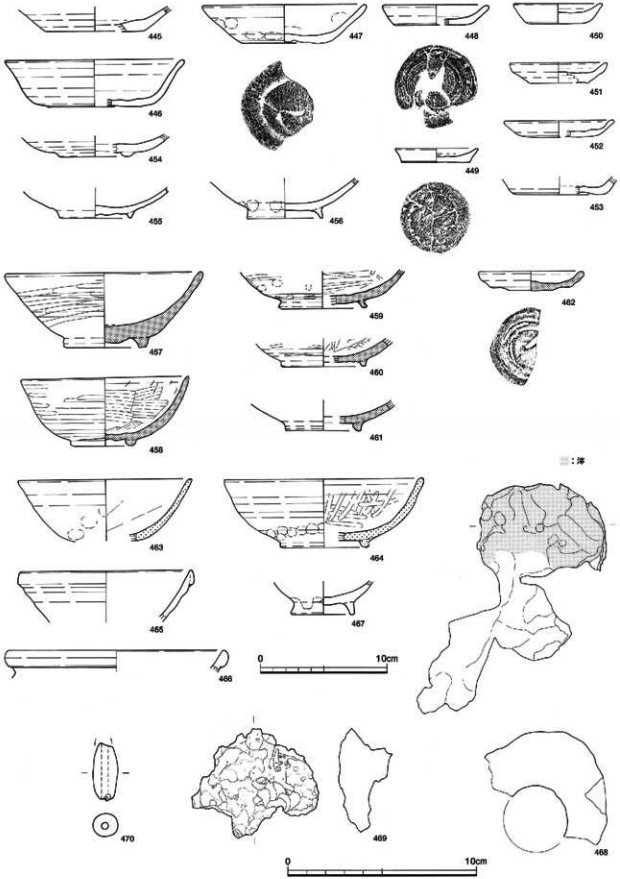
羽口である。いずれも細片にまで破損しているため全体の復元までには至らないが、468は羽口の先端部分が残る。先端から4.5cmのところまでは溶けた不純物が全面に付着している。470は管状土錘である。片方の端部は欠損しているが、残りの側においては縄ずれ痕が看取できることから数回の使用があったものと思われる。

（4）近世

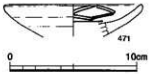
近世に属する遺構は、今回の調査においていずれの調査区においても検出することはなかった。包含層遺物も各調査区からわずかずつではあるが出土している。しかし、比較的まとまっていて図化できるものは5区から出土した遺物に限られる。

包含層出土遺物（第274～276図）

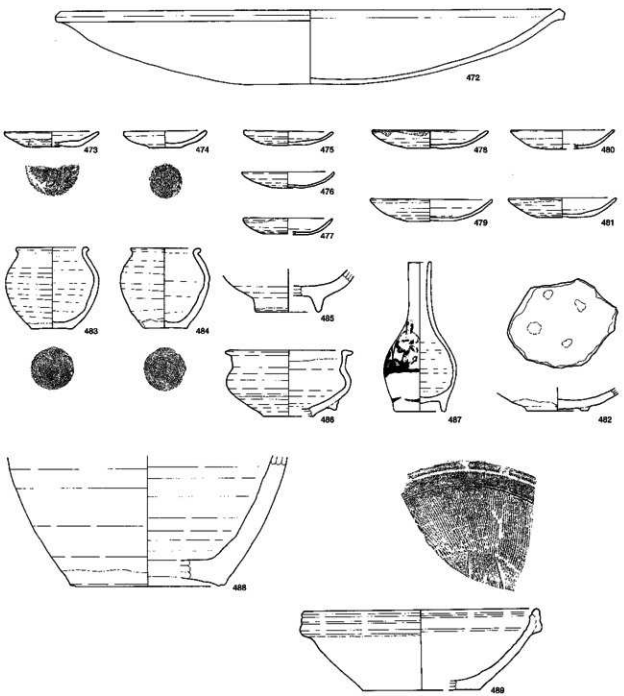
471は2区から出土した染め付け磁器の皿である。473～497は5区から出土した遺物である。472は土師質の焙烙である。大きく緩やかに内彎しながら開く口縁部をもち、口縁端部は上下にやや肥厚しながら稜をもっておさめる。口縁部外面にススが広範囲に付着している。473～482は陶器の皿である。器壁が厚いもの（473、474）と薄いもの（475～481）があり、器壁が薄いもののなかでも口縁部が内彎するもの（475、476、478、479）と口縁部が直線的にのびるもの（477、480、481）がある。内面および外面の口縁部付近には薄い透明釉がかかる。479は灯明皿として使用されていたようで、口縁部の広い範囲一帯にススが付着している。いずれも底部は回転糸切りによる切り離しである。482は陶器の皿である。見込みに重ね焼きのための畳き砂が4ヶ所確認できる。高台部分は無釉である。483、484は陶器の小壺である。内面および底部を除く外面には薄い透明釉がかかり、底部は回転糸切りによる切り離しである。485は陶器の椀である。486は陶器の香炉である。487は染め付け磁器の小瓶である。488は陶器の甕である。489は陶器の摺り鉢である。口縁部は上下に拡張し、口縁端部はまるくおさめる。端面は丸みを帯びて、口縁端部外面には2条の沈線が施される。内面には細かいカキメが緻密に施される。490～495は磁器の椀である490は外面を丸文と圏線に呉須で染め付ける。畳付けに置き砂が付着する。内面には五花弁と圏線が染め付けられ、見込みは蛇の目釉剥ぎで置き砂が一周する。491、492も同様である。493は外面に二重網目文をもつ。494は外面によろけ縞に渦巻き状の文様を染



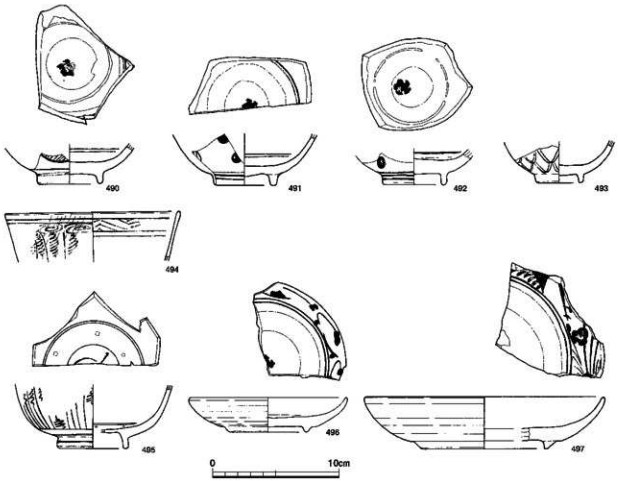
第273図　7区　包含層出土遺物実測図



第274図　2区　包含層出土遺物実測図



第275図　5区　包含層出土遺物実測図（1）



第276図　5区　包含層出土遺物実測図（2）

め付ける。495は外面によろけ縞を染め付ける。見込みには置き砂があり、残存部には3ヶ所確認できた。496、497は磁器の皿である。見込みは蛇の目釉剥ぎである。畳付けには置き砂が付着する。

3　まとめ

1．石製巡方について

相知遺跡では、南北および東西に主軸をもつ掘立柱建物跡群が確認され、遺跡の立地が交通の要衝であることから郡衙またはこれに準ずる建物の可能性を推測させている。さらに石製巡方の出土により当該期においてこれらの掘立柱建物跡が公的な構造物として位置し、当時の行政に関わる人物が遺跡内において存在した裏付けになっている。

そこでまず、この石製巡方を詳細に観察することにより遺物の位置づけを行うことができ、さらには本遺跡において確認された掘立柱建物跡が当時の公的機関としたならばどのような位置を占めていたか最低限の線引きができるものと考えられる。それではまず相知遺跡から出土した石製巡方の特徴についてふれていくことにする。この巡方は、あいにく遺構に伴うものではなく包含層出土資料である。出土位置は３区Ｕ－27グリッドであり、ＳＡ１００９に最も近く、区画溝であるＳＤ１００２と掘立柱建物跡の中間位置になる。

出土した巡方の法量はタテ3.65cm、ヨコ3.81cm、厚さ0.71cm、重さ22.97ｇ、縦・横透孔径0.22cmを測る。石材は緑色凝灰岩製で裏面から表面に向けて長さ32.5mm、幅３mmを測る細長孔を穿つ。細長孔式で外鋸方式である。コマ挽り穿孔で透し孔をあける。上面および周辺側面はていねいに研磨されている。

材質および使用石材の色の問題についてみてみると、長岡京においてはサヌキトイド系、頁岩、粘板岩系の黒色を呈するものが９割近くを占める。一方黒以外の色調を呈するものは14%にとどまる。ところがこれは、平安京や全国的な出土例に照らし合わせると異質（木村2002・平尾2002）であるという。そうすると相知遺跡出土の石製巡方は緑色凝灰岩製であることから、長岡京においては異質であるが、平安京や全国例においてはとくに差はないと見て良い。つまり、年代的には平安京以降の時期であれば符合するということが考えられる。

相知遺跡出土の石製巡方の年代については包含層資料のために決定づける確証に欠けるが、本編でも触れているように包含層遺物であっても調査区内で出土の偏向が認められるため同一グリッド出土の遺物の観察によりある程度の絞り込みはできる。くわえて石製巡方出土グリッド周辺で検出された遺構も他時期遺構との切り合いが少なく、掘立柱建物跡群も立て替えが少なく建物の存続期間が比較的短期間であることなどとあわせて考えると石製巡方の帰属年代はおおよそ９世紀以降から10世紀代の年代が考えられるであろう。ただし、あくまでも消極的な年代決定であることを断っておく。徳島県周辺の四国内における出土例をみても９～10世紀に所属時期が考えられるものがほとんどであることから（池澤2002）、当該遺跡出土資料もこれに近いものであることも考えられるであろう。しかし、遺物の所属年代は出土状況の問題と大きく関わり、このことについては簡単に相関関係が求められるような状況にはないため断定することは避けることにしたい。

この石製巡方は繰り返すようだが包含層出土資料である。つまり巡方の廃棄に際しては様々な状況が考えられるが、この場合は後世の削平がなかったということが前提になるが、包含層出土資料であるため遺構などに埋納したり祭祀行為を伴って廃棄したりといったことが行われなかったと考え得る。可能性として考えられるのは裏金具を伴わず巡方単体で出土していることから、『日本後紀』弘仁元年（810）

九月乙丑条に「動易剥落」とある記述に従うと、革帯から鋲とともにはずれ遺失物として埋没した場合を考えたほうが妥当であろう。

石製巡方の横幅がそのまま巡方を身につけていた人物の位階を示すという松村氏の基準（松村2002）に従えば、本遺跡出土の石製巡方は横3.81cmを測ることから、正七位以上従六位以下に相当する官職制秩序の上に置いてはほぼ最高位の人物が身につけていたものと思われる。つまり、従六位～正七位に相当する役職といえば地方官では「介」がこれに当てはまると考えられるであろう。

従って本遺跡で確認された建物群は「介」よりも下位にある人物たちが使用していたものと推測することができ、遺跡の性格については別にゆずることにするが、郡衙とまではいかないまでもそれに次ぐ公的機関に近い「介」クラスの役人が出入りする建物群であったことが考えられる。以上本遺跡出土の石製巡方から読み取ることができることを長々と書いたが、検討すべき問題は山積している。当該資料は吉野川上・中流域においては初の出土例であり、周辺遺跡では丸鞆の出土などもあることから遺跡の性格や出土状況、そして下流の阿波国府と関連する問題と関わってさらに検討していく必要があるだろう。

参考文献

阿部義平「銙帯と官位制について」『東北考古学の諸問題』東出版寧楽斜　1976

池澤俊幸「四国地方の銙帯」『銙帯を巡る諸問題』奈良文化財研究所　2002

伊藤玄三「末期古墳の年代について」『古代学研究』第14巻３・４号　1968

亀田博「銙帯と石帯」『関西大学考古学研究室開設三十周年記念　考古学論叢』　1983

木村泰彦「鋼銙から石銙へ」『銙帯を巡る諸問題』奈良文化財研究所　2002

佐藤興治「考察　金属器」『平城宮発掘調査報告Ⅵ』奈良国立文化財研究所　1976

藤川智之「阿波の古代官衙」『古代文化　特輯南海道諸国の官衙遺跡－調査研究の現状と課題－』第52巻　第６号（財）古代学協会　2000

平尾政幸「平安京の石銙生産」『銙帯を巡る諸問題』奈良文化財研究所　2002

松村恵司「銙帯金具の位階表示機能」『銙帯を巡る諸問題』奈良文化財研究所　2002

松本茂一・関谷良男「帯金具の検出状況と分類、編年、階位の決定について」『鳥羽贄遺跡』　1975

真鍋昌宏「一般国道32号満濃バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第１冊　買田岡下遺跡」香川県埋蔵文化財調査センター　2004

出原恵三・松村信博『四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　西鴨地遺跡』（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター　2001

2．出土須恵器と埋納状況について

相知遺跡からは柱穴・小穴や掘立柱建物跡をはじめとする遺構のほか、包含層中より比較的多くの古代に属する須恵器が出土したので、これについて非常に簡単ではあるがふれてみたいと思う。

出土した当該期の須恵器の器種についてみてみると、杯Ａ、杯Ｂが圧倒的に多く次いで壺、蓋、甕となる。これらのほとんどが破片資料であるため、個体数としては若干の誤差が生じると思われるが、それでもこの傾向は変わらないであろう。包含層出土遺物を含めた単純な出土数の比較をみてみると、杯A32点40%、杯B20点25%、壺18点22.5%、蓋７点8.75%、甕３点3.75%、皿２点2.5%、鉢１点1.25%と

なり、杯類が主要器種となっていることがわかる。その一方、甕・鉢といった器種はほとんど出土することがなく、数点を数えるのみで、主力たる器種には成り得ていない。また、これらの杯類および蓋は、一部の例外を除き、口径が10～15cm前後、器高３～４cm前後の範囲内におさまっている。つまり、杯、蓋、さらといった食器類は縮小傾向にある段階であるということができ、９世紀末～10世紀初頭の平安京１中～新段階と同様の傾向であろう。よって当該遺跡出土の須恵器群は食器類において土師器中心に再編するこの時期があてられるであろう。

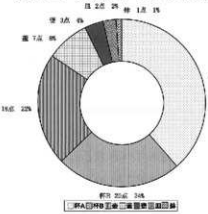
また、ＳＰ１１７２とＳＰ１１７３において須恵器壺を埋納している状況が確認されている。出土状況をみてみると、両者には類似点が多く興味深い。

その類似点を列挙してみると、

1　小穴（ＳＰ）に埋納している。
2　須恵器壺は正立させた状態である。
3　須恵器壺の口縁部は破壊または欠損している。
4　土師器杯を１点のみ共伴させている。この杯は全体の２分の１も残存してはいない。
5　埋納位置は遺構の中心からやや南に寄る。
6　方向は異なるが、壺は傾いている。
7　埋納小穴は掘立柱建物跡を構成しない。

など７項目が挙げられる。

第277図　相知遺跡　出土須恵器比率



注目されるのは、両者とも類似点４の土師器杯を共伴させている点では共通したところであるが、異なっている点は土師器杯の扱いについてである。ＳＰ１１７２では須恵器壺は口縁部が破壊されているものの完形で残存しており、土師器杯は壺の下側にあることから、壺よりも先に埋納させていることがわかる。一方ＳＰ１１７３では、壺は頸部以下の残存であり口縁部は欠損している。これについては遺跡全体が削平を受けているため後世の破壊の影響があった可能性が全く無かったとは言いきれないが、ＳＰ１１７２の須恵器壺の口縁部も割れて出土したものを接合したものである。このことから口縁部を破壊することで日常世界との切りはなしを意とする行為の表れであると思われる。ところが、共伴している土師器杯の出土位置は、壺の北西側肩部に乗るように埋納されており、埋納時に壺の口縁部が欠損した状態であったならば、あたかも壺の欠損した口縁部をふさぐ役目で置かれ、それがずれてしまったかのようである。いずれも須恵器壺と土師器杯をそれぞれ１点ずつ用い、埋納の前後の差はあれども同一の埋納行為があったことは確かである。両遺構は直線距離にして９mほどしかはなれておらず、非常に近接地にある。これらは同時に行われた行為かどうかを判明する根拠はないが、仮にわずかでも時期差があるのであればこの付近を地鎮の場としていたことも考えられる。

しかし、壺の中に堆積していた土壌の分析などは行っていないために内容物までは不明であり、状況証拠が不十分である。よってこれ以上の埋納行為の復元は困難であるが、当該地域の地鎮祭祀を解明する上では貴重な例であるといえる。両出土状況のように須恵器壺と土師器杯が共伴することは、当該期が須恵器から土師器中心に再編される時期でもあり、吉野川流域においても、都城の影響を少なからず受けていたことと理解できよう。

参考文献

古代の土器研究会編『古代の土器1　都城の土器集成』1992
古代の土器研究会編『古代の土器2　都城の土器集成Ⅱ』1993
片桐孝浩「考察－古代から中世にかけての土器様相－」『川津元結木遺跡』香川県教育委員会　1992
「讃岐における中世前半の供膳具（1）」『研究紀要Ⅱ（財）香川県埋蔵文化財調査センター　1994

3．古代の掘立柱建物跡群について

今回の発掘調査においては遺構年代が古代に帰属する掘立柱建物跡は3区で12棟、6区で1棟の計13棟と推測している。しかし、建物遺構に伴って出土する遺物量は非常に少なく、加えて完形品も稀であることから遺構の年代決定には大きな根拠にかけている。そのうえ、遺構の切り合いや重複以外に細かい前後関係は不明であるため、大きな時間幅で捉えているにすぎず、建物遺構の動態などはつかめていない。したがって、建物群の所属時期の問題は別にゆずるとして、それ以外の特徴をとくに古代の掘立柱建物跡群を中心に抽出していくことにしたい。

まず、第一に注目すべき点としては、3区の南側において屋敷地1とした範囲の中にＳＡ１００５～１００９の5棟の建物が主軸方向を揃え並立していることである。また、この地点から若干南東側にはなれる位置になるがＳＡ１００１が主軸方位を同じくしている。この6棟の建物の主軸（長軸）は約80°東にふっていることは明白であり、これに直交する軸は北から約10°西へふる結果となる。つまりこのＮ－10°－Ｗという方位は条里方位に合致する方位である。このことから、この6棟の建物は条里方向を意識して建てられており、そのうちの5棟はさらにそれぞれの建物が切り合いもなく、間隔が0.8～1.2mを保ちつつ並立していることから、同時存在していた可能性が考えられる。ただし、ＳＡ１００６と１００７の間が若干狭すぎるために5棟が同時併存していたと解釈するには、多少強引すぎるかもしれない。

また、前述した5棟の建物との前後関係は不明であるが、これに重複してＳＡ１００２～１００４の3棟の建物が確認できている。この3棟の建物は主軸方向を北にとり多少バラツキはあるものの、おおむねＮ－10°－Ｗといえる方角を示している。このことから屋敷地1に占地している建物は前述の5棟とあわせて条里方位をつよく意識して建てられていたことがわかる。同様のことは屋敷地2とした2棟の建物や、調査区の北西側に位置するＳＡ１０１２についても言える。

屋敷地1にあるこれら9棟の建物は平面形態をみてみると、そのうち総柱建物は1棟のみで残り8棟は側柱式である。つまり総柱式である1棟が倉庫で、そのほか8棟が居住のためのものであろうと考えられる。

そこで、屋敷地1に注目してみると、群をなす掘立柱建物跡は5棟を南北に一直線に並べるのではなく、西輔に3棟、東側に2棟と並列させている。規模はいずれも同じくするが、2間×3間とさほど大きくなく全て側柱式である。また各柱穴の掘り方も平面プランは円形を呈し、長軸は0.4m前後とさほど大きくはない。これらのことは規格性という意味ではある程度統一はされているものの、郡衙など当時の公的な建物と断定するための必須条件を備えているとは思われない。よってこの建物群付近の包含層中より石製巡方が出土したこととあわせて考えると、比較的公的性格を持った人物（官人）が居住していたということまでは言及できないが、出入りがあった建物であることを示すといえるだろう。よって、郡衙に準ずる様な公的な建物群であろうか。

また、調査終了時においては建物の規模・構成から荘所あるいは在地有力層の居宅跡とみられている。

しかし、調査終了時およびその後の整理作業でも遺構内はもちろんのこと包含層中からも瓦の出土は確認できなかったことから、これらの建物群が在地有力層の居宅跡であったとしても、板葺きもしくは茅葺き構造であった可能性が考えられる。

一方、当該屋敷地の東側には、おおむね南北に主軸をもつ溝ＳＤ１００１～１００３が検出されている。ＳＤ１００１は北側の調査区外へ延び、一方この中でも最長のＳＤ１００３の南側は調査区外へと延び、両者とも継続方向や総延長距離は不明である。しかし、南西に隣接する２区や５区においては同様の溝は全く確認できなかったため、屋敷地１の西側や南側において同様な溝は存在していなかった可能性も考えられる。

ところで、この溝の機能的なものについてみてみると、北に向かって約0.01%の傾斜率をもつことから水を流すにしてもさほど効率よく流れていたとは考えられない。さらに土層の堆積状況をみてみると、多少色調の差があるもののいずれも砂質土が堆積しておりシルト層や粘質土層の堆積がないことから流水・滞水状況を示しているとは言えない。つまりこのことから、ＳＤ１００２、１００３の両溝は常時流水があったものとはいいきれず、一時的に水の流れがあった可能性は考えられるが、通常は水がなかった状態であったろうと考えられる。

かさねて、ＳＤ１００１～１００３と自然流路ＳＲ１００１の関係についてみてみると、遺構検出段階から両者が切り合っていることが確認できている。また土層断面の観察においても溝は自然流路が埋没したのちに開削されたことが裏付けられていることから両者は同時に存在してはおらず、要するに自然流路からの取水や排水は行われていなかったと考えられる。

これらのことからこの３条の溝は、取水や排水を目的とした溝ではなく、ＳＤ１００３の主軸方向は屋敷地１の建物群と平行になることなどから、おもにＳＤ１００３によって屋敷地１と屋敷地２を東西に区画する目的で開削された区画溝であろうと考えられる。

また、この３条の溝のうちＳＤ１００２と１００３において両者の前後関係をみてみると、切り合い部分の土層断面の観察から開削当初は南から北に向かってやや蛇行するＳＤ１００２のみの流れをもっていたが、いつの時期か断定することはできないものの、あまり時間をおかないうちにほぼ直線的に北を向くＳＤ１００３の流れに再掘削されていることが確認できている。またＳＤ１００３は各地点の土層堆積状況の観察により再掘削が行われていることが確認できている。つまり、ＳＤ１００２、１００３、１００３の再掘削と３回にわたって比較的長い期間この溝が区画溝として機能していたことがうかがえる。しかし、前述したように屋敷地１の西側や南側において同様の溝は確認できていないことから、区画を目的として開削された溝は南北方向の一条の溝のみであったことが判断できる。

そこで遺跡の立地をみてみると、遺跡からは吉野川下流域の徳島平野までは舟運を用いるとほぼ直線的に移動することができる。また遺跡から北に向かっては、猪ノ鼻峠を経て阿讃山脈を越え西讃の平野地に通じる。さらに吉野川を伝い南に向かうと土佐に、東流する吉野川が南に向きを変える池田町白地から西に向かって四国山地と阿讃山地の谷あいを進むと東予平野にほぼ一直線で至ることができる。つまり遺跡の位置は東西南北の各方面に向かう交通の要に位置しており、遺跡は拠点的な性格を示していると言える。これらの立地も関係して遺跡の背景をつくり出していたと考えられるであろう。

当該遺跡は屋敷地１の掘立柱建物跡群よりも時期を遡る遺構・遺物については、弥生時代後期の遺構にまで間が大きくあき、継続されてきた集落ではない。さらにはそれぞれの屋敷地における建物群は建て替えが継続せず比較的短期に終焉を迎えてしまい、建物に限らず小規模な遺構までわずかながら場所

を変え遺構群を形成している。このことはまさに古代の律令制を受容し、それが浸透していく中で出現する遺跡であるということが言え、かつ屋敷地または建物構成を堅持し続けることができない拠点遺跡であるといえる。

Ⅳ　自然科学分析

相知遺跡出土土器の胎土分析

岡山理科大学自然科学研究所
白石　純

（1）分析目的

相知遺跡の弥生時代後期および中世土器（14～15世紀）の理化学的な胎土分析を実施し、以下のことについて検討した。

（1）弥生時代後期の土器で、形態・技法・肉眼観察（資料提供者による）などで搬入品と考えられる土器が、胎土分析ではどうか。また、在地産と考えられる土器で遺跡ごと（相知遺跡、井出上遺跡、須賀遺跡）に胎土の差異があるかどうか。また、吉野川南岸（相知遺跡、井出上遺跡）と北岸（大柿遺跡）の土器で胎土に違いがあるか。

（2）中世土器では、供膳具（杯・皿）と煮沸具（鍋・羽釜）で胎土に違いがみられるか。肉眼観察（資料提供者による）などで、胎土中に結晶片岩を含むものを在地産、含まないものを搬入品とした場合、胎土分析ではどうか。また、吉野川南岸（相知・井出上遺跡）と北岸（大柿・土井・円通寺遺跡）のあいだで胎土に違いがあるか。

なお、分析方法は蛍光X線分析法により胎土中の成分（元素）の量を測定し、実体顕微鏡観察では肉眼観察により土器表面の砂粒（岩石・鉱物）の同定をそれぞれ実施し、胎土の差異について検討した。

（2）分析結果

分析した土器は、第3表に示した弥生時代後期後半の土器25点。中世土器22点の合計47点である。

【蛍光X線分析法による胎土分析】

この分析で測定した元素は、主要元素であるSi、Ti、Al、Fe、Mn、Mg、Ca、Na、K、Pと微量元素のRb、Sr、Zrの13元素である。このうち、現在までの分析で胎土に違いがみられる元素としてCa、K、Rb、Srなどの元素があげられる。ここでは、K、Caの元素を用いてX－Y散布図を作成し、胎土の違いについて検討した。その結果、第278図K－Ca散布図では弥生時代後期の搬入品と考えられる土器がどの産地に推定されるか検討した。1・3の在地産土器は1がCa量の少ないところ（吉野川下流域分布域）に分布し、逆に3は讃岐や、吉野川下流域のCa量が非常に多く含まれるところに分布した。また、4・5の吉野川下流域産は下流域のCa量が約2%～4%の付近に分布した。讃岐産（2・7）は2が讃岐領域と吉野川下流域が重なる分布域に、7は讃岐領域に分布した。吉備産（6）は吉備分布域にそれぞれ分布した。

第279図K－Ca散布図では、相知・井出上・須賀の各遺跡で胎土に違いがあるかどうか検討した。すると、相知遺跡内では24（甕）が他のものと離れて単独で分布した。また、相知と井出上はそれぞれ、遺跡ごとにまとまった。そして、吉野川南岸と北岸の遺跡のあいだで胎土に違いがあるかどうかでは、井出上と大柿が胎土的に類似していた。須賀遺跡は、相知・井出上遺跡の両者に広く分布した。

第280図K－Ca散布図では、中世土器の供膳具（杯・皿）と煮沸具（鍋・羽釜）の器種別による胎土の比較を行った。その結果、ほとんどが器種ごとで胎土に差異はなかったが、井出上の26（杯）・28（皿）が他の土器と異なっていた。

第281図K－Ca散布図では、吉野川南岸（相知・井出上遺跡）と北岸（大柿・土井・円通寺遺跡）の土器で胎土に違いがあるか検討した。しかし、南岸・北岸の遺跡の立地に関係なく、胎土ではほぼ同じであった。

【実体顕微鏡による胎土観察】

実体顕微鏡により、10倍～30倍で土器表面の砂粒観察(岩石・鉱物)を行った。

この結果、弥生時代の土器は以下のような4種類の胎土に分類できた。

1類 ···· 0.5mm～3mmの石英、長石、結晶片岩（多い）を含み、火山ガラス(0.5mm以下)を含む。

2類 ···· 0.5mm～3mmの石英（多い）、長石を含み、火山ガラス(0.5mm以下)を含む。

3類 ···· 2mm以下の石英（多い）、長石を含み、0.5mm以下の角閃石・雲母を多量に含む。

4類 ···· 1mm前後の石英（多い）、長石を含み、0.5mm以下の角閃石を少量含む。

なお、2類には試料番号1（在地？）・24、3類には7（讃岐）、4類には6（吉備）がそれぞれ該当し、1類にはこれ以外の在地産土器が対応する。

次に、中世土器では、以下の2種類に分類される。

1類 ···· 1mm以下の石英、長石、結晶片岩（多い）を含み、火山ガラス(0.5mm以下)を含む。

2類 ···· 0.5mm～3mmの石英（多い）、長石を含み、1mm以下の雲母を少量含む。

なお、1類には供膳具（杯・皿）が2類には煮沸具（鍋・羽釜）がそれぞれ対応する。

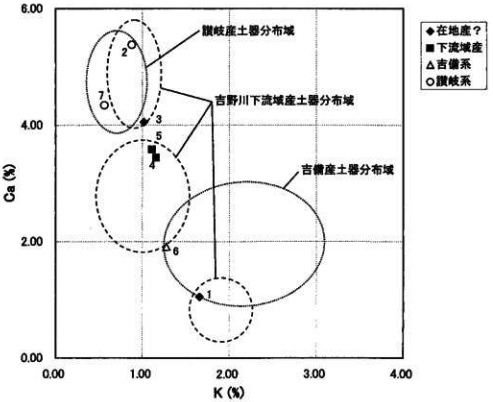
（3）まとめ

相知・井出上遺跡出土の弥生および中世土器を複数の胎土分析法により検討したところ、以下のことが明らかとなった。

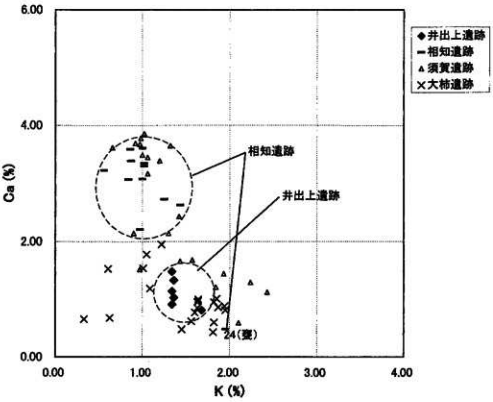
蛍光X線分析法および実体顕微鏡による胎土分析結果から、弥生時代後期の搬入品と考えられる土器のうち、2が吉野川下流域に推定され、他のものは、試料提供者の産地結果とほぼ一致した。また、相知と井出上のあいだで分析値に違いがあったが、砂粒観察では差異はみいだせなかった。周辺遺跡（須賀・大柿）との比較では、須賀が広く散漫な分布で、大柿が井出上とほぼ同じ分布であった。

中世土器の分析では、蛍光X線分析で井出上の26（杯）・28（皿）が他の土器と胎土が異なったが、砂粒観察では違いがなかった。また、吉野川南岸と北岸の遺跡で胎土に違いがあるかどうかでは、蛍光X線、砂粒観察とも胎土に違いはみられなかった。ただ、砂粒観察では供膳具（杯・皿）と煮沸具（鍋・羽釜）で異なり、供膳具には結晶片岩が含まれていることから、在地で生産されたと推定される。しかし、煮沸具には石英（多い）、雲母が含まれ、花崗岩の岩片を含んでいるものもあることから、吉野川流域で生産されたものではなく、他地域からの搬入品と推定される。

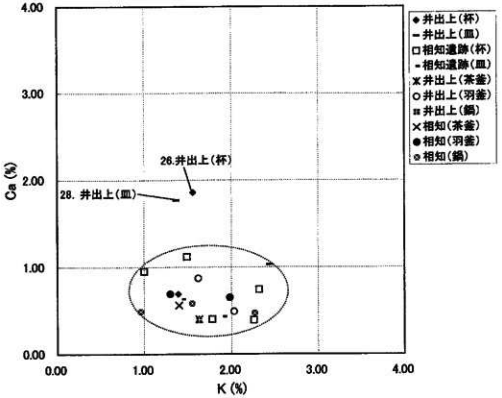
この分析を実施する機会を与えていただいた田川　憲氏および徳島県埋蔵文化財センターの職員の方々にはいろいろお世話になった。記して感謝致します。



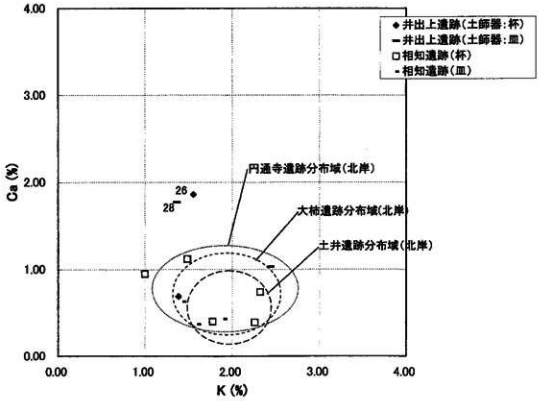
第278図　相知遺跡出土搬入品（？）土器の胎土比較（K-Ca散布図）



第279図　弥生時代後期の各遺跡別での胎土比較（K-Ca散布図）



第280図　相知・井出上遺跡の中世土師器器種別の比較（K-Ca散布図）



第281図　中世土師器の各遺跡ごとの比較（K-Ca散布図）

第３表　相知・井出上遺跡土器胎土分析結果一覧表

試料番号	遺跡名	掲載番号	器種	出土地区	時期	Si	Ti	Al	Fe	Mn	Mg	Ca	Na	K	P	Rb	Sr	Zr	備考
1	井出上遺跡	789	壺	包含層	弥生後期前半	67.67	1.00	19.14	4.76	0.06	1.84	1.05	2.44	1.88	0.14	138	148	648	在地産？
2	井出上遺跡	804	壺	包含層	弥生後期前半	55.81	1.95	17.41	13.83	0.22	2.83	5.38	1.83	0.88	0.06	99	173	309	讃岐系？
3	井出上遺跡	819	壺	包含層	弥生後期前半	62.96	1.52	16.73	9.49	0.14	2.38	4.05	1.67	1.02	0.08	99	137	284	在地産？
4	井出上遺跡	379	壺	SB1005	弥生後期後半	56.35	2.04	20.63	12.14	0.15	2.47	3.44	1.28	1.18	0.10	121	168	339	下流域
5	井出上遺跡	384	壺	SB1005	弥生後期後半	57.91	1.78	20.34	10.88	0.14	2.31	3.56	1.82	1.11	0.09	114	158	342	下流域
6	井出上遺跡	404	壺	SB1006	弥生後期後半	57.00	1.00	25.63	8.11	0.10	2.08	1.81	2.60	1.28	0.14	118	395	294	吉備系
7	井出上遺跡	403	壺	SB1005	弥生後期後半	47.85	1.17	25.16	15.38	0.29	2.35	4.34	1.72	0.58	0.33	64	274	159	讃岐系
8	井出上遺跡	822	壺	包含層	弥生後期前半	68.21	0.91	17.58	6.27	0.08	1.80	1.33	2.16	1.38	0.15	114	82	240	...
9	井出上遺跡	810	壺	包含層	弥生後期後半	62.60	1.15	19.40	9.72	0.15	2.25	1.48	1.55	1.34	0.12	132	117	285	...
10	井出上遺跡	816	壺	包含層	弥生後期後半	66.66	0.99	17.45	7.28	0.14	2.23	0.91	2.70	1.34	0.16	135	67	245	...
11	井出上遺跡	817	壺	包含層	弥生後期後半	65.58	0.88	17.82	7.84	0.12	2.35	0.81	2.80	1.69	0.14	194	65	274	...
12	井出上遺跡	843	鉢	包含層	弥生後期後半	62.61	1.21	19.99	9.36	0.20	2.20	1.14	1.62	1.34	0.14	129	82	302	...
13	井出上遺跡	844	鉢	包含層	弥生後期後半	64.21	1.03	19.24	8.59	0.19	2.24	1.03	1.80	1.36	0.12	110	102	273	...
14	相知遺跡	20	壺	SD1003	弥生後期前半	55.44	1.96	22.42	10.66	0.15	2.24	2.73	2.88	1.25	0.04	146	148	373	...
15	相知遺跡	24	壺	SD1003	弥生後期前半	58.89	1.67	20.41	9.59	0.16	2.38	2.63	2.55	1.43	0.12	113	142	287	...
16	相知遺跡	224	壺	包含層	弥生後期前半	53.33	2.07	19.35	15.52	0.19	2.27	3.59	2.34	0.88	0.18	114	143	342	...
17	相知遺跡	236	壺	包含層	弥生後期前半	54.05	2.03	19.09	16.54	0.20	2.22	3.61	0.65	1.00	0.13	163	157	368	...
18	相知遺跡	240	壺	包含層	弥生後期前半	51.47	1.93	15.28	15.28	0.19	2.77	3.07	4.16	0.84	0.15	124	136	313	...
19	相知遺跡	80	壺	SR1001	弥生後期前半	53.41	2.05	18.75	15.71	0.23	2.35	3.35	2.64	1.02	0.28	155	157	328	...
20	相知遺跡	82	甕	SR1001	弥生後期前半	55.44	1.90	20.43	13.14	0.19	2.36	3.30	1.80	1.02	0.18	150	148	338	...
21	相知遺跡		壺	包含層	弥生後期前半	51.79	2.11	18.77	18.56	0.23	2.09	3.39	1.61	0.87	0.26	152	174	380	...
22	相知遺跡		甕	包含層	弥生後期前半	46.39	2.46	23.68	19.59	0.24	2.27	3.23	1.11	0.56	0.21	114	111	398	...
23	相知遺跡		壺	包含層	弥生後期前半	54.33	1.99	20.19	14.11	0.21	2.23	3.08	2.41	1.00	0.15	140	150	312	...
24	相知遺跡		壺	包含層	弥生後期前半	67.32	0.79	20.42	4.07	0.04	1.87	0.48	2.55	1.95	0.21	192	68	338	...
25	相知遺跡		高坏	包含層	弥生後期前半	54.31	1.94	21.06	13.63	0.18	2.54	2.21	2.75	0.97	0.11	153	49	370	...
26	井出上遺跡	1001	土師器 杯	包含層	14C	60.31	1.33	19.28	10.68	0.20	2.18	1.86	2.33	1.56	0.09	162	142	362	...
27	井出上遺跡	1009	土師器 杯	包含層	14C	65.91	0.71	18.87	4.05	0.04	2.50	0.89	5.56	1.39	0.12	128	78	263	...
28	井出上遺跡		土師器 皿	包含層	14C後半	62.44	1.25	19.57	9.27	0.17	2.23	1.77	2.62	1.37	0.11	184	118	416	...
29	井出上遺跡		土師器 皿	包含層	15C前半	58.93	1.21	20.75	9.98	0.20	2.53	1.03	2.28	2.44	0.37	241	113	350	...
30	井出上遺跡	1029	土師器 羽釜	包含層	14C後半~15C	65.89	0.78	19.14	7.10	0.08	1.77	0.40	2.64	1.63	0.40	148	83	418	在地産？
31	井出上遺跡	1031	土師器 羽釜	包含層	14C	67.22	0.96	18.91	6.02	0.15	1.56	0.87	2.18	1.62	0.33	102	141	511	在地産？
32	井出上遺跡	1032	土師器 羽釜	包含層	14C	67.30	0.85	20.02	5.01	0.08	1.76	0.49	2.14	2.03	0.16	176	89	343	在地産？
33	井出上遺跡	1034	土師器 鍋	包含層	14C	68.05	0.94	18.58	5.70	0.06	1.79	0.39	2.52	1.63	0.18	159	83	363	...
34	相知遺跡	387	土師器 杯	包含応	14C前半	66.18	0.80	19.75	5.17	0.07	1.90	1.12	2.19	1.49	1.11	146	126	288	...
35	相知遺跡	388	土師器 杯	包含層	14C前半	65.39	0.81	20.32	5.97	0.06	1.66	0.74	1.19	2.32	1.13	219	145	630	...
36	相知遺跡	397	土師器 杯	包含層	14C前半	64.99	0.80	22.91	4.55	0.03	1.88	0.40	2.24	1.78	0.23	137	80	316	...
37	相知遺跡	412	土師器 杯	包含層	14C前半	53.84	1.10	25.82	7.97	0.12	3.17	0.85	5.79	1.00	0.07	67	63	358	...
38	相知遺跡	426	土師器 杯	包含層	14C前半	66.41	0.95	21.02	4.77	0.05	1.84	0.39	1.87	2.26	0.22	202	87	699	...
39	相知遺跡		土師器 皿	包含層	14C前半	68.26	0.68	19.02	5.03	0.06	1.90	0.43	2.30	1.91	0.19	181	103	337	...
40	相知遺跡		土師器 皿	包含層	14C後半	66.74	0.88	20.59	5.22	0.08	1.98	0.37	2.07	1.61	0.34	154	82	292	...
41	相知遺跡		土師器 皿	包含層	14C後半	66.59	0.95	18.61	7.24	0.09	1.59	0.63	2.62	1.44	0.09	136	98	335	...
42	相知遺跡	356	土師器 羽釜	包含層	14C	66.48	0.95	19.30	7.42	0.07	1.36	0.56	2.22	1.40	0.04	158	111	465	...
43	相知遺跡	344	土師器 羽釜	包含層	14C後半	70.16	0.84	18.56	4.54	0.04	1.38	0.65	1.50	1.98	0.12	132	114	424	...
44	相知遺跡	348	土師器 羽釜	包含層	14C後半	62.02	1.16	20.74	9.86	0.21	1.48	0.69	2.21	1.30	0.07	165	64	313	...
45	相知遺跡	336	土師器 鍋	包含層	14C後半	67.15	0.94	18.48	7.25	0.06	1.43	0.49	2.94	0.96	0.10	97	118	388	...
46	相知遺跡	355	土師器 鍋	包含層	14C後半	67.96	0.81	19.19	5.61	0.04	1.31	0.58	2.63	1.55	0.06	135	88	423	...
47	相知遺跡	362	土師器 鍋	包含層	14C後半	63.92	0.82	22.52	6.62	0.06	1.38	0.47	1.70	2.27	0.01	203	88	585	...

遺構一覧表

第4表　検出遺構一覧表　掘立柱建物跡

調査区	遺構番号	位置	平面形態	構造(間)	遺構規模(cm) 梁間 長軸	梁間 柱間寸法	桁行 長軸	桁行 柱間寸法	面積(㎡)	主軸方位	付属施設	出土遺物
3区	SA1001	Q·R·26～28	側柱式	2×2	290	145.0	506	253.0	14.67	N－79° －E		須恵:椀
	SA1002	R·T·25～27	側柱式	2×3	460	230.0	698	232.7	32.11	N 13° W		須恵:杯、土師:杯
	SA1003	R·S·26·27	側柱式	1×3	466	466.0	682	227.3	31.78	N－10° －W		弥生:高杯、土師:杯·椀·皿、須恵:杯·甕、黒色:椀
	SA1004	U·V·24·25	総柱式	2×3	404	202.0	636	212.0	25.69	N－6° －E		
	SA1005	Q～S·23～25	側柱式	2×3	460	230.0	800	266.7	36.80	N－81° －E		土師:杯·椀·皿、須恵:甕
	SA1006	R～T·23～25	側柱式	2×3	498	249.0	794	264.7	39.54	N－81° －E		弥生:壺、土師:杯·椀·皿、須恵:杯·蓋、黒色:椀
	SA1007	T·U·23·24	側柱式	2×3	478	239.0	750	250.0	35.85	N－79° －E		土師:杯·皿、黒色:杯·椀
	SA1008	S·T·25·26	側柱式	2×2	450	225.0	650	325.0	29.25	N－80° －E	南庇	土師:杯·椀、須恵:甕
	SA1009	T·U·24～26	側柱式	2×3	486	243.0	678	226.0	32.95	N 60° E		土師:杯·椀·皿、須恵:杯、黒色:椀
	SA1010	V·W·28·29	側柱式	2×2	480	240.0	690	345.0	33.12	N－81° －E		
	SA1011	V·W·29·30	側柱式	1×2	490	490.0	490	245.0	24.01	N－81° －E		
	SA1012	X·Y·21～23	側柱式	1×3	427	427.0	782	260.7	33.39	N－73° －E		土師:皿
	SA1013	L～N·69～71	側柱式	2×3	492	246.0	770	256.7	37.88	N－69° －E		土師:甕
	SA1014	E·F·67～69	側柱式	2×3	460	230.0	980	326.7	45.08	N 87° E		
	SA1015	K～M·69～71	側柱式	1×3	400	400.0	800	266.7	32.00	N－67° －E	SG1001	土師:杯·小皿·皿、瓦器:椀、黒色:椀、陶器:鉢
	SA1016	M·N·71·72	側柱式	2×2	400	200.0	425	212.5	17.00	N－60° E		
	SA1017	M·N·67～69	側柱式	1×3	440	220.0	760	253.3	33.44	N－82° －E		
	SA1018	L·M·67～69	側柱式	1×3	390	390.0	830	276.7	32.37	N－63° －E		
6区	SA1019	N·O·70·71	側柱式	1×2	325	325.0	474	237.0	15.41	N 63° －E		
	SA1020	N～P·69～71	側柱式	2×3	480	240.0	770	256.7	36.96	N－67° －E		
	SA1021	O·P·72·73	側柱式	1×2	252	252.0	430	215.0	10.84	N－71° －E	SG1002	
	SA1022	P·Q·71·72	側柱式	1×1	296	296.0	482	482.0	14.27	N－74° －E		
	SG1001	M·69～71	直線	4間	－	－	890	222.5	－		SA1015	
	SG1002	P·Q·72～73	L形	3×3	530	176.7	690	230.0	－		SA1021	

第5表　検出遺構一覧表　土坑（1）

調査区	遺構番号	地区（グリッド）	遺構規模(m) 長軸	短軸	深度	平面形	断面形	出土遺物	時期	備考
1区	SK1001	AA－7	1.40	0.60	0.44	不整楕円形	舟底形			SP1025を切る
	SK1002	AA－8	0.94	0.42	0.43	不整楕円形	逆台形			
	SK1003	AB－7	1.08	0.88	0.24	不整形	逆台形	弥生:甕		
	SK1004	AB･AC－9	2.90	0.70	0.40	不整楕円形	レンズ状			SK1003に切られる
	SK1005	AC　9	0.88	0.64	0.54	不整楕円形	舟底形	土師:皿		SK1004を切る
2区	SK1006	X　18	0.89	0.30	0.27	不整形	舟底形			
	SK1007	X－18	2.38	0.92	0.32	長方形	逆台形			
	SK1008	X－17	0.59	0.40	0.10	不整楕円形	不整舟底形			
	SK1009	X－17	1.40	0.68	0.22	隅丸長方形	逆台形			
	SK1010	Z－17	1.16	0.53	0.13	不整楕円形	レンズ状			
	SK1011	X･Y－16	1.88	0.67	0.48	不整形	不整形			
	SK1012	Y－15･16	0.76	0.50	0.28	不整楕円形	逆台形			
	SK1013	AB－13	3.70	1.66	1.14	不整長方形	逆台形			
3区	SK1014	AA･22	1.30	0.60	0.10	不整形	逆台形	弥生:壺･高杯･鉢･鉢		
	SK1015	Y　23	0.90	0.65	0.26	不整形	逆台形			
	SK1016	W･21	0.45	0.40	0.56	不整形	逆台形	弥生:壺		
	SK1017	U･W 21･22	0.65	0.52	0.37	隅丸方形	逆台形			
	SK1018	S－22	0.70	0.50	0.42	不整形	逆台形	土師:杯		
	SK1019	S－22	0.70	0.58	0.45	楕円形	U字形	土師:杯､鍋底:杯､黒色:椀		
	SK1020	R･S－22	0.66	0.46	0.32	不整楕円形	逆台形	土師:椀		
	SK1021	T－23	1.60	1.17	0.16	不整形	逆台形			
	SK1022	T－24	0.95	0.60	0.37	不整形	逆台形			
	SK1023	U－23･24	1.17	0.80	0.29	不整形	逆台形			
	SK1024	T－26	1.22	0.40	0.17	不整形	不整形			
	SK1025	S－28	0.89	0.40	0.08	不整形	逆台形			
	SK1026	X･Y－30	2.89	0.95	0.50	不整形	逆台形			調査区外に延びる
4区	SK1027	S－15	1.60	0.32	0.28	不整形	逆台形			カクランに切られる
	SK1028	R－15	0.95	0.28	0.15	不整形	不整形			

第6表　検出遺構一覧表　土坑（2）

調査区	遺構番号	地区（グリッド）	遺構規模(m) 長軸	短軸	深度	平面形	断面形	出土遺物	時期	備考
4区	SK1029	R−13・14	2.29	0.72	0.54	不整楕円形	不整形			
	SK1030	R−13	1.44	0.74	0.39	不整形	逆台形			SP1579を切る
	SK1031	S−12	0.92	0.76	0.49	方　形	逆台形			
	SK1032	Q−12・13	1.50	1.20	0.41	不整形	逆台形			
	SK1033	O−13・14	0.98	0.72	0.30	不整方形	逆台形			
5区	SK1034	M−19	2.20	0.90	0.36	不整円形	逆台形	土師:杯		
	SK1035	M　18	0.80	0.62	0.12	不整形	逆台形	弥生:壺		SR1001を切る
	SK2001									不明
	SK2002	L・M−17	0.94	0.88	0.15	円　形	逆台形	土師:皿		
	SK1036	J−74・75	2.08	0.50	0.30	不整楕円形	逆台形	土師:鉢		
	SK1037	J・K 72・73	0.72	0.13	0.26	不整形	逆台形			SK1038に切られる
	SK1038	J・K−73	0.85	0.77	0.26	円　形	逆台形	土師:鍋・脚		SK1037を切る
	SK1039	J−71	0.56	0.50	0.25	不整形	逆台形	土師:甕		SP1615を切る
	SK1040	E−70	1.73	1.06	0.24	不整形	逆台形			
	SK1041	F−69	0.74	0.58	0.36	不整楕円形	逆台形			
	SK1042	E・F −67・68	1.36	0.84	0.12	隅丸長方形	逆台形			
	SK1043	E−67	0.90	0.72	0.18	不整形	不整形			SP1700に切られる
	SK1044	E　67	1.07	0.32	0.11	不整形	逆台形			
	SK1045	F　67	0.80	0.64	0.10	不整形	逆台形			
6区	SK1046	E・F −66・67	0.96	0.82	0.17	不整円形	不整形			
	SK1047	G−68	0.80	0.72	0.50	隅丸方形	U字形			
	SK1048	N−70	0.68	0.54	0.18	不整楕円形	逆台形			SK1049に切られる
	SK1049	N−70	0.87	0.68	0.34	不整楕円形	逆台形	土師:甕,黒色:椀		SK1048を切る
	SK1050	P−70	0.78	0.60	0.29	不整楕円形	船底形			
	SK1051	O−70	1.36	0.71	0.38	不整楕円形	逆台形	土師:杯		
	SK1052	O−70	1.02	0.83	0.33	不整楕円形	逆台形			
	SK1053	P−71	1.00	0.96	0.42	不整円形	U字形			
	SK1054	P−71	1.04	0.92	0.38	不整方形	逆台形			SK1055を切る
	SK1055	P−71・72	0.94	0.74	0.45	不整円形	逆台形	土師:鉢・杯		SK1056・SK1057を切り、SK1054に切られる
	SK1056	P−72	0.94	0.75	0.41	不整形	逆台形			SP11095を切り、SK1055に切られる

第7表　検出遺構一覧表　土坑（3）

調査区	遺構番号	地区（グリッド）	遺構規模(m) 長軸	短軸	深度	平面形	断面形	出土遺物	時期	備考
6区	SK1057	P−71・72	1.17	0.82	0.50	不整楕円形	逆台形			SK1055に切られる
	SK1058	O　72	1.54	0.80	0.86	楕円形	逆台形	不器:剥片		
	SK1059	P−72	0.63	0.46	0.16	不整楕円形	不整形			
	SK1060	P・Q 72・73	1.37	0.85	0.44	隅丸長方形	逆台形	土師:壺		SP11018を切る
	SK1061	Q−72	0.62	0.53	0.24	不整円形	逆台形			
	SK1062	N−69	0.77	0.60	0.14	不整楕円形	逆台形			SP11040・SP11041を切る

第8表　検出遺構一覧表　溝

調査区	遺構番号	地区（グリッド）	遺構規模(m) 検出長	最大幅	深度	断面形	出土遺物	時期	備考
3区	SD1001	Y・Z・AA・AB 23・24	10.40	1.70	0.78	不整船底形			
	SD1002	U〜X −24〜28	26.25	0.38	0.35	U字形			
	SD1003	Q〜Z −27〜29	38.00	0.30	0.33	船底形	弥生:甕,鉢色:縄		SP1376に切られる
	SD1004	S〜U −22・23	6.50	0.37	0.18	船底形	弧底:杯		
4区	SD1005	Q〜S 13〜15	13.00	0.40	0.22	不整形			SP1681を切り，SP1637・SP1560・SP1558に切られる
6区	SD1006	P・G 69・70	6.20	0.62	0.16	船底形			
	SD1007	G−67・68	4.54	0.66	0.13	逆台形			
	SD1008	H〜L −66〜72	37.25	0.22	1.01	逆台形	弥生:壺・甕・鉢・高杯		
	SD1009	M−67	1.04	0.20	0.08	船底形			SP1776を切る
	SD1010	O−71	0.84	0.20	0.16	逆台形			

第9表　検出遺構一覧表　自然流路

調査区	遺構番号	地区（グリッド）	遺構規模(m) 長軸	短軸	深度	断面形	出土遺物	時期	備考
3・4・5区	SK1001	K〜Z −15〜28	102.40	6.00	1.50	不整形	弥生:壺・甕,石器:剥片		SK1035に切られる

第10表　検出遺構一覧表　不明遺構

調査区	遺構番号	地区（グリッド）	遺構規模(m) 長軸	短軸	深度	平面形	断面形	出土遺物	時期	備考
8区	SX1001	W－20	0.50	0.20	0.12	不整形	逆台形			調査区外に延びる
	SX1002	T－24・25	3.40	0.30	0.45	不整形	不整形			SP1274・SP1502に切られる
	SX1003	Q・R　25	1.72	1.13	0.29	方形	逆台形	土師:杯		遺構の底面をカクランにより削平される
	SX1004	Q・R －26・27	2.34	2.20	0.35	方形	逆台形	須恵:杯・蓋		SP1329・1330を切り、SA1001(SP1331)に切られる
	SX1005	V　25・26	2.10	0.10	0.29	不整形	逆台形			SP1248に切られる
	SX1006	Q・R －28・29	2.61	0.71	0.17	不整形	逆台形			
	SX1007	Q－28	0.78	0.30	0.08	不整形	逆台形			調査区外に延びる
	SX1008	X・Y－28	1.22	0.24	0.15	不整形	逆台形			
	SX1009	Y－28	2.46	0.30	0.66	不整形	逆台形			調査区外に延びる
	SX1010	U－29	1.30	0.08	0.35	不整形	逆台形			
	SX1011	K－31	0.93	0.14	0.30	不整形	逆台形			SP1476を切る

第11表　検出遺構一覧表　柱穴・小穴（1）

調査区	遺構番号	位置	遺構規模(m) 長軸	深度	出土遺物	備考
1区	SP1001	Y 9	0.40	0.20		
1区	SP1002	Y 8	0.26	0.16		SP1003に切られる
1区	SP1003	Y-8	0.30	0.20		SP1002を切る
1区	SP1004	Y-9	0.40	0.06		
1区	SP1005	Y-8	0.41	0.41		
1区	SP1006	Z 8	0.38	0.26		
1区	SP1007	Z-8	0.23	0.23		SP1009を切る
1区	SP1008	Z-8	0.25	0.20		
1区	SP1009	Z-8	0.20	0.23		SP1007に切られる
1区	SP1010	Z-8	0.18	0.13		
1区	SP1011	Z-8	0.30	0.13		
1区	SP1012	Z-8	0.25	0.28		
1区	SP1013	Z 8	0.42	0.30		
1区	SP1014	Z-8	0.36	0.17		
1区	SP1015	Z-9	0.44	0.34	陶器:皿	
1区	SP1016	Z 9	0.27	0.22		
1区	SP1017	Z-8	0.50	0.22		
1区	SP1018	Z-8	0.32	0.39		
1区	SP1019	Z-8	0.22	0.20		SP1020に切られる
1区	SP1020	Z-8	0.28	0.24		SP1019を切り SP1021に切られる
1区	SP1021	Z-8	0.32	0.33		SP1020を切る
1区	SP1022	Z-9	0.30	0.16		
1区	SP1023	Z-9	0.22	0.18		
1区	SP1024	Z-9	0.31	0.29		
1区	SP1025	AA 7	0.35	0.18		SK1001に切られる
1区	SP1026	AA-8	0.33	0.34		
1区	SP1027	AA-7	0.17	0.06		
1区	SP1028	AA-7	0.32	0.21		
1区	SP1029	AA-8	0.26	0.22		
1区	SP1030	AA-8	0.65	0.20		
1区	SP1031	AB-7	0.35	0.26		
1区	SP1032	AB-7	0.38	0.32		
1区	SP1033	AB 9	0.37	0.23		
1区	SP1034	AB-9	0.34	0.19		
2区	SP1035	W-19	0.55	0.20		
2区	SP1036	X-19	0.35	0.08		
2区	SP1037	X-19	0.25	0.12		
2区	SP1038	X-Z 19	0.50	0.17		
2区	SP1039	X-18	0.26	0.14		
2区	SP1040	X-18	0.36	0.19	弥生:甕	
2区	SP1041	X 18	0.16	0.29		
2区	SP1042	Y-Z-18	0.25	0.13		
2区	SP1043	Y-18	0.25	0.13		
2区	SP1044	Y-18	0.38	0.17		
2区	SP1045	Z-18	0.40	0.13		
2区	SP1046	Z-17	0.27	0.14		
2区	SP1047	Y-17	0.18	0.19		
2区	SP1048	Z-17	0.36	0.16		
2区	SP1049	Y-Z-17	0.31	0.19		
2区	SP1050	Y-17	0.19	0.17		
2区	SP1051	Y-17	0.17	0.06		
2区	SP1052	Y-17	0.40	0.14		
2区	SP1053	Y-17	0.34	0.10		
2区	SP1054	Y-17	0.23	0.13		
2区	SP1055	X 17	0.39	0.15		
2区	SP1056	X-17	0.34	0.22		
2区	SP1057	X-16	0.37	0.23		SP1058を切る
2区	SP1058	X-16	0.30	0.06		SP1057に切られる
2区	SP1059	X-16	0.16	0.11		
2区	SP1060	X 16	0.30	0.27		
2区	SP1061	Y-16	0.45	0.16		

調査区	遺構番号	位置	遺構規模(m) 長軸	深度	出土遺物	備考
2区	SP1062	Y-16	0.42	0.11	土師:皿	
2区	SP1063	Z 16	0.26	0.16		
2区	SP1064	Z-16	0.42	0.26		
2区	SP1065	Z-16	0.22	0.06		
2区	SP1066	Y-15-16	0.52	0.38		
2区	SP1067	Y-15	0.38	0.32		
2区	SP1068	Z 15	0.35	0.14		
2区	SP1069	Z-15	0.62	0.18		
2区	SP1070	Z-15	0.27	0.14		
2区	SP1071	Y-14-15	0.32	0.09		
2区	SP1072	Y-15	0.43	0.21		
2区	SP1073	Z 15	0.43	0.27		
2区	SP1074	Z-15	0.35	0.24		
2区	SP1075	Z 15	0.46	0.14		
2区	SP1076	Z-15	0.56	0.49		
2区	SP1077	Z-15	0.44	0.23		
2区	SP1078	Z 15	0.43	0.14		
2区	SP1079	Z-15	0.31	0.14		
2区	SP1080	Z-13	0.19	0.11		
2区	SP1081	Z-14-15	0.22	0.11		
2区	SP1082	Z-14-15	0.34	0.16		
2区	SP1083	Z 14	0.26	0.13		
2区	SP1084	Z-14	0.28	0.12		
2区	SP1085	Y-14	0.26	0.13		
2区	SP1086	Y 14	0.42	0.28		
2区	SP1087	Z-14	0.25	0.16		
2区	SP1088	Z-14	0.30	0.12		
2区	SP1089	Z-14	0.62	0.44		
2区	SP1090	Z-14	0.32	0.20		
2区	SP1091	Z 14	0.30	0.21		
2区	SP1092	AA-AB -14	0.34	0.22		
2区	SP1093	AB 14	0.53	0.46		
2区	SP1094	AB-14	0.29	0.29		
2区	SP1095	AB-14	0.30	0.22	十師:皿	
2区	SP1096	AB-13	0.32	0.25		
2区	SP1097	AA-AB 13	0.26	0.12		
2区	SP1098	AB-12	0.33	0.15		
3区	SP1099	AA-22	0.30	0.27		
3区	SP1100	AA -22-23	0.48	0.11		
3区	SP1101	AA-23	0.29	0.45		調査区外に延びる
3区	SP1102	AA-22	0.31	0.15		
3区	SP1103	AA-23	0.32	0.08		
3区	SP1104	Z 21	0.35	0.45	弥生:甕	
3区	SP1105	Z-22	0.25	0.18		
3区	SP1106	Z-AA-22	0.38	0.33		
3区	SP1107	Z 22	0.29	0.18		
3区	SP1108	Z-23	0.23	0.15		
3区	SP1109	Z-23	0.30	0.24		
3区	SP1110	Z 23	0.29	0.12		
3区	SP1111	Z-23	0.53	0.17		
3区	SP1112	Y-24	0.34	0.12		
3区	SP1113	Y-23	0.38	0.21		
3区	SP1114	Y-23	0.23	0.24		
3区	SP1115	Y 23	0.29	0.26		SA1012
3区	SP1116	Y-23	0.22	0.09		SA1012
3区	SP1117	X 22-23	0.29	0.09		
3区	SP1118	X-22	0.37	0.21		
3区	SP1119	X-22	0.27	0.21		SA1012
3区	SP1120	Y 22	0.25	0.24	土師:皿	SA1012

第12表　検出遺構一覧表　柱穴・小穴（2）

調査区	遺構番号	位置	遺構規模(m) 長軸	遺構規模(m) 深度	出土遺物	備考
3区	SP1121	Y-22	0.23	0.13		
3区	SP1122	Y-22	0.26	0.26		SA1012
3区	SP1123	Y 21	0.22	0.18		SA1012
3区	SP1124	Y-21	0.28	0.11		
3区	SP1125	X-21	0.23	0.19		
3区	SP1126	X-21	0.22	0.20		SA1012
3区	SP1127	X-22	0.26	0.14		SA1012
3区	SP1128	X-21	0.23	0.13		
3区	SP1129	X-21	0.50	0.32		
3区	St1130	X 21	0.50	0.12		調査区外に延びる
3区	SP1131	X-21	0.52	0.13		
3区	SP1132	W-21	0.30	0.12		
3区	SP1133	W 21	0.43	0.16		
3区	SP1134	W-21	0.25	0.10		
3区	St1135	V·W-37	0.37	0.32		
4区	SP1136	T-22	0.30	0.47		
3区	SP1137	T-22	0.20	0.24		
3区	SP1138	T-22	0.18	0.20		
3区	SP1139	T-22	0.20	0.21		
3区	SP1140	S·T -21·22	0.55	0.15		
3区	SP1141	S-22	0.27	0.06		
3区	SP1142	S 22	0.19	0.16		
3区	SP1143	S-22	0.17	0.11		
3区	SP1144	S-22	0.18	0.12		
3区	SP1145	S-22	0.16	0.13		
3区	SP1146	S-22	0.27	0.11		
3区	St1147	S-22	0.30	0.15		
3区	SP1148	R·S-22	0.14	0.09		
3区	SP1149	R-22	0.09	0.11		
3区	St1150	S-23	0.50	0.62		SA1006
3区	SP1151	S-23	0.38	0.18	須恵:壺	
3区	SP1152	S-23	0.30	0.12		
3区	SP1153	S-23	0.52	0.26	石器:敲石	
3区	SP1154	S-23	0.34	0.06		
3区	St1155	R 23	0.20	0.18		SP1482に切られる
3区	SP1156	R-23	0.48	0.39		
3区	St1157	R-23	0.25	0.16		
3区	SP1158	R-23	0.62	0.52		SA1005
3区	SP1159	R-23	0.29	0.20		St1160に切られる
3区	St1160	R-23	0.21	0.19	土師:杯	SP1159を切る
3区	SP1161	R-23	0.21	0.13		
3区	SP1162	R-23	0.35	0.26		SA1005
3区	St1163	R 23	0.18	0.21		
3区	SP1164	R-23	0.16	0.15		
3区	SP1165	R-24	0.27	0.37	須恵:壺	SA1005
3区	St1166	R 24	0.30	0.24		
3区	SP1167	Q-23	0.36	0.33		SA1005
3区	SP1168	Q-24	0.40	0.38		SA1005
3区	SP1169	Q-24	0.33	0.33		
3区	St1170	Q·R 24	0.45	0.32		SA1005
3区	St1171	R 24	0.25	0.31	須恵:壺、土師:杯、皿、土製品:土錘	
3区	SP1172	R-24	0.30	0.25	須恵:甕、土師:杯	
3区	SP1173	Q-25	0.32	0.15	須恵:壺、土師:杯	
3区	SP1174	U-23	0.24	0.05		
3区	St1175	T·U-23	0.43	0.65		SA1007
3区	SP1176	U-23	0.32	0.43		SA1007
3区	St1177	T-23	0.25	0.26		
3区	St1178	T 23	0.58	0.59		SA1007

調査区	遺構番号	位置	遺構規模(m) 長軸	遺構規模(m) 深度	出土遺物	備考
3区	SP1179	T-23	0.48	0.49		SA1007
3区	SP1180	S·T 23	0.63	0.58	須恵:杯	SA1006
3区	SP1181	S-23	0.22	0.32		
3区	SP1182	T-23	0.49	0.61	土師:杯、黒色:杯	SA1007
3区	SP1183	T-23·24	0.62	0.38		SA1006
3区	SP1184	S 23	0.73	0.53		
3区	SP1185	S-23	0.19	0.18		
3区	SP1186	T-24	0.47	0.63	土師:杯、皿、黒色:椀	SA1007
3区	SP1187	T-24	0.14	0.17		
3区	St1188	T-24	0.46	0.27		SA1007 SP1483を切る
3区	SP1189	T-24	0.50	0.14		
3区	SP1190	T-24	0.61	0.30	土師:杯	SA1006 SP1191に切られる
3区	SP1191	T 24	0.35	0.28	土師:杯	SP1190を切る
3区	SP1192	S·T-24	0.12	0.22	須恵:杯	
3区	SP1193	S-24	0.25	0.50		
3区	SP1194	S 24	0.35	0.46		
3区	SP1195	S-25	0.67	0.44		SA1008
3区	SP1196	S-25	0.41	0.31		SA1008
3区	SP1197	S-25	0.40	0.18		
3区	SP1198	S-24·25	0.35	0.20		
3区	SP1199	S 25	0.37	0.38		SP1200に切られる
3区	SP1200	S-25	0.35	0.18	須恵:杯、黒色:椀	SP1199を切る
3区	SP1201	S-25	0.60	0.42	土師:杯	SA1006
3区	St1202	S-25	0.44	0.37	須恵:甕	SA1008
3区	SP1203	S 24·25	0.17	0.11		
3区	SP1204	S-25	0.33	0.14		
3区	SP1205	S-24	0.25	0.14		SP1206を切る
3区	SP1206	S 24	0.36	0.10		SP1205に切られる
3区	SP1207	S-24	0.41	0.53	土師:皿	SA1006 SP1208に切られる
3区	SP1208	S-24	0.60	0.30	土師:杯	SP1207を切る
3区	St1209	R-24	0.32	0.08		
3区	SP1210	R 24	0.55	0.46	土師:杯、皿、椀	SA1005
3区	SP1211	R-24	0.25	0.16		
3区	SP1212	R·S -24·25	0.35	0.10		
3区	St1213	R·S-25	0.49	0.26		SA1005
3区	SP1214	S 25	0.38	0.39		SA1008
3区	SP1215	R-25	0.18	0.26		
3区	SP1216	R-25	0.17	0.34		SA1005
3区	St1217	R-25	0.19	0.44		
3区	SP1218	R 25	0.35	0.10		
3区	SP1219	R-25	0.34	0.37		SA1005
3区	SP1220	R-25	0.33	0.30		
3区	SP1221	W 24	0.31	0.27		
3区	SP1222	W-24	0.26	0.32		
3区	St1223	W-24	0.42	0.15		
3区	SP1224	W 24	0.20	0.14		
3区	SP1225	V-24	0.32	0.11		
3区	St1226	V-24	0.46	0.26		SA1004
3区	SP1227	V 25	0.17	0.20		
3区	SP1228	V-25	0.65	0.26		SA1004
3区	SP1229	V-24	0.20	0.23		
3区	SP1230	V-24	0.14	0.20		
3区	St1231	U-24	0.40	0.17		
3区	SP1232	U 24	0.40	0.42		SA1004
3区	SP1233	U-24	0.45	0.21		

第13表　検出遺構一覧表　柱穴・小穴（3）

調査区	遺構番号	位置	遺構規模(m) 長軸	遺構規模(m) 深度	出土遺物	備考
3区	SP1234	U-24	0.33	0.17		
3区	SP1235	U-24	0.58	0.58		SA1007
3区	SP1236	U 24	0.26	0.24		
3区	SP1237	U-24	0.50	0.25		
3区	SP1238	U-24	0.46	0.36		SA1004
3区	SP1239	U-24-25	0.69	0.58		SA1009
3区	SP1240	U-24	0.31	0.18		
3区	SP1241	T-24	0.40	0.48		SA1007
3区	SP1242	T-25	0.75	0.54	黒色:鋼、上製品:土師	SA1009
3区	SP1243	U-25	0.41	0.24		SA1004
3区	SP1244	U-25	0.60	0.28		
3区	SP1245	U-25	0.45	0.37		SA1009
3区	SP1246	U-25	0.49	0.24		SA1004
3区	SP1247	V-25	0.52	0.41		SA1004
3区	SP1248	V-26	0.55	0.15		SX1005を切る
3区	SP1249	U-25	0.60	0.18		
3区	SP1250	U-25	0.51	0.38		SA1004 SP1498を切る
3区	SP1251	U 25	0.50	0.42		
3区	SP1252	U 25	0.40	0.40		SA1009 SP1253を切る
3区	SP1253	U-25	0.45	0.40		SP1252に切られる
3区	SP1254	U-25	0.19	0.17		
3区	SP1255	U-25	0.72	0.32		SA1004
3区	SP1256	U-25-26	0.13	0.12		
3区	SP1257	U-26	0.24	0.29		
3区	SP1258	U-26	0.20	0.15		
3区	SP1259	U 26	0.14	0.14		
3区	SP1260	U 26	0.45	0.27		SA1009
3区	SP1261	U-26	0.12	0.22		
3区	SP1262	U-25	0.38	0.25		SA1009
3区	SP1263	T-26	0.12	0.10		
3区	SP1264	T-26	0.15	0.10		
3区	SP1265	T-26	0.15	0.08		
3区	SP1266	T-26	0.31	0.08		SP1267を切る
3区	SP1267	T-26	0.23	0.11		SP1266に切られる
3区	SP1268	T 26	0.26	0.20		SP1500に切られる
3区	SP1269	T-26	0.25	0.12		
3区	SP1270	T-26	0.52	0.42	須恵:杯	SA1009
3区	SP1271	T 25	0.55	0.38	土師:杯・椀、土製品:土錘	SA1009
3区	SP1272	T-25	0.24	0.49		
3区	SP1273	T 25	0.27	0.08		
3区	SP1274	T-25	0.60	0.66	須恵:杯、土師:杯・皿・椀	SA1009 SX1002を切る
3区	SP1275	T 24-25	0.82	0.49	須恵:壺、黒色:鋼	SA1006
3区	SP1276	T-25	0.15	0.20		SP1484を切る
3区	SP1277	S-25	0.56	0.48	土師:鋼	SA1008 SP1484を切る
3区	SP1278	T-25	0.19	0.16		
3区	SP1279	T 25	0.13	0.25		
3区	SP1280	T-25	0.15	0.40		
3区	SP1281	T-25	0.58	0.15		
3区	SP1282	T 25	0.65	0.23		
3区	SP1283	T-25	0.35	0.39		SA1008
3区	SP1284	T 25	0.30	0.34		
3区	SP1285	T-26	0.14	0.27		
3区	SP1286	T-25-26	0.26	0.16		
3区	SP1287	T 26	0.23	0.19		

調査区	遺構番号	位置	遺構規模(m) 長軸	遺構規模(m) 深度	出土遺物	備考
3区	SP1288	T-26	0.70	0.37		SA1009 SP1491を切る
3区	SP1289	T-26	0.11	0.13		
3区	SP1290	T 26	0.33	0.26	土師:杯	SA1008
3区	SP1291	U-27	0.31	0.27		
3区	SP1292	T-26	0.19	0.13		
3区	SP1293	T-27	0.20	0.24		
3区	SP1294	T-26	0.24	0.18		
3区	SP1295	T 26	0.23	0.28		
3区	SP1296	T-26	0.20	0.15		
3区	SP1297	T-26	0.25	0.14		
3区	SP1298	S-25-26	0.55	0.44	須恵:杯	SA1002
3区	SP1299	S-26	0.24	0.26		
3区	SP1300	S-25	0.18	0.18		
3区	SP1301	S-25-26	0.40	0.24		SA1008
3区	SP1302	S-26	0.45	0.40		SA1002
3区	SP1303	S-26	0.43	0.23		SA1003
3区	SP1304	S-T-26	0.40	0.16		SA1008 SP1499を切る
3区	SP1305	T 26	0.73	0.52		SA1002
3区	SP1306	T-26-27	0.26	0.22		
3区	SP1307	T-26	0.32	0.08		
3区	SP1308	T-27	0.19	0.16		
3区	SP1309	T-27	0.38	0.08		
3区	SP1310	T 27	0.17	0.09		
3区	SP1311	T-27	0.24	0.18		
3区	SP1312	T-27	0.15	0.25		
3区	SP1313	T-27	0.07	0.19		
3区	SP1314	T-27	0.10	0.22		
3区	SP1315	T 27	0.15	0.29		
3区	SP1316	T 27	0.25	0.12		
3区	SP1317	S 27	0.21	0.16		
3区	SP1318	S 26-27	0.73	0.57		SA1002
3区	SP1319	S-26	0.55	0.13		SA1008
3区	SP1320	S-26	0.30	0.12		
3区	SP1321	S-26	0.25	0.28		
3区	SP1322	S-26	0.20	0.19		
3区	SP1323	S 26	0.41	0.14	土師:椀・皿	SA1003
3区	SP1324	S-26	0.38	0.15		SA1008
3区	SP1325	R-S-27	0.46	0.48		SA1002
3区	SP1326	R-26	0.47	0.18	須恵:杯	SA1003
3区	SP1327	R-26	0.50	0.54		SA1002
3区	SP1328	R-26	0.38	0.19		SA1003
3区	SP1329	Q-26	0.35	0.14		SX1004に切られる
3区	SP1330	R-26	0.15	0.12		SX1004に切られる
3区	SP1331	R 26-27	0.35	0.19		SA1001・SX1004を切る
3区	SP1332	Q-27	0.54	0.12		
3区	SP1333	Q-27	0.22	0.23		SA1001
3区	SP1334	Q-27	0.33	0.19		SA1001
3区	SP1335	Q 27	0.33	0.27		
3区	SP1336	R-27	0.59	0.36	須恵:鋼	SA1001
3区	SP1337	R 27	0.38	0.26		SA1003
3区	SP1338	R-27	0.84	0.60	土師:杯	SA1002
3区	SP1339	R-26	0.40	0.47		SA1002
3区	SP1340	S-26	0.47	0.19		
3区	SP1341	S-26	0.13	0.12		
3区	SP1342	S 26	0.34	0.14		SA1008
3区	SP1343	S 26	0.27	0.06		
3区	SP1344	S-26	0.40	0.16		
3区	SP1345	S-27	0.79	0.25		SA1002
3区	SP1346	S-27	0.43	0.16		

第14表　検出遺構一覧表　柱穴・小穴（4）

調査区	遺構番号	位置	遺構規模(m) 長軸	遺構規模(m) 深度	出土遺物	備考
3区	SP1347	S-27	0.40	0.28		SA1003
3区	SP1348	S-27	0.23	0.22		
3区	SP1349	R-27	0.40	0.15	赤生:高杯、須恵:杯、土師:杯	SA1003
3区	SP1350	S-27	0.20	0.29		
3区	SP1351	S-27	0.25	0.05		
3区	SP1352	S-27	0.29	0.08		
3区	SP1353	S 27	0.20	0.18		
3区	SP1354	S-27	0.26	0.23		
3区	SP1355	S-27	0.21	0.12		
3区	SP1356	S 27	0.20	0.17		
3区	SP1357	S-27	0.25	0.20		
3区	SP1358	S-27-28	0.45	0.30		
3区	SP1359	S-28	0.33	0.24		
3区	SP1360	S-28	0.29	0.21		
3区	SP1361	S 28	0.25	0.20		
3区	SP1362	R-28	0.20	0.28		
3区	SP1363	R-27-28	0.30	0.13		SA1001
3区	SP1364	R-28	0.25	0.24		
3区	SP1365	R-28	0.21	0.24		
3区	SP1366	Q-27	0.52	0.28	須恵:甕	SA1001
3区	SP1367	Q-27	0.12	0.25		
3区	SP1368	Q 27	0.42	0.30		
3区	SP1369	Q-28	0.31	0.14	黒色:椀	SA1001
3区	SP1370	Q-28	0.16	0.27		
3区	SP1371	Q-27	0.26	0.16		
3区	SP1372	Q-28	0.25	0.20	土師	
3区	SP1373	Q 28	0.12	0.12		SP1374を切る
3区	SP1374	Q-28	0.22	0.26		SP1373に切られる
3区	SP1375	Q 28	0.33	0.10		
3区	SP1376	W-27	0.40	0.39		SD1003を切る
3区	SP1377	W 28	0.17	0.22		
3区	SP1378	W-28	0.25	0.32		
3区	SP1379	X-28	0.22	0.26		
3区	SP1380	X-28	0.16	0.20		
3区	SP1381	X-28	0.22	0.22		
3区	SP1382	X 28	0.25	0.20		
3区	SP1383	X-28	0.18	0.20		
3区	SP1384	X-28	0.20	0.21		
3区	SP1385	X 29	0.30	0.25		
3区	SP1386	X-29	0.19	0.15		
3区	SP1387	X-29	0.30	0.13		
3区	SP1388	X-29	0.19	0.16		
3区	SP1389	X-29	0.10	0.11		
3区	SP1390	X-29	0.13	0.25		
3区	SP1391	X-29	0.18	0.10		
3区	SP1392	X-29	0.18	0.17		
3区	SP1393	X 30	0.28	0.28		
3区	SP1394	X-30	0.33	0.22		調査区外に延びる
3区	SP1395	X-30	0.32	0.10		調査区外に延びる
3区	SP1396	X-29	0.12	0.15		
3区	SP1397	X-29	0.29	0.15		
3区	SP1398	X 29	0.18	0.18		
3区	SP1399	X-29	0.12	0.14		
3区	SP1400	W-29	0.20	0.20		
3区	SP1401	W 29	0.17	0.24		
3区	SP1402	W 29	0.10	0.20		
3区	SP1403	W-29	0.19	0.25		
3区	SP1404	W-28	0.22	0.25		
3区	SP1405	W 28	0.36	0.09		
3区	SP1406	W 28-29	0.35	0.35		SA1010
3区	SP1407	W-29	0.11	0.16		

調査区	遺構番号	位置	遺構規模(m) 長軸	遺構規模(m) 深度	出土遺物	備考
3区	SP1408	W 29	0.25	0.35		
3区	SP1409	W-29	0.12	0.13		
3区	SP1410	W 28	0.36	0.33		SA1010
3区	SP1411	W-28	0.23	0.33		
3区	SP1412	W-28	0.42	0.42		SA1010
3区	SP1413	V-28	0.25	0.44		SA1010
3区	SP1414	V-28	0.20	0.08		
3区	SP1415	W 28	0.22	0.27		
3区	SP1416	W-29	0.50	0.33		SA1011
3区	SP1417	W-29	0.33	0.43		SA1010
3区	SP1418	W-29	0.15	0.20		
3区	SP1419	W-29	0.17	0.22		
3区	SP1420	W 29	0.37	0.26		
3区	SP1421	W-29-30	0.19	0.27		
3区	SP1422	W-30	0.35	0.28		
3区	SP1423	W-30	0.32	0.22		SA1011
3区	SP1424	W-29	0.25	0.14		
3区	SP1425	W-30	0.21	0.20		
3区	SP1426	W 29	0.12	0.16		
3区	SP1427	W-29	0.40	0.23		
3区	SP1428	W-29	0.14	0.20		
3区	SP1429	W 29	0.24	0.06		
3区	SP1430	W-29	0.57	0.42		SA1010
3区	SP1431	W-29	0.27	0.23		
3区	SP1432	W-29	0.56	0.60		SA1011
3区	SP1433	W 28	0.16	0.20		
3区	SP1434	W-29	0.25	0.21		
3区	SP1435	W 29	0.40	0.20		
3区	SP1436	W-29-30	0.50	0.15		
3区	SP1437	V-29	0.35	0.06	赤生:壺	
3区	SP1438	V-29	0.39	0.35		SA1010
3区	SP1439	V-29	0.13	0.26		
3区	SP1440	V-29	0.10	0.20		
3区	SP1441	V-29	0.31	0.51		SA1011
3区	SP1442	V-29	0.45	0.40		SA1010
3区	SP1443	V 30	0.12	0.22		
3区	SP1444	W-30	0.25	0.07		
3区	SP1445	W-30	0.12	0.09		
3区	SP1446	W-30	0.14	0.10		
3区	SP1447	W-30	0.50	0.35		SA1011
3区	SP1448	W-30	0.16	0.16		
3区	SP1449	W-30	0.25	0.15		
3区	SP1450	W-30	0.30	0.06		
3区	SP1451	V-30	0.12	0.29		
3区	SP1452	V-30	0.20	0.10		
3区	SP1453	V-30	0.32	0.34		
3区	SP1454	V 29-30	0.20	0.29		SP1455を切る
3区	SP1455	V-29-30	0.21	0.30		SP1454に切られる
3区	SP1456	V-30	0.38	0.25		
3区	SP1457	V-30	0.63	0.20		
3区	SP1458	V-30	0.25	0.19		
3区	SP1459	U-30-31	0.25	0.21		
3区	SP1460	U-30	0.15	0.08		
3区	SP1461	U-31	0.15	0.07		
3区	SP1462	U-29	0.45	0.33		
3区	SP1463	U 29	0.35	0.22		
3区	SP1464	U-29	0.12	0.14		
3区	SP1465	U-V-29	0.13	0.13		
3区	SP1466	U 27	0.23	0.14		
3区	SP1467	T-U-30	0.20	0.15		
3区	SP1468	T-31	0.27	0.18		
3区	SP1469	S-30	0.15	0.10		

第15表　検出遺構一覧表　柱穴・小穴（5）

調査区	遺構番号	位置	遺構規模(m) 長軸	遺構規模(m) 深度	出土遺物	備考
3区	SP1470	S-39	0.18	0.23		
3区	SP1471	S-T 30	0.26	0.20		
3区	SP1472	R-39	0.23	0.15		
3区	SP1473	Q-R-39	0.32	0.11		
3区	SP1474	R-38	0.22	0.12		
3区	SP1475	R-31	0.21	0.23		
3区	SP1476	R-31	0.30	0.08		SX1011に切られる
3区	SP1477	R-31	0.38	0.05		
3区	SP1478	R-32	0.41	0.35		
3区	SP1479	R-32	0.12	0.17		
3区	SP1480	R 32	0.17	0.10		
3区	SP1481	S-32	0.13	0.09		
3区	SP1482	R 23	0.41	0.18		SP1135を切る
3区	SP1483	T-24	1.12	0.19		SP1188に切られる
3区	SP1484	T-25	0.70	0.50		SP1276・SP1277に切られる
3区	SP1485	T-24	0.32	0.10		
3区	SP1486	W-27	0.23	0.10		
3区	SP1487	W-24	0.25	0.13		SP1488を切る
3区	SP1488	V・W-23	0.22	0.10		SP1487に切られる
3区	SP1489	V 24	0.23	0.13		
3区	SP1490	T-26	0.28	0.12		
3区	SP1491	T-26	0.40	0.11		SP1288に切られる
3区	SP1492	T-26	0.32	0.11		
3区	SP1493	T-26	0.35	0.10		
3区	SP1494	T-26	0.35	0.13		
3区	SP1495	T-26	0.24	0.10		SP1496を切る
3区	SP1496	T-U 26	0.34	0.08		SP1495に切られる
3区	SP1497	U-26	0.27	0.12		
3区	SP1498	U-25	0.53	0.12		SP1280に切られる
3区	SP1499	S-T-26	0.38	0.10		SA1002 SP1304に切られる
3区	SP1500	T 26	0.25	0.15		SP1268を切る
3区	SP1501	S-27	0.26	0.22		
3区	SP1502	T-23	0.15	0.32		SX1002を切る
3区	SP1503	S 23	0.51	0.44	土師:鉢	
3区	SP1504	U-25	0.54	0.54		SA1004
3区	SP1505	L-24-25	0.56	0.44		SA1004
3区	SP1506	W-25	0.30	0.16		
3区	SP1507	R・S-23	0.65	0.63	弥生:壺、土師:鉢、須恵:杯・壺	SA1006
3区	SP1508	R・S-24	0.60	0.55	須恵:杯	SA1006
3区	SP1509	U・V-25	1.02	0.31		SA1004
4区	SP1510	S 16	0.24	0.01		
4区	SP1511	S-16	0.22	0.18		
4区	SP1512	S-16	0.26	0.04		
4区	SP1513	S 16	0.24	0.07		
4区	SP1514	R-15	0.56	0.11		
4区	SP1515	R-16	0.38	0.21		
4区	SP1516	R-16	0.34	0.12		
4区	SP1517	R-16	0.20	0.08		
4区	SP1518	R-15	0.32	0.12		
4区	SP1519	R-15	0.34	0.08		
4区	SP1520	R 15	0.18	0.04		
4区	SP1521	R-15	0.18	0.12		
4区	SP1522	R-15	0.15	0.03		
4区	SP1523	R-15	0.19	0.20		
4区	SP1524	R-15	0.22	0.16		
4区	SP1525	R 15	0.32	0.13		
4区	SP1526	R-15	0.23	0.02		
4区	SP1527	R-14	0.30	0.14		
4区	SP1528	R 14	0.20	0.06		

調査区	遺構番号	位置	遺構規模(m) 長軸	遺構規模(m) 深度	出土遺物	備考
4区	SP1529	S 15	0.86	0.06		
4区	SP1530	S-14	0.35	0.15		
4区	SP1531	S-14	0.24	0.11		
4区	SP1532	R-14	0.45	0.22	土師:羽釜	
4区	SP1533	R-14	0.22	0.08		
4区	SP1534	Q 14	0.20	0.08		
4区	SP1535	Q-14	0.22	0.15		
4区	SP1536	Q 14	0.30	0.30		
4区	SP1537	R-14・15	0.24	0.06		SD1005を切る
4区	SP1538	R-14・15	0.22	0.07		
4区	SP1539	Q-15	0.30	0.10		SP1540に切られる
4区	SP1540	Q-15	0.28	0.13		SP1539を切る
4区	SP1541	Q 14	0.30	0.10		
4区	SP1542	Q-14	0.22	0.08		
4区	SP1543	Q-14	0.24	0.11		
4区	SP1544	Q-14	0.24	0.16		
4区	SP1545	Q-14・15	0.26	0.18		SP1546を切る
4区	SP1546	Q 14・15	0.21	0.19		SP1545に切られる
4区	SP1547	Q-15	0.37	0.18		
4区	SP1548	Q-15	0.24	0.36		
4区	SP1549	Q-15	0.40	0.16		
4区	SP1550	Q-15	0.24	0.22		SD1005を切る
4区	SP1551	Q-15	0.26	0.10		
4区	SP1552	Q-15	0.27	0.24	土師:羽釜・杯	
4区	SP1553	Q-16	0.22	0.06		
4区	SP1554	Q-16	0.20	0.04		
4区	SP1555	Q-15	0.20	0.08		
4区	SP1556	Q 15	0.16	0.08		
4区	SP1557	Q 15	0.28	0.10		
4区	SP1558	Q-15	0.34	0.08		SD1005を切る
4区	SP1559	Q-15	0.20	0.10		
4区	SP1560	P-15	0.52	0.19		調査区外に延びる
4区	SP1561	Q-16	0.60	0.09		調査区外に延びる
4区	SP1562	P-Q-15	0.31	0.12		
4区	SP1563	P-15	0.26	0.13		
4区	SP1564	P-Q-14	0.28	0.13		SP1565を切る
4区	SP1565	P-Q-14	0.15	0.03		SP1564に切られる
4区	SP1566	Q-14	0.28	0.06		
4区	SP1567	P-14	0.23	0.06		
4区	SP1568	Q-13	0.25	0.13		
4区	SP1569	Q-12	0.21	0.11		
4区	SP1570	Q-12	0.36	0.06		
4区	SP1571	P 10-11	0.72	0.12		
4区	SP1572	P-13	0.87	0.07		
4区	SP1573	P-13	0.22	0.08		
4区	SP1574	P-13	0.28	0.06		
4区	SP1575	P-14	0.31	0.14		
4区	SP1576	P-14	0.23	0.10		
4区	SP1577	O 14	0.22	0.09		
4区	SP1578	N-O-12	0.46	0.10		
4区	SP1579	Q-R-13	0.51	0.24		SK1030に切られる
4区	SP1580	P-15	0.24	0.12		
4区	SP1581	P-14	0.40	0.18		
4区	SP1582	P-Q-14	0.30	0.12		SD1005に切られる
4区	SP1583	P-14	0.21	0.06		
4区	SP1584	P-14	0.23	0.10		
4区	SP1585	P-13	0.28	0.14		
5区	SP1586	M-18	0.31	0.14		
5区	SP1587	M-19	0.23	0.09		
5区	SP1588	M-19	0.43	0.18		
5区	SP2001	M-23	0.28	0.08		
5区	SP2002	M 23	0.54	0.12		

第16表　検出遺構一覧表　柱穴・小穴（6）

調査区	遺構番号	位置	遺構規模(m) 長軸	遺構規模(m) 深度	出土遺物	備考
5区	SP2003					欠番
5区	SP2004	M-22	0.49	0.26		
5区	SP2005	N-23	0.16	0.12		
5区	SP2006	N-22	0.34	0.08		
5区	SP2007	M 21	0.30	0.16		
5区	SP2008	M 21	0.28	0.14		
5区	SP2009	M-21	0.32	0.15	土師:杯	
5区	SP2010	N-22	0.40	0.34		
5区	SP2011	N-20	0.18	0.06		
5区	SP2012	O-21	0.44	0.20		
5区	SP2013	N-19·20	0.18	0.10		
5区	SP2014	N-19	0.30	0.24		
5区	SP2015	K-17	0.20	0.06		
5区	SP2016	P-19	0.40	0.43		
5区	SP2017	L-19	0.33	0.13		
5区	SP2018	L-19	0.38	0.14		SP2019に切られる
5区	SP2019	L-19	0.17	0.12		SP2018を切る
5区	SP2020	L-19	0.30	0.20		
5区	SP2021	L-19	0.38	0.22		
5区	SP2022	L-19	0.28	0.22		
5区	SP2023	L-19	0.28	0.10		
5区	SP2024	M-19	0.14	0.11		
5区	SP2025	M 19	0.23	0.14		
5区	SP2026	M 19	0.24	0.16		
5区	SP2027	K-18	0.24	0.16		
5区	SP2028	K-18	0.20	0.12		
5区	SP2029	K-18	0.28	0.14		
5区	SP2030	K-18	0.31	0.14		
5区	SP2031	J-18	0.22	0.08		
5区	SP2032	K-17·18	0.26	0.11		
5区	SP2033	K-18	0.22	0.16		
5区	SP2034	K-17	0.24	0.13		
5区	SP2035	K-17	0.36	0.20		
6区	SP1389	K-73	0.32	0.11		
6区	SP1390	K-73	0.25	0.18		SP1391に切られる
6区	SP1391	K-73	0.33	0.36		SP1390を切る
6区	SP1392	J-72	0.45	0.26		
6区	SP1393	J-72	0.35	0.12		
6区	SP1394	J-72	0.33	0.24		SP1396を切る
6区	SP1395	J 72	0.32	0.18		SP1396を切り、SP1394に切られる
6区	SP1396	J-72	0.29	0.16		SP1395に切られる
6区	SP1397	J-72	0.45	0.38		
6区	SP1398	J-72	0.48	0.38		SP1399を切る
6区	SP1399	J-72	0.30	0.19		SP1398に切られる
6区	SP1600	J-72	0.48	0.36	土師:杯、須恵:杯	
6区	SP1601	J 72	0.28	0.32		
6区	SP1602	J 72	0.30	0.16		
6区	SP1603	J 72	0.20	0.19		
6区	SP1604	J 72	0.40	0.38		
6区	SP1605	J 72	0.40	0.38	土師:杯	
6区	SP1606	J 72	0.30	0.25		
6区	SP1607	J 72	0.34	0.40		
6区	SP1608	J-72	0.27	0.27	須恵:甕	
6区	SP1609	J 72	0.20	0.12		
6区	SP1610	J-71·72	0.46	0.40		
6区	SP1611	J-71	0.45	0.36		
6区	SP1612	J-71	0.68	0.35		
6区	SP1613	I-J-71	0.38	0.44		
6区	SP1614	J-71	0.40	0.40	土師:釜	

調査区	遺構番号	位置	遺構規模(m) 長軸	遺構規模(m) 深度	出土遺物	備考
6区	SP1615	J-71	0.45	0.18		SK1039に切られる
6区	SP1616	J-71	0.34	0.25		
6区	SP1617	J-71	0.20	0.10		
6区	SP1618	J-71	0.44	0.12		
6区	SP1619	J-71	0.55	0.13		
6区	SP1620	I-71	0.20	0.15		
6区	SP1621	I-71	0.33	0.19		
6区	SP1622	J-70	0.16	0.17		
6区	SP1623	I-70	0.26	0.21		
6区	SP1624	I-69	0.18	0.07		
6区	SP1625	I-69	0.15	0.12		
6区	SP1626	I-69	0.35	0.28		
6区	SP1627	I-68	0.50	0.23		
6区	SP1628	I-68	0.11	0.12		
6区	SP1629	G-70	0.42	0.31		
6区	SP1630	F-71	0.36	0.29		
6区	SP1631	F-71	0.28	0.18		
6区	SP1632	F-71	0.40	0.14		
6区	SP1633	E-71	0.15	0.16		
6区	SP1634	E-71	0.16	0.08		
6区	SP1635	E-70	0.30	0.28		
6区	SP1636	F-70	0.22	0.07		SP1637に切られる
6区	SP1637	F 70	0.20	0.13		SP1636を切る
6区	SP1638	F 70	0.30	0.09		
6区	SP1639	G-69	0.36	0.19		
6区	SP1640	E-70	0.40	0.47		
6区	SP1641	E-69	0.25	0.17		
6区	SP1642	E-69	0.20	0.17		
6区	SP1643	E-69	0.30	0.23		SA1014
6区	SP1644	E-69	0.48	0.28		
6区	SP1645	E-69	0.19	0.17		
6区	SP1646	E-69	0.25	0.31		
6区	SP1647	E-69	0.17	0.13		SA1014
6区	SP1648	E·F-69	0.27	0.18		
6区	SP1649	F-69	0.15	0.12		
6区	SP1650	F-69	0.28	0.15		SA1014
6区	SP1651	E-68	0.22	0.10		SA1014
6区	SP1652	E-68	0.16	0.10		
6区	SP1653	E-68	0.28	0.08		
6区	SP1654	E-68	0.31	0.12		
6区	SP1655	E-68	0.38	0.14		
6区	SP1656	E·F-68	0.40	0.19		
6区	SP1657	F-68	0.33	0.25		
6区	SP1658	F-68	0.21	0.22		
6区	SP1659	F-68	0.15	0.10		
6区	SP1660	F-68	0.20	0.14		
6区	SP1661	F-68	0.18	0.10		
6区	SP1662	F-68	0.20	0.10		
6区	SP1663	F-68	0.42	0.15		
6区	SP1664	F-68	0.12	0.08		
6区	SP1665	F 68	0.30	0.14		
6区	SP1666	F 68	0.26	0.14		SA1014
6区	SP1667	F 68	0.57	0.18		
6区	SP1668	F 68	0.45	0.18		
6区	SP1669	F 68	0.54	0.10		
6区	SP1670	F 68	0.40	0.14		
6区	SP1671	E 68	0.38	0.15		SA1014
6区	SP1672	E-67	0.35	0.17		
6区	SP1673	E-67	0.26	0.22		
6区	SP1674	E-67	0.20	0.08		
6区	SP1675	E-67	0.22	0.08		

第17表　検出遺構一覧表　柱穴・小穴（7）

調査区	遺構番号	位置	遺構規模(m) 長軸	遺構規模(m) 深度	出土遺物	備考
6区	SP1676	E-67	0.20	0.18		
6区	SP1677	E-67	0.19	0.11		
6区	SP1678	F-68	0.30	0.16		
6区	SP1679	F-68	0.26	0.08		SA1014
6区	SP1680	F-68	0.30	0.17		
6区	SP1681	F 67	0.26	0.08		
6区	SP1682	F-67	0.46	0.41		
6区	SP1683	F-67	0.30	0.22		
6区	SP1684	F-67	0.36	0.14		
6区	SP1685	F-67	0.44	0.16		SP1686に切られる
6区	SP1686	F 67	0.38	0.18		SA1014 SP1685を切る
6区	SP1687	F-67	0.40	0.13		
6区	SP1688	F 67	0.38	0.20		
6区	SP1689	F 67	0.25	0.08		
6区	SP1690	F 67	0.20	0.10		
6区	SP1691	F 67	0.37	0.27		
6区	SP1692	F 67	0.25	0.14		
6区	SP1693	F 67	0.29	0.09		
6区	SP1694	E·F 67	0.17	0.09		
6区	SP1695	E-67	0.24	0.15		
6区	SP1696	E-67	0.20	0.12		
6区	SP1697	E-67	0.23	0.12		
6区	SP1698	E-67	0.45	0.28		SA1014
6区	SP1699	E-67	0.52	0.14		
6区	SP1700	E-67	0.25	0.11		SK1043を切る
6区	SP1701	E-67	0.39	0.18		SP1702に切られる
6区	SP1702	E-67	0.50	0.48		SP1701を切る
6区	SP1703	E-67	0.39	0.32		SA01014
6区	SP1704	E-67	0.59	0.31		
6区	SP1705	E-67	0.29	0.13		SP1706を切る
6区	SP1706	E-67	0.39	0.22		SP1705に切られる
6区	SP1707	E-67	0.21	0.18		
6区	SP1708	E 67	0.33	0.28		
6区	SP1709	E·67	0.29	0.20		
6区	SP1710	F 66·67	0.32	0.14		
6区	SP1711	E 67	0.21	0.27		
6区	SP1712	E 67	0.26	0.17		
6区	SP1713	E·67	0.20	0.11		
6区	SP1714	E·67	0.24	0.14		
6区	SP1715	E·67	0.50	0.14		
6区	SP1716	E·67	0.33	0.24		
6区	SP1717	F·66	0.20	0.22		
6区	SP1718	G·66	0.46	0.25		
6区	SP1719	F·G·67	0.33	0.18		
6区	SP1720	G·67	0.20	0.06		
6区	SP1721	G·67	0.20	0.08		
6区	SP1722	G·67	0.22	0.12		
6区	SP1723	G·67	0.20	0.17		
6区	SP1724	G·67	0.26	0.15		
6区	SP1725	H·66	0.40	0.08		
6区	SP1726	H·66	0.32	0.24		
6区	SP1727	H·67	0.42	0.25		
6区	SP1728	H·68	0.23	0.04		
6区	SP1729	H·68	0.33	0.22		
6区	SP1730	H·68	0.20	0.07		
6区	SP1731	H·68	0.24	0.07		
6区	SP1732	G·68	0.28	0.09		
6区	SP1733	J 68	0.20	0.06		
6区	SP1734	I·68	0.45	0.20		
6区	SP1735	I·68	0.37	0.11		

調査区	遺構番号	位置	遺構規模(m) 長軸	遺構規模(m) 深度	出土遺物	備考
6区	SP1736	I·69	0.30	0.19		
6区	SP1737	J·66	0.30	0.25		
6区	SP1738	J·66	0.30	0.23		
6区	SP1739	J·66·67	0.17	0.11		
6区	SP1740	J·67	0.30	0.13		
6区	SP1741	J·67	0.32	0.16		
6区	SP1742	K·67	0.30	0.09		
6区	SP1743	K·68	0.50	0.30		
6区	SP1744	K·L·67	0.30	0.21		
6区	SP1745	K 67·68	0.40	0.13	土師:鏡	
6区	SP1746	K·L 68	0.50	0.12		
6区	SP1747	K 68	0.24	0.14		SP1748に切られる
6区	SP1748	K·68	0.33	0.17		SP1747を切る
6区	SP1749	J·K·68	0.50	0.19		
6区	SP1750	J·69	0.23	0.11		
6区	SP1751	J·69	0.35	0.21		
6区	SP1752	K·69	0.08	0.11		
6区	SP1753	K·69	0.20	0.16		
6区	SP1754	K·69	0.22	0.14	瓦:特:縄	
6区	SP1755	K·69	0.42	0.14		SA1015
6区	SP1756	K·69	0.33	0.15		
6区	SP1757	K·L·69	0.17	0.11		
6区	SP1758	L·69	0.18	0.05		
6区	SP1759	L·68	0.35	0.22		SA1018
6区	SP1760	L·68	0.23	0.12		
6区	SP1761	L·68	0.34	0.21		
6区	SP1762	L·69	0.25	0.21		
6区	SP1763	L 69	0.55	0.38	土師:皿	SA1015
6区	SP1764	L 68·69	0.30	0.17		SG1001
6区	SP1765	L 68·69	0.31	0.17		SA1018
6区	SP1766	L 67	0.20	0.15		
6区	SP1767	L·67	0.28	0.16		
6区	SP1768	L·67	0.30	0.14		
6区	SP1769	L·67	0.36	0.14		SA1018
6区	SP1770	L·67	0.17	0.06		
6区	SP1771	L·M·67	0.30	0.12		
6区	SP1772	L·M ·67·68	0.30	0.21		SA1018
6区	SP1773	L·M·68	0.35	0.09		SP1774を切る
6区	SP1774	L·M·68	0.35	0.11		SP1773に切られる
6区	SP1775	M·67	0.35	0.13		
6区	SP1776	M·67	0.28	0.11		SD1009に切られる
6区	SP1777	M·67	0.24	0.09		SP1779に切られる
6区	SP1778	M·67	0.58	0.18		
6区	SP1779	M·67	0.53	0.12		SP1777·SP1780を切る
6区	SP1780	M·67	0.56	0.22		SP1781を切り、 SP1779に切られる
6区	SP1781	M·67	0.51	0.47		SP1780に切られる
6区	SP1782	M·68	0.11	0.07		
6区	SP1783	L·M·68	0.30	0.13		
6区	SP1784	L·M·68	0.60	0.16		
6区	SP1785	L·M·68	0.38	0.32		
6区	SP1786	L·68	0.46	0.15		
6区	SP1787	M 68	0.40	0.16		SA1018
6区	SP1788	M 68	0.38	0.21		
6区	SP1789	M 68	0.33	0.16		SA1017
6区	SP1790	L·M ·68·69	0.32	0.08		
6区	SP1791	L·68·69	0.26	0.11		
6区	SP1792	L·69	0.18	0.10		

第18表　検出遺構一覧表　柱穴・小穴（8）

調査区	遺構番号	位置	遺構規模(m) 長軸	深度	出土遺物	備考
6区	SP1793	L-69	0.20	0.09		
6区	SP1794	L-69	0.27	0.17		
6区	SP1795	L-69	0.30	0.07		
6区	SP1796	L-69	0.32	0.16		
6区	SP1797	K-70	0.40	0.20		SA1015
6区	SP1798	L-70	0.35	0.24		
6区	SP1799	L-70	0.28	0.25		
6区	SP1800	L-70	0.41	0.21		SA1015
6区	SP1801	L-71	0.30	0.12		SA1015
6区	SP1802	L-71	0.30	0.14		SA1013
6区	SP1803	L-70	0.20	0.09		
6区	SP1804	L・M-70	0.53	0.36		SA1015
6区	SP1805	M-70	0.30	0.28		SA1013
6区	SP1806	M-70	0.30	0.15		SG1001
6区	SP1807	L-70	0.46	0.28	土師:杯・皿・小皿、陶器:碗、瓦器:椀、黒色:椀	SA1015
6区	SP1808	L・M-70	0.40	0.26		
6区	SP1809	L・M-69・70	0.28	0.18		SG1001
6区	SP1810	L-70	0.32	0.14		
6区	SP1811	L-70	0.30	0.14		
6区	SP1812	L-69	0.23	0.10		
6区	SP1813	L-69	0.42	0.46		SA1015
6区	SP1814	L-69	0.25	0.18		
6区	SP1815	L-69	0.23	0.14		SG1001
6区	SP1816	L-69	0.40	0.20		
6区	SP1817	L-69	0.30	0.15		SG1001 SP1818を切る
6区	SP1818	L-69	0.30	0.12		SA1018 SP1817に切られる
6区	SP1819	L-69	0.24	0.17		
6区	SP1820	M-69	0.35	0.18		
6区	SP1821	M-69	0.32	0.22		
6区	SP1822	M-69・70	0.30	0.20		SA1013 SP1823に切られる
6区	SP1823	M-69・70	0.30	0.14		SP1822を切る
6区	SP1824	M-70	0.32	0.22		SA1013
6区	SP1825	M-69	0.40	0.20		SA1013
6区	SP1826	M-69	0.20	0.18		
6区	SP1827	M-69	0.15	0.08		
6区	SP1828	M-69	0.23	0.20		
6区	SP1829	M-69	0.32	0.10		
6区	SP1830	M-69	0.42	0.09		SA1018
6区	SP1831	M-68	0.25	0.12		
6区	SP1832	M-68・69	0.40	0.20		SP1833を切る
6区	SP1833	M-68・69	0.64	0.18		SP1832・SP1834に切られる
6区	SP1834	M-68・69	0.60	0.18		SP1833を切る
6区	SP1835	M-69	0.29	0.16		SA1017
6区	SP1836	M-69	0.30	0.18		
6区	SP1837	M・N-68・69	0.28	0.13		
6区	SP1838	M・N-68	0.43	0.20		
6区	SP1839	M-68	0.18	0.08		
6区	SP1840	M-68	0.40	0.34		SA1017
6区	SP1841	M-68	0.19	0.06		
6区	SP1842	M・N-68	0.55	0.18		
6区	SP1843	N-68	0.24	0.06		
6区	SP1844	M・N-68	0.30	0.10		SP1845に切られる
6区	SP1845	N-68	0.30	0.11		SP1844を切る

調査区	遺構番号	位置	遺構規模(m) 長軸	深度	出土遺物	備考
6区	SP1846	N-68	0.15	0.10		
6区	SP1847	N-68	0.35	0.14		
6区	SP1848	N-68	0.28	0.16		
6区	SP1849	N-68	0.36	0.14		
6区	SP1850	N-68	0.28	0.12		SA1017
6区	SP1851	N-68	0.25	0.10		
6区	SP1852	O-68	0.35	0.16		
6区	SP1853	O-68	0.30	0.18		
6区	SP1854	O-68	0.30	0.30		
6区	SP1855	O-68	0.10	0.24		
6区	SP1856	O-68	0.22	0.18		
6区	SP1857	O-68・69	0.35	0.16		
6区	SP1858	N-68	0.22	0.16		
6区	SP1859	N-68	0.18	0.06		
6区	SP1860	N-68・69	0.20	0.08		SA1017
6区	SP1861	N-68・69	0.28	0.14		
6区	SP1862	N-69	0.35	0.18		SA1017
6区	SP1863	N-69	0.18	0.08		
6区	SP1864	N-69	0.36	0.16		
6区	SP1865	N-69	0.24	0.15		
6区	SP1866	N-69	0.52	0.26	土師:甕	SA1013
6区	SP1867	N-69	0.25	0.10		
6区	SP1868	N-68・69	0.25	0.10		
6区	SP1869	N-68・69	0.30	0.15		
6区	SP1870	N-68・69	0.28	0.12		
6区	SP1871	N-68・69	0.14	0.06		
6区	SP1872	N-68	0.24	0.12		
6区	SP1873	L・M-71・72	0.20	0.10		
6区	SP1874	M-71	0.28	0.28		
6区	SP1875	M-71	0.30	0.10		SA1016
6区	SP1876	M-71	0.25	0.15		SA1016
6区	SP1877	M-71	0.23	0.13		
6区	SP1878	M-71・72	0.26	0.18		SA1016
6区	SP1879	M-72	0.24	0.16		SA1016
6区	SP1880	M-72	0.18	0.08		SP1881を切る
6区	SP1881	M-72	0.18	0.06		SP1880に切られる
6区	SP1882	M-72	0.18	0.06		
6区	SP1883	N-73	0.20	0.06		
6区	SP1884	N-73・74	0.25	0.12		
6区	SP1885	N-73	0.20	0.06		
6区	SP1886	N-73	0.28	0.16		
6区	SP1887	N-73	0.25	0.16		
6区	SP1888	N-73	0.30	0.08		
6区	SP1889	N-73	0.20	0.22		
6区	SP1890	N-72	0.32	0.16		
6区	SP1891	N-72	0.44	0.46		
6区	SP1892	N-72	0.54	0.40		
6区	SP1893	M・N-72	0.40	0.10		
6区	SP1894	M・N-72	0.28	0.18		
6区	SP1895	M・N-72	0.20	0.10		
6区	SP1896	N-71	0.24	0.20		
6区	SP1897	N-72	0.14	0.10		
6区	SP1898	N-71	0.22	0.16		
6区	SP1899	M・N-71	0.30	0.38		SA1016
6区	SP1900	M-71	0.30	0.20		
6区	SP1901	M-71	0.20	0.08		
6区	SP1902	M-71	0.30	0.14		
6区	SP1903	M-71	0.24	0.10		SA1016
6区	SP1904	M-71	0.18	0.08		
6区	SP1905	M-71	0.40	0.10		SP1906を切る

第19表　検出遺構一覧表　柱穴・小穴（9）

調査区	遺構番号	位置	遺構規模(m) 長軸	遺構規模(m) 深度	出土遺物	備考
6区	SP1906	M-71	0.58	0.32		SA1013 SP1907を切り、SP1905に切られる
6区	SP1907	M-71	0.12	0.10		SP1906に切られる
6区	SP1908	M-70	0.22	0.08		
6区	SP1909	M 70	0.40	0.26		SA1013
6区	SP1910	M 70-71	0.20	0.20		
6区	SP1911	N-70	0.40	0.30		
6区	SP1912	N-70	0.30	0.22		SA1013
6区	SP1913	N-70	0.40	0.20		SP1914を切る
6区	SP1914	N-70	0.20	0.12		SP1913に切られる
6区	SP1915	N 70	0.22	0.26		SA1013 SP1916に切られる
6区	SP1916	N-70	0.24	0.24		SP1915を切る
6区	SP1917	N-70	0.40	0.28		SA1020
6区	SP1918	N·O -69·70	0.42	0.20		
6区	SP1919	O-69	0.30	0.16		
6区	SP1920	O-69	0.33	0.18		SA1020
6区	SP1921	O-69	0.30	0.10		
6区	SP1922	O 70	0.50	0.48		
6区	SP1923	O·69·70	0.33	0.26		
6区	SP1924	O-69	0.36	0.22		
6区	SP1925	O-69	0.30	0.08		SA1020
6区	SP1926	O-69	0.30	0.10		
6区	SP1927	O-69	0.30	0.10		
6区	SP1928	O-69	0.28	0.10		
6区	SP1929	P-69	0.45	0.16		
6区	SP1930	O·P-70	0.40	0.48	弥生:甕	
6区	SP1931	O-70	0.30	0.20		SA1020
6区	SP1932	P-70	0.18	0.08		
6区	SP1933	P-70	0.52	0.18		
6区	SP1934	P-70	0.26	0.12		
6区	SP1935	P-70	0.45	0.36		
6区	SP1936	P·Q-70	0.30	0.20		SP1937を切る
6区	SP1937	P·Q 70	0.25	0.18		SP1936に切られる
6区	SP1938	Q 70	0.24	0.10		
6区	SP1939	Q 70	0.25	0.10		
6区	SP1940	Q 71	0.30	0.16		
6区	SP1941	Q 71	0.35	0.20		
6区	SP1942	Q-70	0.28	0.12		
6区	SP1943	P·Q-71	0.25	0.22		
6区	SP1944	Q-71	0.20	0.14		
6区	SP1945	P-71	0.30	0.22		
6区	SP1946	P-71	0.30	0.12		
6区	SP1947	P-71	0.22	0.80		
6区	SP1948	P-70	0.30	0.16		SA1020
6区	SP1949	O·P-70	0.45	0.32		
6区	SP1950	O-70	0.34	0.22		
6区	SP1951	O-70	0.60	0.33		
6区	SP1952	O-71	0.35	0.34		
6区	SP1953	P-71	0.45	0.30		
6区	SP1954	O-71	0.35	0.20		
6区	SP1955	O-71	0.50	0.40		SA1020
6区	SP1956	O-70·71	0.60	0.26		SP1957に切られる
6区	SP1957	O-70·71	0.60	0.42		SP1956を切る
6区	SP1958	O-71	0.55	0.28		
6区	SP1959	O 70	0.50	0.33		SA1019 SP1960を切る
6区	SP1960	O-70	0.15	0.32		SP1959·SP1961に切られる
6区	SP1961	O-70	0.15	0.13		SP1960を切り、SP1962に切られる
6区	SP1962	O-70	0.50	0.32		SP1961を切る
6区	SP1963	O-70·71	0.40	0.20		SA1020
6区	SP1964	O-71	0.20	0.10		
6区	SP1965	N·O -70·71	0.40	0.32		
6区	SP1966	O-71	0.44	0.45		
6区	SP1967	N 70·71	0.40	0.34		SP1968を切る
6区	SP1968	N 70·71	0.24	0.07		SP1967に切られる
6区	SP1969	N 71	0.35	0.24		SA1019
6区	SP1970	N-71	0.34	0.18		
6区	SP1971	N-71	0.25	0.16		
6区	SP1972	N-71	0.35	0.32		
6区	SP1973	N-71	0.35	0.32		SA1019
6区	SP1974	O-71	0.50	0.42		SA1020
6区	SP1975	O-71	0.32	0.28		
6区	SP1976	O-71	0.38	0.26		
6区	SP1977	N·O -70·71	0.20	0.06		SA1019
6区	SP1978	N·O-72	0.30	0.30		
6区	SP1979	O-71·72	0.34	0.12		
6区	SP1980	O·71	0.43	0.36	土師:杯·皿·小皿	
6区	SP1981	O-71	0.35	0.14		
6区	SP1982	O 71·72	0.55	0.67		
6区	SP1983	O 71	0.30	0.17		
6区	SP1984	O 71	0.50	0.27		SA1019
6区	SP1985	O·P 71	0.50	0.38		
6区	SP1986	O-72	0.40	0.30		SG1002 SP1987を切る
6区	SP1987	O·P-72	0.50	0.17		SP1986に切られる
6区	SP1988	O-72	0.23	0.50		SA1021
6区	SP1989	O·P-72	0.42	0.30		
6区	SP1990	O-72	0.45	0.44		SG1002
6区	SP1991	O-72	0.28	0.18		
6区	SP1992	O-72	0.28	0.19		
6区	SP1993	P·72	0.45	0.19		
6区	SP1994	P·72	0.42	0.34		SP1995を切る
6区	SP1995	P-72	0.45	0.40		SA1021 SP1994に切られる
6区	SP1996	O·P -72·73	0.25	0.12		
6区	SP1997	O 73	0.26	0.32	石錘	
6区	SP1998	P-72·73	0.43	0.32		
6区	SP1999	P 73	0.39	0.13		SA1021
6区	SP11000	P 73	0.25	0.08		
6区	SP11001	P 73	0.60	0.18	土師:杯	
6区	SP11002	P-72·73	0.50	0.21		SA1021
6区	SP11003	P·72	0.30	0.30		
6区	SP11004	P-72	0.50	0.32		SA1021
6区	SP11005	P-72	0.22	0.19		SK1056に切られる
6区	SP11006	P-71·72	0.30	0.06		SG1002
6区	SP11007	P-72	0.25	0.06		
6区	SP11008	P-71	0.35	0.08		SP11009を切る
6区	SP11009	P-71	0.25	0.04		SG1002 SP11006に切られる
6区	SP11010	P·Q -71·72	0.38	0.13		SA1022
6区	SP11011	Q-72	0.25	0.11		
6区	SP11012	P·Q-72	0.35	0.08		

第20表　検出遺構一覧表　柱穴・小穴（10）

調査区	遺構番号	位置	遺構規模(m) 長軸	深度	出土遺物	備考
6区	SP11013	P-Q-72	0.19	0.12		SG1002
6区	SP11014	Q-72	0.32	0.10		
6区	SP11015	P-Q 72	0.40	0.20		SG1002
6区	SP11016	Q 72	0.28	0.18		
6区	SP11017	Q-72	0.25	0.06		SA1022 SP11008に切られる SG1002
6区	SP11018	Q-72	0.30	0.06		SP11017を切り、 SK1060に切られる
6区	SP11019	Q-73	0.30	0.24		
6区	SP11020	Q-73	0.35	0.22		
6区	SP11021	Q-73	0.26	0.16		
6区	SP11022	Q-72	0.28	0.12		SA1022
6区	SP11023	Q-72	0.33	0.10		
6区	SP11024	Q-72	0.36	0.12		
6区	SP11025	Q-72	0.30	0.12		
6区	SP11026	Q-72	0.23	0.13		
6区	SP11027	Q 72	0.35	0.11		
6区	SP11028	Q 71-72	0.35	0.10		
6区	SP11029	Q 71	0.43	0.22		
6区	SP11030	Q 71	0.40	0.14		SA1022
6区	SP11031	L 69	0.40	0.12		
6区	SP11032	R-69	0.60	0.14		
6区	SP11033	R-69	0.16	0.24		
6区	SP11034	R-69	0.18	0.16		
6区	SP11035	T-68	0.29	0.29		
6区	SP11036	T-68	0.26	0.11		
6区	SP11037	U-69	0.25	0.14		
6区	SP11038	U-69	0.63	0.32		
6区	SP11039	O-P-70	0.34	0.24		SA1020
6区	SP11040	N 69-70	0.23	0.30		SK1062-SP11041 に切られる
6区	SP11041	N 69-70	0.25	0.10		SP11040を切り、 SK1062に切られる
6区	SP11042	L-69	0.30	0.06		
6区	SP11043	O-P -68-69	0.25	0.10		
6区	SP11044	O 68	0.54	0.18		
6区	SP11045	O-68-69	0.25	0.13		
6区	SP11046	O 69	0.30	0.21		
6区	SP11047	O 69	0.37	0.08		
6区	SP11048	O-69	0.35	0.10		
6区	SP11049	N-69	0.64	0.10		
6区	SP11050	N-69-70	0.28	0.16	土師小皿・杯	
6区	SP11051	N-70	0.28	0.19		SA1013
6区	SP11052	J-72	0.25	0.12		
6区	SP11053	J-72	0.65	0.24		
6区	SP11054	J-72	0.30	0.31		
6区	SP11055	J-72	0.25	0.16		
6区	SP11056	J-72	0.24	0.29		
6区	SP11057	P-71	0.96	0.24		SA1020
6区	SP11058	P-72	0.75	0.24		SA1021

遺物観察表

遺物観察表凡例

土器・陶器・磁器

・遺物番号：本文中の掲載番号を指す。

・法　　量：（　）内の数値は口径～底径が復元値、器高は残存値を示す。

・残 存 率：残存率は図示した部分を100%として、その中での残存値を示す。

・色　　調：小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』1996・1997年度版と太田昭雄・川崎秀昭『標準色彩図表A』日本色研事業株式会社1981に拠った。

・胎　　土：肉眼観察で判別した胎土中に含まれる鉱物を以下の略号で示した。

石＝石英、片＝結晶片岩、雲＝雲母、赤＝赤色斑粒、長＝長石、角＝角閃石、花崗＝花崗岩、安山＝安山岩、泥＝泥岩、ほか

第21表　出土遺物観察表　土器（1）

遺物番号	遺構番号	器種	法量（cm）口径	頸部径	胴部最大径	底径	器高	残存率(%)	成形・調整	色調	胎土	備考
1	1区 SK1003	弥生土器 甕				(6.4)	(2.5)	20	外：ヨビナエヌのちナデ、底部ナデ 内：ナデ	外：橙7.5YR6/6 内：橙7.5YR6/6	石・雲・赤	焼成 良
2	3区 SK1014	弥生土器 底	(14.6)				(1.7)	20	外：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラ6～8条/cmのちナデ 内：ヘラ5～6条/cmのちヨコナデ	外：橙5YR6/6 内：橙2.5YR6/8	石・片	焼成やや良
3	3区 SK1014	弥生土器 壺				(12.8)	(6.0)	24	外：胴上部、底部ナデ 内：胴下部、底部ヘラケズリのちナデ	外：明赤褐色5YR5/6 内：明赤褐色2.5YR5/8	石・雲・片	焼成ややもろい
4	3区 SK1014	弥生土器 鉢	(15.4)	(15.0)	(19.6)		(8.9)	20	外：口縁部磨滅のため調整不明、胴上部ハケ6条/cm 内：口縁部肥厚のため調整不明、胴上部ユビオサエのちユビナデ	外：明赤褐色5YR5/8 内：明赤褐色5YR5/8	石・雲・片・赤	焼成 良 外面黒斑有り
5	3区 SK1014	弥生土器 甕	(14.3)	(13.0)			(5.9)	15	外：口縁部ヨコナデ、胴上部ハケ条/cm 内：口縁部ヨコナデ、ユビオサエのちハケ条/cm、胴上部ヘラケズリ	外：にぶい橙色7.5YR6/4 内：にぶい橙色7.5YR5/4	石・雲・砂・片・赤	焼成やや良
6	3区 SK1014	弥生土器 壺	(14.8)	(12.7)	(16.2)		(8.5)	30	外：口縁部ヨコナデのち回線1条、頸部ヨコナデ、胴部ハケ6条/cm 内：口縁部ヨコナデ、頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	外：にぶい黄橙色10YR6/3 内：にぶい橙色7.5YR6/4	石・雲・砂・片・赤	焼成やや良
7	3区 SK1014	弥生土器 甕	(15.8)	(13.2)			(4.3)	20	外：口縁部ヨコナデのち回線、頸部ヨコナデ、胴上部ハケ6条/cm 内：口縁部ヨコナデ、胴部ユビオサエのちヨコナデ、胴上部ヘラケズリ	外：にぶい赤褐色5YR5/4 内：にぶい赤褐色5YR6/4	石・片・赤	焼成やややもろい
8	3区 SK1014	弥生土器 甕				(5.3)	(2.9)	45	外：ナデ、底部ナデ 内：ヘラケズリ、底面ヘラケズリのちナデ	外：明赤褐色2.5YR5/6 内：明赤褐色2.5YR5/8	石・雲・片・赤	焼成やややもろい 外面～底部黒斑有り
9	3区 SK1014	弥生土器 壺				(4.9)	(4.0)	30	外：底部ハケ6条/cmのちヨコナデ 内：底部板ナデ	外：にぶい橙7.5YR6/4 内：にぶい褐色7.5YR5/3	石・雲・赤	焼成 良
10	3区 SK1014	弥生土器 甕				(8.4)	(7.0)	20	外：胴下部ヘラケズリ、底部ユビオサエ	外：灰褐色7.5YR5/2 内：橙2.5YR6/8	石・雲・砂・片	焼成もろい
11	3区 SK1014	弥生土器 鉢	(36.3)				(1.7)	8	外：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラ9条/cm 内：口縁部ヨコナデ、胴部ハケ9条/cm	外：赤灰色7.5YR4/1 内：にぶい赤褐色5YR4/4	石・雲・片	焼成 良 外面黒斑有り
12	3区 SK1014	弥生土器 壺	(30.0)				(5.3)	8	外：口縁部ヨコナデ、胴上部ハケ4条/cm 内：口縁部ヨコナデ、胴上部ハケ5条/cm	外：明赤褐色5YR5/6 内：明赤褐色5YR5/6	石・雲・片・赤	焼成 良
13	3区 SK1014	弥生土器 高杯	(22.0)				(6.6)	25	外：口縁部ヨコナデのち凹線2条、体部ハケ6条/cmのちヘラミガキ 内：口縁部ヨコナデ、台部ヘラミガキ	外：にぶい橙7.5YR6/4 内：橙2.5YR6/6	石・雲・良・赤	焼成 良 外面黒斑
14	3区 SK1014	弥生土器 高杯	(22.0)				(5.8)	15	外：口縁部ヨコナデのち凹線2条、胴部上位ヨコナデ、下位ハケ6条/cm 内：口縁部ヘラミガキのちヨコナデ、胴部ヘラミガキ	外：明赤褐色5YR5/6 内：明赤褐色2.5YR5/6	石・雲・砂・片・赤	焼成やや良
16	5区 SK1033	弥生土器 壺	(15.8)	(12.3)			(4.9)	20	外：口縁部ヨコナデのち凹線3条、頸部ヨコナデ、ヘラ4条/cmのちヨコナデ 内：口縁部ヨコナデ、胴部ハケ4条/cmのちヨコナデ	外：明赤褐色5YR5/6 内：にぶい赤褐色5YR6/4	石・雲・砂・片・赤	焼成 良 内外面黒斑有り
17	6区 SD1008	弥生土器 壺	(16.8)				(6.8)	30	外：口縁部ヨコナデのち凹線2条、頸部ハケ4条/cm 内：口縁部ヨコナデ、頸部板ナデのちナデ	外：橙5YR6/6 内：橙5YR6/6	石・砂・赤	焼成 良
18	6区 SD1008	弥生土器 壺	(17.3)				(3.6)	10	外：口縁部磨滅著しい凹線2条、頸部ナデ磨滅著しい 内：磨滅不明ナデ？	外：暗赤灰色2.5Y5/2 内：灰黄褐色2.5Y5/2	石・雲・長・砂・赤	焼成もろい
19	6・8区 SD1008	弥生土器 壺	(18.1)				(2.8)	10	外：口縁部ヨコナデのち凹線2条、頸部ヨコナデ 内：ハケ4条/cmのちヨコナデ、頸部ナデ	外：明赤褐色5YR5/6 内：明赤褐色5YR5/6	石・雲・砂・赤	焼成 良
20	6・8区 SD1008	弥生土器 壺	(12.0)	(8.8)			(5.9)	40	外：口縁部ヨコナデ、胴体部ナデ 内：口縁部ヨコナデ、頸部ナデ、胴上部ヘラケズリ	外：橙5YR6/6 内：橙5YR6/6	石・片・赤	焼成 良
21	6区 SD1008	弥生土器 壺	(13.2)				(6.6)	20	外：口縁部ヨコナデ、頸部ハケ8条/cmのちヨコナデ 内：口縁部ヨコナデ、頸部板ナデのちユビオサエ	外：橙5YR6/6 内：橙5YR6/6	石・片・赤	焼成 良
22	6区 SD1008	弥生土器 甕	(14.1)				(1.7)	13	外：口縁部ヨコナデ、頸部ナデ 内：口縁部板ナデのちナデ、頸部板ナデ	外：橙5YR6/6 内：橙5YR6/6	石・片・赤	焼成 良
23	6区 SD1008	弥生土器 壺		(15.4)			(5.2)	20	外：頸部ヨコナデ、体部ナデ 内：頸部ヨコナデ、体部ヘラケズリのちナデ	外：明赤褐色5YR5/6 内：橙5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成もろい

第22表　出土遺物観察表　土器（2）

遺物番号	遺構番号	器種	法量(cm) 口径	頸部径	胴部最大径	底径	器高	残存率(%)	成形・調整	色調	胎土	備考
24	6区 SD1008	弥生土器 壺		(14.7)			(6.0)	25	外:頸部ハケ6条/cmのち凹線2条・胴上部板ナデ 内:ヘラケズリ	外:にぶい黄橙10YR7/4 内:にぶい黄橙10YR6/3	石・長・赤	焼成やや良 内面黒斑有り
25	6区 SD1008	弥生土器 壺			(19.8)		(4.8)	10	外:ナデのち2段の櫛描列点文 内:ヘラケズリ	外:橙5YR6/6 内:橙7.5YR6/6	石・雲・砂・片・赤	焼成 良 外面炭化物付着
26	6区 SD1008	弥生土器 壺				(5.4)	(2.8)	30	外:ナデ 内:ヘラケズリのちナデ	外:橙5YR6/6 内:にぶい褐色7.5YR5/3	石・片・長・赤	焼成 良 内面黒斑有り
27	6区 SD1008	弥生土器 壺				(6.2)	(2.2)	20	外:板ナデ 内:板ナデ	外:にぶい黄褐色10YR5/3 内:にぶい黄橙10YR6/4	石・雲・片・赤	
28	6区 SD1008	弥生土器 壺				(4.0)	(1.3)	13	外:板ナデのちナデ 内:ケズリ	外:橙7.5YR7/6 内:にぶい黄橙10YR6/3	石・雲・長・赤	焼成ややもろい
29	6区 SD1008	弥生土器 壺				(7.6)	(2.4)	20	外:板ナデのちナデ、底部ナデ 内:板ナデのちナデ	外:にぶい橙7.5YR6/4 内:橙5YR6/6	石・雲・砂・赤	焼成やや良 外面黒斑有り
30	6区 SD1008	弥生土器 壺				(9.2)	(3.9)	25	外:ナデ、底部ナデ 内:ヘラケズリのちナデ	外:橙7.5YR6/6 内:にぶい黄褐色7.5YR5/3	石・雲・片・赤	焼成 良 内外面に黒斑有り
31	6区 SD1008	弥生土器 甕	(12.5)	(10.5)			(1.9)	8	外:口縁部ヨコナデのち凹線2条、頸部ヨコナデ 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・片	焼成やや良
32	6区 SD1008	弥生土器 甕	(18.2)	(15.7)			(2.2)	10	外:口縁部凹線3条、頸部ヨコナデ 内:口縁部ナデ、頸部ハケ8条/cmのちナデ	外:にぶい橙7.5YR6/3 内:橙5YR6/6	石・雲・長・赤	焼成やや良
33	6区 SD1008	弥生土器 甕	(16.2)	(14.2)			(6.1)	20	外:口縁部ヨコナデのち凹線2条、頸部ヨコナデ、胴上部ハケ5条/cmのちナデ 内:口縁部ヨコナデ、胴上部ヘラケズリのちナデ	外:黒褐色10YR3/1 内:黒褐色10YR3/1	石・片	焼成 良
34	6区 SD1008	弥生土器 甕	(15.6)	(11.8)			(3.4)	20	外:口縁部ヨコナデのち凹線3条、頸部ヨコナデ 内:口縁部ヨコナデ、頸部ハケ6条/cmのちナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	長・雲・片・赤	焼成 良
35	6区 SD1008	弥生土器 甕	(20.7)	(17.2)			(2.9)	13	外:口縁部、頸部ヨコナデ 内:口縁部ヨコナデ、頸部ハケ6条/cm	外:明赤褐色5YR5/6 内:明赤褐色5YR5/6	雲・砂・片・長	焼成やや劣
36	6区 SD1008	弥生土器 甕	(17.1)	(13.8)			(4.8)	15	外:口縁部、頸部ヨコナデ、胴上部ナデ 内:口縁部ヨコナデ、頸部ユビオサエのちヨコナデ、胴上部ヘラケズリ	外:にぶい褐色7.5YR5/3 内:にぶい橙7.5YR6/4	石・長・片・赤	焼成 良
37	6区 SD1008	弥生土器 甕	(13.5)	(11.3)	(13.1)		(6.5)	25	外:口縁部ヨコナデ、胴上部ハケ6条/cmのちヨコナデ、ハケ6条/cm 内:口縁部摩滅気味板ナデのちヨコナデ、胴上部ユビオサエ・ヘラケズリ	外:明赤褐色5YR5/6 内:明赤褐色5YR5/6	石・雲・砂・片・赤	焼成もろい 外面黒斑有り
38	6区 SD1008	弥生土器 甕	(13.0)	(12.3)			(5.0)	13	外:口縁部ヨコナデのち凹線1条、体部ヨコナデ・ナデ 内:口縁部板ナデ・ナデ、体部ヘラケズリ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・砂・片・赤	焼成やや良 内面炭化物付着
39	6区 SD1008	弥生土器 甕	(15.6)	(13.8)			(7.3)	15	外:口縁部ヨコナデ、胴上部板ナデのちナデ 内:口縁部ナデのちユビオサエ、胴上部ユビオサエのちナデ	外:橙5YR6/8 内:橙7.5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成ややもろい 接合痕有り
40	6区 SD1008	弥生土器 甕	(13.6)	(11.3)			(5.7)	8	外:口縁部ヨコナデ、頸部ハケ7条/8mmのちヨコナデ、胴上部ハケ7条/8mm 内:口縁部ヨコナデ・板ナデ、体部ヘラケズリ	外:にぶい褐色7.5YR5/4 内:にぶい橙7.5YR6/4	石・雲・片	焼成 良 外面黒斑有り
41	6区 SD1008	弥生土器 甕	(16.9)	(13.5)			(5.5)	20	外:口縁部ユビオサエのちヨコナデ、胴上部タタキ3条/cmのちハケ4条/cm、板ナデ摩滅著しい 内:口縁部板ナデ、胴上部ユビオサエ、ヘラケズリ	外:にぶい橙7.5YR6/4 内:にぶい黄褐色10YR5/4	石・雲・砂・片・赤	焼成ややもろい 内面黒斑有り 外面炭化物付着
42	6区 SD1008	弥生土器 甕		(14.2)			(6.2)	20	外:頸部ヨコナデ、胴上部ハケ6~7条/cmのちナデのちミガキ 内:頸部ナデ、胴上部ユビオサエ・ヘラケズリ	外:橙7.5YR6/6 内:にぶい黄褐色10YR6/3	石・雲・片・長・赤	焼成 良 *内面当て具痕有り
43	6区 SD1008	弥生土器 甕				(5.6)	(3.0)	20	外:ナデ 内:ナデ	外:明赤褐色5YR5/6 内:橙2.5YR6/8	石・雲・片・赤	焼成 良
44	6区 SD1008	弥生土器 甕				(7.1)	(2.3)	15	外:板ナデのちナデ、底部ナデ 内:ヘラケズリ	外:灰黄褐色10YR4/2 内:黒褐色10YR3/1	石・雲・砂・片・赤	焼成 良 内面黒斑有り
45	6区 SD1008	弥生土器 甕				(7.0)	(3.3)	40	外:ナデ、底部ナデ 内:ヘラケズリ、底部ユビオサエのちナデ	外:灰黄褐色10YR6/2 内:にぶい黄褐色10YR5/3	石・雲・砂・片・赤	焼成 良 外面黒斑有り
46	6区 SD1008	弥生土器 甕				(5.8)	(3.9)	37	外:ナデ、底部ナデ 内:板ナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・片・赤	焼成 良

第23表　出土遺物観察表　土器（3）

遺物番号	遺構番号	器種	法量(cm) 口径	頸部径	胴部最大径	底径	器高	残存率(%)	成形・調整	色調	胎土	備考
47	6区 SD1008	弥生土器 甕				(5.8)	(2.7)	15	外:板ナデのちナデ、底部ナデ 内:ヘラケズリ	外:灰褐色7.5YR4/2 内:にぶい黄褐色10YR5/3	石・雲・長・砂・赤	焼成 良 外面黒斑有り
48	6区 SD1008	弥生土器 甕				(5.3)	(2.4)	20	外:ハケ6条/cmのちナデ、底部ナデ 内:ヘラケズリ	外:にぶい褐色7.5YR5/4 内:にぶい橙7.5YR6/4	石・雲・片・赤	焼成 良
49	6区 SD1008	弥生土器 甕				(6.4)	(3.5)	25	外:ハケ6条/cmのちナデ、底部ナデ 内:ヘラケズリ	外:にぶい褐色7.5YR6/3 内:にぶい褐色7.5YR6/3	石・雲・長・片・赤	
50	6区 SD1008	弥生土器 甕				(4.8)	(2.7)	15	外:板ナデ、底部ナデ 内:ケズリ	外:にぶい橙2.5YR6/3 内:にぶい褐色7.5YR6/3	石・雲・赤	
51	6区 SD1008	弥生土器 甕				(4.8)	(4.1)	25	外:ハケのちナデ、底部ナデ 内:ハケ6条/cm、底部ユビオサエ	外:明赤褐色5YR5/6 内:明赤褐色5YR5/6	石・雲・長・砂・片・赤	焼成 良
52	6区 SD1008	弥生土器 甕				7.0	3.3	20	外:板ナデ、底部ナデ 内:ヘラケズリのちナデ	外:明赤褐色5YR5/6 内:橙5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成 良 底面黒斑有り
53	6区 SD1008	弥生土器 甕				6.2	(6.1)	50	外:ハケ4条/cm、底部ナデ 内:ヘラケズリ、底部ユビオサエのちナデ	外:にぶい黄橙10YR6/4 内:橙7.5YR6/6	石・長・砂・片・赤	焼成やや良
54	6区 SD1008	弥生土器 甕				(6.1)	(1.8)	20	外:板ナデのちナデ、底部ナデ 内:ヘラケズリのちナデ	外:にぶい赤褐色5YR4/4 内:にぶい褐色7.5YR5/4	石・長・砂・赤	焼成 良
55	6区 SD1008	弥生土器 甕				(7.0)	(3.0)	13	外:ナデ、底部ナデ 内:ユビオサエのちナデ	外:明赤褐色2.5YR5/6 内:にぶい赤褐色2.5YR5/4	石・雲・長・片・赤	焼成やや良
56	6区 SD1008	弥生土器 鉢	(34.4)				(5.8)	5	外:口縁部ヨコナデ、胴上部ハケ5条/cm 内:口縁部ヨコナデ、胴上部板ナデ	外:暗灰黄色2.5Y4/2 内:橙7.5YR6/6	石・雲・長・砂・片・赤	焼成 良
57	6区 SD1008	弥生土器 鉢	(30.6)				(3.6)	10	外:口縁部ヨコナデ、頸部ナデ 内:口縁部ヨコナデ、頸部ヨコナデのちヘラミガキ	外:明赤褐色5YR5/6 内:にぶい橙7.5YR6/4	石・雲・片・赤	焼成 良
58	6区 SD1008	弥生土器 鉢	(12.0)				(4.9)	25	外:口縁部ヨコナデ、体部ハケ5条/cm 内:口縁部ヨコナデ、体部ミガキ 摩滅している部分有り	外:明赤褐色2.5YR5/6 内:明赤褐色2.5YR5/6	石・雲・赤	焼成 良 外面炭化物付着
59	6区 SD1008	弥生土器 高杯		(3.3)			(7.7)	35	外:ハケ6条/cmのちナデ 内:杯部:ナデ、脚部:しわ痕・板ナデのちナデ	外:褐色7.5YR4/6 内:赤褐色5YR4/6	石・雲・砂・片・赤	焼成 良
60	3区 SR1001	弥生土器 壺	(19.7)	(11.8)			(6.6)	60	外:口縁部ヨコナデ凹線3条、頸上部ハケ7条/cm・下部ハケ工具による刻み目 内:口縁部ヨコナデ、頸上部ハケ7条/cm・下部板ナデ	外:橙5YR6/8 内:明赤褐色5YR5/8	石・雲・長・片・赤	焼成 劣
61	3区 SR1001	弥生土器 鉢				(9.0)	(3.6)	45	外:ハケ6条/cmのちナデ、底部ナデ 内:ヘラケズリ	外:にぶい褐色7.5YR5/4 内:明褐色7.5YR5/6	石・雲・片・赤	焼成 良 外面、底面黒斑有り
62	3区 SR1001	弥生土器 甕	(15.0)	(13.5)			(5.0)	10	外:口縁部ヨコナデのち凹線2条、頸部ヨコナデ、胴上部ハケ7条/cm 内:口縁部ヨコナデ摩滅気味、胴上部板ナデのちユビオサエ	外:橙2.5YR6/6 内:明赤褐色2.5YR5/6	石・雲・片・赤	焼成やや良
63	3区 SR1001	弥生土器 甕				(5.9)	(3.3)	25	外:板ナデ・ユビオサエ、底部ナデ 内:ヘラケズリのちナデ・ユビオサエ	外:にぶい褐色7.5YR6/3 内:にぶい橙7.5YR6/4	石・雲・砂・赤	焼成 良 外面黒斑あり
64	4区 SR1001	弥生土器 壺				(6.6)	(3.5)	25	外:ミガキ、底部ナデ 内:ヘラケズリ	外:にぶい黄橙10YR6/4 内:にぶい黄褐色10YR5/3	石・雲・砂・赤	焼成 良 外面黒斑有り 讃岐系？
66	3区 SP1104	弥生土器 甕	(22.6)	(18.9)			(6.1)	25	外:口縁部ヨコナデ、胴上部ハケ6条/cm 内:口縁部ヨコナデ、胴上部ハケ6条/cmのちナデ・ユビオサエ・ユビナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・砂・片・赤	焼成 良 内面炭化物付着
67	3区 SP1104	弥生土器 甕	(21.0)	(18.2)			(3.0)	5	外:口縁部、頸部ハケ8条/cmのちヨコナデ 内:口縁部、頸部ナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成ややもろい
68	3区 SP1104	弥生土器 甕	(17.6)	(15.8)			(5.0)	20	外:ハケ6条/cmのちナデ 内:口縁部、頸部ハケ6条/cmのちナデ、胴上部ユビナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成ややもろい
69	3区 SP1104	弥生土器 甕		(19.2)			(8.5)	15	外:頸部ヨコナデ、胴上部ハケ6条/cm 内:頸部ハケ4条/6mm、胴上部ナデ	外:橙5YR6/6 内:橙7.5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成 良 内外面黒斑有り 下川成搬入土器
71	6区 SP1930	弥生土器 甕				(6.8)	(1.9)	15	外:ナデ 内:板ナデ	外:褐色7.5YR4/3 内:褐色7.5YR4/3	石・雲・片・赤	焼成 良

第24表　出土遺物観察表　土器（4）

遺物番号	出土位置	器種	法量(cm) 口径	頸部径	胴部最大径	底径	器高	残存率(%)	成形・調整	色調	胎土	備考
75	2区 AB-12	弥生土器 壺				5.4	(3.6)	70	外:胴下部板ナデのちナデ・ヨコナデ、底部ヘラケズリのちナデ 内:ヘラケズリ	外:にぶい赤褐色5YR5/4 内:にぶい赤褐色5YR5/4	石・雲・砂・片・長	焼成 良
76	2区 AA-13	弥生土器 壺				(8.0)	(4.3)	50	外:板ナデのちナデ 内:ヘラケズリ	外:にぶい橙5YR6/4 内:灰黄褐色10YR5/2	石・雲・片・赤	焼成やや良
77	2区 Y-17	弥生土器 甕				(6.4)	(4.2)	25	外:胴下部ハケ6条/cm摩滅部分多し、底部ナデ 内:板ナデ、底部ユビオサエ	外:にぶい黄橙10YR7/3 内:赤褐色5YR4/6	石・雲・砂・片・赤	焼成 良 外面黒斑あり
78	2区 AA-17	弥生土器 甕				(5.4)	(6.3)	30	外:胴下部ハケ6条/cmのちユビナデ底部ナデ 内:胴下部ヘラケズリ、底部ユビオサエ	外:褐色7.5YR4/4 内:にぶい赤褐色5YR5/4	石・雲・砂・片・長・赤	焼成 良
79	2区 AA-17	弥生土器 壺		(3.8)			(4.1)	70	外:磨滅のため調整不明 内:磨滅のため調整不明	外:褐色7.5YR4/3 内:赤褐色5YR4/6	石・雲・砂・片・長	焼成ややもろい
80	2区 Y-18	弥生土器 器台		(9.7)		(17.8)	(15.7)	50	外:頸部、胴部ハケ(6~7条/cm)のちナデ、スカシ孔有り4ヶ所、底部ナデ 内:頸部、胴上部ケズリのちナデ、下部ケズリ、底部ナデ	外:にぶい赤褐色5YR5/4 内:赤褐色5YR5/6	石・雲・片・赤	焼成 良 内面黒斑あり
82	3区 耕作土	弥生土器 壺	(19.2)	(13.6)			(6.7)	15	外:口縁部ヨコナデ凹線1条、頸部ハケのちナデ・ハケ工具による刻み目(6条/cm) 内:口縁部ヨコナデ、頸部ハケのちナデ	外:橙5YR6/8 内:明赤褐色5YR5/8	石・雲・片・長・赤	焼成 劣
83	3区 Y-24	弥生土器 壺	(14.7)				(7.2)	15	外:口縁部ヨコナデ凹線2条、頸部ハケ11条/cmのちナデ 内:口縁部ヨコナデ、頸部板ナデ・ハケ8条/cmのちナデ	外:にぶい黄橙10YR7/3 内:にぶい黄橙10YR6/3	石・雲・砂・片・赤	焼成 良 外面黒斑有り 内面炭化物付着
84	3区	弥生土器 壺	(15.2)				(3.2)	20	外:磨滅のため調整不明、頸部沈線2条 内:磨滅のため調整不明	外:明赤褐色5YR5/6 内:にぶい赤褐色5YR4/4	石・雲・片・赤	焼成ややもろい
85	3区 V-20	弥生土器 壺	(14.6)	(11.2)			(10.0)	25	外:口縁部ヨコナデのち凹線2条、頸部ヨコナデ、胴上部ハケ4条/cm磨滅している部分多し 内:口縁部、頸部ヨコナデ、胴上部ユビオサエ・ヘラケズリ	外:橙2.5YR6/8 内:赤褐色5YR4/6	石・雲・砂・片	焼成もろい
86	3区 Z-23	弥生土器 甕				(9.0)	(8.0)	25	外:ナデ、底部ナデ 内:ヘラケズリのちナデ、底部ユビオサエ	外:にぶい橙7.5YR6/4 内:にぶい黄橙10YR6/4	石・雲・片・長・赤	焼成やや良 断面接合痕有り
87	3区 Y-24	弥生土器 壺				(12.6)	(2.9)	25	外:ナデ 内:ヘラケズリ	外:橙5YR6/6 内:黒褐色10YR3/1	石・雲・砂・片・赤	焼成 良 外面炭化物付着
88	3区 S-20	弥生土器 壺				(8.0)	(8.9)	20	外:板ナデのちナデ、底部ナデ 内:ヘラケズリのちナデ、底部ヘラケズリのちユビオサエ	外:橙5YR6/6 内:褐灰色10YR5/1	石・雲・砂・赤	焼成 良 外面炭化物付着
89	3区 W-22 X-22	弥生土器 甕	(13.3)	(10.5)	18.2	(5.5)	口(13.9) 底(5.9)	口20 底18	外:口縁部ヨコナデ、頸部ハケのちヨコナデ、胴上部ハケ6条/11mmのちナデ、下部ハケ6条/11mm剥離しているため不明、底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ、胴底部ヘラケズリのちナデ	外:明赤褐色5YR5/6 内:橙5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成ややもろい 内外面黒斑有り
90	3区 Z-21	弥生土器 甕	(13.2)				(2.1)	10	外:口縁部ヨコナデ、頸部ハケのちナデ 内:ヨコナデ	外:明赤褐色5YR5/6 内:明赤褐色5YR5/6	石・片・赤	焼成 良 接合痕有り
91	3区 T-21,23	弥生土器 甕	(14.4)	(12.6)			(3.2)	20	外:口縁部ヨコナデ、頸部ヨコナデ 内:口縁部ヨコナデ、頸部板ナデ磨滅気味	外:橙5YR6/6 内:にぶい橙7.5YR6/4	石・片・赤	焼成ややもろい
92	3区 X-22	弥生土器 甕	(16.0)	(13.1)			(5.1)	10	外:口縁部ヨコナデ、胴上部ハケ6条/cm 内:口縁部ヨコナデ、胴上部ユビオサエ・ハケ6条/cm・ヘラケズリ	外:にぶい赤褐色5YR5/4 内:赤褐色5YR4/6	石・雲・砂・片・赤	焼成 良 外面炭化物付着
93	3区 Y-27	弥生土器 甕	(18.6)	(16.0)			(6.8)	15	外:口縁部、頸部ヨコナデ凹線2条、胴上部ナデ 内:口縁部、頸部ナデ、胴上部ユビナデのちユビオサエ	外:褐色7.5YR4/6 内:にぶい橙7.5YR6/4	石・雲・片・長・赤	焼成やや良 外面接合痕有り 内面工具によると思われる1条の線有り
94	3区 X-22	弥生土器 甕	(10.7)	(8.9)			(4.5)	20	外:口縁部、頸部ヨコナデ、胴上部ハケ6条/cmのちナデ 内:口縁部、頸部ヨコナデ、胴上部ヘラケズリ	外:橙5YR6/6 内:暗灰黄色2.5Y5/2	石・雲・片・長・赤	焼成やや劣
95	3区 V-20	弥生土器 甕	(14.8)	(10.4)			(4.2)	20	外:口縁部ナデ、頸部ハケ6~7条/cmのちナデ、胴上部ハケ7条/cm 内:口縁部ヨコナデ、頸部ハケ6条/cm、胴上部ナデ	外:明褐色7.5YR5/6 内:褐色7.5YR4/4	石・雲・赤	焼成もろい 外面黒斑あり
96	3区 X-22	弥生土器 甕	14.6	12.7	18.8	(6.0)	23.0	60	外:口縁部ヨコナデ、胴部ハケ5条/cm、底部ナデ 内:口縁部ハケのちナデ、胴部ヘラケズリのちナデ、底部ユビナデ	外:明褐色7.5YR5/6 内:にぶい黄褐色10YR6/3	石・雲・砂・片・長・赤	焼成 良 内外面黒斑有り

第25表　出土遺物観察表　土器（5）

遺物番号	出土位置	器種	法量(cm) 口径	頸部径	胴部最大径	底径	器高	残存率(%)	成形・調整	色調	胎土	備考
97	3区 L-15	弥生土器 甕	(17.3)	(14.2)			(5.7)	20	外:口縁部ヨコナデ・ハケ6条/cmのちヨコナデ、胴上部ハケ6条/cmのちミガキ 内:口縁部ヨコナデ・ハケ6条/cm、胴上部ヘラケズリ	外:橙5YR6/6 内:明赤褐色2.5YR5/6	石・雲・砂・赤	焼成 良 内外面炭化物付着
98	3区 U-21	弥生土器 残				(5.2)	(4.8)	50	外:ハケ4～5条/cmのちナデ、底部ナデ 内:ヘラケズリ	外:明赤褐色2.5YR5/6 内:橙2.5YR6/6	石・雲・片・長・赤	焼成やや良 内外面黒斑あり
99	3区 W-23	弥生土器 残				(7.0)	(2.6)	15	外:ハケ9条/13mmのちナデ、底部ナデ 内:ヘラケズリのちナデ	外:にぶい赤褐色5YR4/4 内:暗褐色10YR3/3	石・雲・片・赤	焼成 良 底面黒斑あり
100	3区 W-23	弥生土器 甕				(8.2)	(4.7)	12	外:磨滅のため調整不明、底部ナデ 内:板ナデのちナデ	外:橙7.5YR6/6 内:明赤褐色5YR5/6	石・雲・片・赤	焼成 良
101	3区 S-20	弥生土器 甕				7.7	(4.2)	85	外:ハケ5条/cmのちヘラミガキ、底部ナデのちヘラミガキ 内:ヘラケズリ、底部ユビナデ	外:灰黄褐色10YR4/2 内:褐灰色10YR4/1	石・雲・片・長・赤	焼成 良
102	3区 W-22	弥生土器 鉢	(20.8)				(4.2)	10	外:口縁部ヨコナデ、体部磨滅のため調整不明 内:口縁部ヨコナデ、体部磨滅のため調整不明	外:明赤褐色5YR5/6 内:明赤褐色5YR5/8	石・片・赤	焼成もろい
103	3区 S-20	弥生土器 鉢				(5.5)	(3.4)	18	外:ハケ6条/cmのちナデ、底部ナデ 内:ケズリのちナデ	外:橙5YR6/8 内:にぶい橙7.5YR6/4	石・雲・片・赤	焼成 良 外面黒斑あり
104	3区 U-22	弥生土器 鉢	(9.9)			4.0	6.9	25	外:口縁部ヨコナデ、体部ハケ4条/cmほとんど磨滅、底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ、体部磨滅不明ナデ？	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・砂・片・赤	焼成 良 外面炭化物付着 下流域搬入品
105	3区 Z-23	弥生土器 鉢	11.8			5.0	7.5	70	外:口縁部ナデ、体部ユビオサエのちハケ8条/cm、底部ナデ 内:ハケ8条/cmのちユビオサエのちナデ	外:明赤褐色5YR5/8 内:明赤褐色5YR5/8	石・雲・片・長・赤	焼成 良
106	3区 V-26	弥生土器 高杯	(23.2)				(4.4)	8	外:ナデ 内:口縁部ヨコナデ、体部ハケ5～6条/cmのちナデ・ナデ	外:にぶい橙7.5YR6/4 内:にぶい橙7.5YR6/4	石・片・赤	焼成 良
107	3区 AA-23	弥生土器 高杯	(45.2)				(7.8)	8	外:口縁部ヨコナデ、体部ハケ？ 内:口縁部ヨコナデ、体部ナデ	外:橙7.5YR6/6 内:明赤褐色5YR5/6	石・雲・片・赤	焼成 良 外面黒斑有り
108	3区 W-22	弥生土器 高杯		4.4			(6.0)	70	外:上部ヘラミガキ、下部ヘラミガキのちナデ 内:板ナデのちナデ、杯部の底ヘラミガキ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・片・赤	焼成 良
109	3区 W-23	弥生土器 高杯		(4.8)			(6.1)	50	外:ハケ6条/cm、スカシ孔有り 内:ヘラケズリ 杯内:ナデ	外:橙5YR7/6 内:橙5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成 良 接合痕有り
110	3区 V-22	弥生土器 高杯				(12.0)	(5.7)	60	外:ミガキ、スカシ孔有り2ヶ所、底部ヨコナデ 内:ヘラケズリ、底部ヨコナデ	外:にぶい橙7.5YR6/4 内:橙5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成 良
112	4区 S-17	弥生土器 壺	(22.6)				(2.3)	23	外:口縁部凹線3条、円形浮文、頸部剥離のため調整不明 内:口縁部ヨコナデ、頸部ナデ	外:橙5YR6/8 内:橙5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成ややもろい 内面黒斑有り
113	4区 Q-15 R-15	弥生土器 甕				(6.2)	(4.9)	50	外:ハケ5条/cm 内:胴下部ユビナデ、底部ユビオサエ	外:橙7.5YR6/6 内:橙7.5YR6/6	石・片・赤	焼成 良
114	5区 O-19	弥生土器 壺				4.8	(3.2)	90	外:板ナデ、底部ヘラケズリのちナデ 内:板ナデのちナデ	外:にぶい褐色7.5YR5/4 内:にぶい褐色7.5YR5/4	石・片・長・赤	焼成 良 外面黒斑有り
115	5区 O-19	弥生土器 壺				(10.0)	(3.7)	50	外:剥離のため調整不明、底部ナデ 内:磨滅のため調整不明	外:橙5YR6/6 内:橙7.5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成ややあまい 外底面黒斑有り
116	5区 M-17	弥生土器 甕	(19.3)	(16.5)			(5.8)	25	外:口縁部ヨコナデ、胴上部ハケ6条/cm 内:口縁部ヨコナデ・磨滅不明、頸部ユビオサエ、胴上部ヘラケズリ	外:明赤褐色5YR5/8 内:明赤褐色5YR5/8	石・雲・砂・片・赤	焼成ややもろい 内外面炭化物付着
117	5区 N-16	弥生土器 甕				(6.5)	(5.4)	50	外:板ナデのちナデ・ユビオサエ、底部ナデ 内:ヘラケズリ	外:にぶい褐色7.5YR6/3 内:にぶい黄橙10YR6/3	石・雲・片・赤	焼成 良 外底面黒斑有り
118	5区 L-20	弥生土器 高杯	(28.6)				(6.8)	12	外:口縁部ヨコナデ、体部ナデ 内:口縁部ヨコナデのち凹線2条、体部ヨコナデ、ナデ	外:にぶい橙7.5YR6/4 内:にぶい橙7.5YR6/4	石・片・赤	焼成 良
120	6区 H-66	弥生土器 壺	(14.6)				(5.1)	98	外:口縁部櫛描斜格子文・ヨコナデ、頸部磨滅のため調整不明・ナデ？ 内:口縁部ヨコナデ、頸部ユビオサエのちナデ	外:赤橙10R6/8 内:橙7.5YR7/6	石・雲・片・長・赤	焼成ややもろい 口縁部内外面に黒斑有り

第26表　出土遺物観察表　土器（6）

遺物番号	出土位置	器種	法量（cm） 口径	頸部径	胴部最大径	底径	器高	残存率(%)	成形・調整	色調	胎土	備考
121	6区 I-67	弥生土器 壺				(5.5)	(4.8)	60	外:ナデ 内:ヘラケズリ	外:にぶい橙7.5YR7/4・ 内:にぶい橙7.5YR6/4	石・雲・片・赤	焼成やや良 外底面黒斑有り
122	6区 I 68	弥生土器 甕	(20.0)	(16.4)			(6.0)	15	外:口縁部ヨコナデ、胴上部ハケ8条/cm 内:口縁部ナデ、頸部ユビオサエ、胴上部ユビナデ	外:にぶい橙7.5YR6/4 内:にぶい橙7.5YR6/4	石・片・赤	焼成 良
123	6区 Q 72	弥生土器 甕	(24.2)	(21.9)			(8.5)	20	外:口縁部ヨコナデ、胴上部磨耗しているため不明 内:ヨコナデ、胴上部板ナデのちナデ	外:橙2.5YR6/8 内:橙5YR6/8	石・雲・片・赤	焼成ややもろい
124	6区 O-69	弥生土器 甕				(7.1)	(6.0)	25	外:ナデ 内:板ナデのちナデ・ユビオサエ	外:にぶい黄橙10YR6/3 内:にぶい橙7.5YR7/4	石・雲・片・赤	焼成やや良
125	6区 I-67	弥生土器 鉢				(4.8)	(6.1)	25	外:胴下部ナデ、底部ナデ・しわ痕有り、体部に2ヶ所ひび割れ有り 内:胴下部ヘラケズリのちナデ、底部ユビオサエ	外:橙5YR6/8 内:褐灰色10YR5/1	石・雲・片・赤	焼成 良
126	6区 E-67	弥生土器 高杯		4.2			(6.6)	90	外:板ナデのちナデ 内:杯部ユビオサエ・板ナデのちナデ、脚部板ナデのちナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・砂・片・赤	焼成やや良 内外面炭化物付着
127	6区 J-69	弥生土器 高杯		3.4		(7.6)	(4.9)	70	外:ハケ9条/cmのちナデ、底部ヨコナデ 内:ナデ・ユビオサエ、底部磨滅剥離、調整不明	外:にぶい褐色7.5YR5/4 内:にぶい褐色7.5YR5/4	石・雲・片・赤	焼成 内外面炭化物付着 遺しれ5ヶ所、全周するとすれば推定8ヶ所
132	32トレンチ	弥生土器 壺		(9.7)			(6.7)	20	外:頸部ナデ・沈線あり・タテ方向のハケ6条/cmのちヨコ方向のハケ3条/cm、胴上部ナデ 内:ヘラケズリ(工具痕有り)	外:橙5YR6/6 内:にぶい赤褐色5YR5/4	石・雲・片・赤	焼成 良
133	33トレンチ 3層	弥生土器 甕				3.9	(2.2)	80	外:胴下部ハケ6条/cmのちナデ・ナデ、底部ナデ 内:ヘラケズリ	外:橙5YR6/6 内:明赤褐色5YR5/6	石・雲・砂・赤	焼成 良
134	33トレンチ	弥生土器 高杯		4.2			(6.2)	80	外:ヘラミガキ、スカシ孔2ヶ所有り 内:杯部の底部ナデ、上部しわ痕、下部ヘラケズリ	外:橙5YR6/8 内:橙5YR6/8	石・雲・片・赤	焼成 良 遺しれ焼成前穿孔

第27表　出土遺物観察表　土器（7）

遺物番号	遺構番号	器種	法量(cm) 口径	頸部径	頸部最大径	底径	器高	残存率(%)	成形・調整	色調	胎土	備考
136	3区 SP1336	須恵器 椀				(9.5)	(2.3)	10	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ？貼付高台 内:回転ナデ、底部;回転ナデのちナデ	外:灰白色N7/ 内:灰白色N7/	石・緻密	焼成良好 高台高0.5cm
137	3区 SP1366	須恵器 甕					(14.0)		外:タタキ3条/cmのちハケ6条/cm 内:青海波文のち一部ナデ	外:灰色5Y6/1 内:灰色5Y7/1	石・片・赤	焼成 良
138	3区 SP1369	黒色土器 椀				(5.8)	(2.0)	20	外:ヨコナデのちヘラミガキ、底部;回転ヘラ切り 内:板ナデのちヘラミガキ	外:橙5YR6/6 内:暗灰色N3/	石・長	焼成 良 外面赤色塗彩 高台高0.6cm
139	3区 SP1298	須恵器 杯	(16.0)				(1.7)	40	外:回転ナデ 内:回転ナデ	外:黄灰色2.5Y6/1 内:灰白色N7/	石・雲・長・砂	焼成やや不良 外面炭化物付着 焼きが甘い
140	3区 SP1338	土師器 杯				(9.1)	(2.2)	25	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:灰オリーブ色5Y6/2 内:灰オリーブ色5Y6/2	石・長・赤	焼成やや不良
141	3区 SP1323	土師器 皿				(5.6)	(1.5)	15	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙5YR7/6 内:橙5YR7/6	石・雲・片・白色粒子	焼成やや不良 内外面マンガン付着
142	3区 SP1323	土師器 椀				(6.7)	(2.8)	25	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙5YR7/6 内:にぶい橙7.5YR7/4	石・雲・片・赤	焼成良好 外面赤色塗彩 高台高1.0cm
143	3区 SP1326	須恵器 杯				7.1	(0.6)	90	外:回転ナデ・ナデた部分も有り、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ、中央部に一方向のナデ	外:灰色N6/ 内:灰白色N7/	石・長・砂	焼成良好
144	3区 SP1349	土師器 杯	(14.5)				(3.0)	10	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	外:橙2.5YR6/6 内:赤褐色2.5YR4/6	石・雲・砂・片・赤	焼成やや良 内外面炭化物付着 内外面共赤色塗彩
145	3区 SP1349	土師器 甕	(27.6)				(3.0)	8	外:口縁部、頸部ヨコナデ 内:口縁部ヨコナデ、頸部ハケ4条/cmのちナデ	外:にぶい黄褐色10YR5/3 内:にぶい黄褐色10YR5/4	石・雲・長・片・赤	焼成 良
146	3区 SP1349	須恵器 杯				(7.1)	(0.9)	25	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切り 内:回転ナデ	外:灰白色7.5Y7/1 内:灰白色7.5Y7/1	雲・長・黒	焼成やや不良
147	3区 SP1165	須恵器 甕					(10.5)		外:タタキ 内:青海波文のちタタキ	外:灰色N6/ 内:灰色N6/	石・砂・片	焼成 良
148	3区 SP1210	土師器 杯				(7.2)	(3.5)	50	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ・工具痕有り 内:ヨコナデ	外:明赤褐色5YR5/8 内:明赤褐色5YR5/8	石・雲・片・赤・白色粒子	焼成やや不良
149	3区 SP1210	土師器 杯				(6.0)	(2.2)	25	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:浅黄色2.5Y7/3 内:灰黄色2.5Y6/2	石・雲・片・赤	焼成良好 外面炭化物付着
150	3区 SP1210	土師器 杯				(6.9)	(2.3)	20	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:明赤褐色5YR5/8 内:橙5YR6/8	石・雲・砂・片	焼成やや不良
151	3区 SP1210	土師器 皿	(13.1)			(9.3)	(1.4)	10	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:にぶい橙7.5YR7/4 内:にぶい橙7.5YR7/4	石・雲・赤	焼成 良
152	3区 SP1210	土師器 杯				(6.0)	(1.1)	20	外:ヨコナデ　貼付高台 内:ヨコナデ	外:浅黄橙7.5YR8/3 内:浅黄橙7.5YR8/3	石・雲・赤・白色粒子	焼成良好 内外面、高台内、畳付に赤彩 高台高0.5cm
153	3区 SP1210	土師器 椀				(8.7)	(2.1)	8	外:ナデ　貼付高台 内:ミガキのちナデ	外:にぶい橙5YR6/6 内:赤色10YR5/8	石・雲・片	焼成 良 内面赤色塗彩 高台高1.1cm
154	3区 SP1180	須恵器 杯				(7.6)	(1.3)	12	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:灰白色5Y7/1 灰白色2.5Y7/1	石・雲・長	焼成やや不良
155	3区 SP1190	土師器 杯	(19.2)				(3.9)	10	外:ヨコナデ 内:ナデ(ヘラミガキ？)	外:橙2.5YR6/8 内:橙2.5YR6/8	石・雲・片	焼成 良 内外面共に赤色塗彩
156	3区 SP1207	土師器 皿				(6.6)	(1.4)	20	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切り 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・片・長	焼成やや不良
157	3区 SP1201	土師器 杯	(11.8)				(2.8)	17	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	外:浅黄色2.5Y7/3 内:灰白色2.5Y8/2	石・雲・片・長・赤	焼成やや不良
158	3区 SP1201	土師器 杯	(11.3)				(3.0)	20	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	外:にぶい黄橙10YR7/4 内:浅黄橙10YR8/4	石・長	焼成やや不良

第28表　出土遺物観察表　土器（８）

遺物番号	遺構番号	器種	法量 (cm) 口径	頸部径	胴部最大径	底径	器高	残存率(%)	成形・調整	色調	胎土	備考
159	3区 SP1294	土師器 杯	(11.4)				(2.5)	20	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	外:浅黄橙7.5YR8/3 内:浅黄橙7.5YR8/3	石・片・赤・白色粒子	焼成やや不良
160	3× SP1275	黒色土器 椀				(8.8)	(3.7)	10	外:ヨコナデ　貼付高台 内:ヘラミガキ	外:にぶい橙5YR6/4 内:黒色7.5YR1.7/1	石・雲・長	硬成　良 高台高0.5cm
161	3区 SP1275	須恵器 壺					(2.5)	20	外:回転ナデ 内:回転ナデ	外:青灰色5PB5/1 内:灰白N7/	石・長・黒	焼成やや良
162	3区 SP1507	土師器 椀	(15.2)				(3.1)	20	外:磨耗しているため調整不明、ほぶナデ？ 内:磨耗しているため調整不明	外:橙5YR7/6 内:橙7YR7/6	石・雲・片・赤	焼成やややもろい
163	3区 SP1507	土師器 壺	(20.0)				(2.8)	15	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	外:にぶい橙7.5YR6/4 内:橙5YR6/6	石・片・長・赤	焼成　良 高台高0.3cm
164	3区 SP1507	須恵器 杯				(6.4)	(2.0)	20	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:灰白色5Y7/1 内:灰白色5Y7/1	石・雲	焼成やや良
165	3区 SP1507	須恵器 蓋				(11.0)	(1.8)	20	外:回転ナデ(貼付高台)、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデのちナデ	外:青灰色5PB6/1 内:明青灰色2.5PB7/1	石・黒	焼成　良 高台高0.3cm
166	3区 SP1508	須恵器 杯				(7.2)	(2.8)	15	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:灰白色5Y7/1 内:灰白色5Y7/1	石・長・砂	焼成やや良
167	3区 SP1182	黒色土器 杯				(7.7)	(0.9)	15	外:ほぶナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 貼付高台 内:ヘラミガキ	外:橙5YR6/6 内:黒褐色7.5YR3/1	石・雲・片	焼成やや不良 器台底有り 高台高0.5cm
168	3区 SP1182	黒色土器 杯				(6.4)	(1.6)	10	外:ヨコナデ・ナデ、底部;ヨ:ナデ・回転ヘラ切りのちナデ　貼付高台 内:ヘラミガキ	外:灰黄褐色10YR4/2 内:灰黄褐色10YR4/2	石・雲・長	焼成良好 高台高0.6cm
169	3区 SP1186	土師器 杯	(12.3)				(2.4)	20	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	外:にぶい黄橙10YR7/3 内:浅黄色2.5Y7/3	石・長・赤	焼成良好
170	3区 SP1186	土師器 皿	(14.0)			(11.0)	1.7		外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ、底部ほぶナデのちナデ	外:橙5YR7/6 内:橙5YR6/6	石・片・赤	焼成やややもろい
171	3区 SP1186	黒色土器 椀					(3.7)	10	外:ヨコナデのちミガキ 内:ナデのちナデ	外:橙2.5YR6/8 内:黒色10YR1.7/1	石・雲・片	焼成やや良
172	3区 SP1202	須恵器 壺					(6.2)		外:タタキ3条/cm(2方向) 内:ナデ	外:灰色N6/ 内:灰色N5/	石・片	焼成　良
173	3区 SP1290	土師器 杯	(12.7)			(7.2)	4.2	45	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切り 内:ヨコナデのちナデ	外:橙7.5YR7/6 内:橙7.5YR7/6	石・雲・長・赤・片色粒子	焼成不良 内、外、底面ふに赤色斑彩
174	3区 SP1242	黒色土器 椀				(8.3)	(3.0)	10	外:ほぶナデ、底部;ヨコナデ　貼付高台 内:ヘラミガキ、暗文部分多し	外:灰褐色7.5YR6/2 内:黒褐色10YR3/1	石・雲・砂・長	焼成やや良 外面赤色塗彩痕残存 高台高0.95cm
175	3区 SP1242	黒色土器 椀	(16.0)			(7.2)	4.4	70	外:ヨコナデのちヘラミガキ、底部;ヨコナデ 貼付高台 内:ほ縁部ほぶナデ、体部底ナデのちヘラミガキ	外:浅黄橙10YR8/3 内:黒色10YR2/1	石・雲・片・赤	焼成　良 外面黒斑2ヶ所有り 高台高0.7cm
176	3区 SP1270	須恵器 杯				(7.2)	(1.6)	25	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ、底面中央に一方向のナデ	外:灰黄色2.5Y7/2 内:灰黄色2.5Y7/2	石・雲・長	焼成やや不良
177	3区 SP1274	土師器 杯				(9.4)	(1.2)	20	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:浅黄橙7.5YR8/4 内:浅黄橙7.5YR8/4	石・雲・砂・片・赤・白色粒子	焼成不良
178	3区 SP1274	土師器 杯				(9.6)	(1.4)	20	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙7.5YR7/6 内:橙7.5YR7/6	石・雲・長・片・赤・白色粒子	焼成不良
179	3区 SP1274	土師器 椀				(8.5)	(5.3)	45	外:ヨコナデ　貼付高台 内:ナデのちヘラミガキ？摩滅著しい	外:にぶい橙5YR6/4 内:にぶい褐5YR5/4	石・雲・片・赤	焼成やや良 高台内以外の内外面ふ赤色塗彩 高台高1.0cm
180	3区 SP1274	土師器 皿	(14.1)				(2.0)	10	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	外:橙5YR7/6 内:橙5YR7/6	石・雲・砂・片	焼成やや良 内外面共に赤色塗彩痕残存
181	3区 SP1274	須恵器 杯	(12.1)			(7.9)	3.6	60	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:灰白色2.5Y8/1 内:灰白色2.5Y8/2	石・雲・長	焼成良好

第29表　出土遺物観察表　土器（9）

遺物番号	遺構番号	器種	法量 (cm) 口径	頸部径	胴部最大径	底径	器高	推存率(%)	成形・調整	色調	胎土	備考
184	3区 SP1120	上師器 皿	(9.0)			(6.6)	1.7	50	外:ヨコナデ、底部:回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:にぶい橙5YR7/3 内:にぶい褐色 7.5YR6/3	石・雲・片・赤	焼成良好 外底部に黒斑有り
185	6区 SP1863	土師器 壺	(32.2)	(28.9)			(3.9)	6	外:口縁部ヨコナデ、頸部ハケ10条/12mm 内:口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ後ナデ、頸部ナデ	外:橙5YR6/6 内:橙2.5YR6/8	石・雲・片・赤	焼成やや良
186	3区 SK1019	土師器 杯	(12.4)			(6.2)	3.3	40	外:ヨコナデ、底部:回転ヘラ切りのちナデ、ナデ1条 内:ヨコナデ	外:にぶい黄2.5Y6/4 内:にぶい黄2.5Y6/4	石・雲・片・白色粒子	焼成やや不良 底部内外面に黒斑有り
187	3区 SK1019	黒色土器 椀	(16.0)				(3.5)	20	外:ヨコナデ・黒色ミガキ 内:板ナデのちミガキ	外:明赤褐色2.5YR5/8 内:黒色2.5Y2/1	石・雲・片	焼成やや良
188	3区 SK1019	須恵器 杯				7.2	1.2	20	外:回転ナデ、底部:回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:灰色5Y6/1 内:灰色5Y6/1	石・砂・片・赤	焼成良好
189	3区 SK1020	土師器 椀				6.8	(3.0)	40	外:ヨコナデ、底部:回転ヘラ切りのち板ナデ 内:ナデ	外:浅黄橙10YR8/3 内:橙7.5YR6/6	石・雲・片・長	焼成やや劣 外面赤色塗彩 高台高0.9cm
190	6区 SK1039	土師器 鉢	(29.8)				(6.1)	8	外:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ、胴上部ハケ5条/cmのちナデ 内:口縁部ヨコナデ、頸部・胴上部板ナデ	外:褐色7.5YR4/3 内:褐色7.5YR4/3	石・片・長・赤	焼成もろい
191	6区 SK1049	土師器 壺			(24.4)		(8.8)	20	外:胴上部ハケ4条/cm 内:胴上部ハケ4条/cm	外:にぶい黄橙色 10YR5/3 内:にぶい黄橙色 10YR5/3	石・雲・片・赤	焼成 良 内外面風化有り
192	6区 SK1049	土師器 壺	(28.8)	(21.0)	(26.1)		(22.0)	12	外:口縁部はナデ、胴上部ハケ3条/cm、下部5~8条/cm 内:口縁部ヨコナデ・ハケ4条/cm、胴上部板ナデ、下部ユビオサエ・板ナデのちナデ	外:にぶい黄橙 10YR6/3 内:黒灰色10YR3/1	石・雲・砂・赤	焼成 良 内外面炭化物付着
193	6区 SK1049	黒色土器 椀				(7.9)	(3.7)	10	外:ヨコナデ 内:板ナデのちヘラミガキ	外:にぶい黄橙 10YR7/2 内:黒色10YR1.7/1	石・雲・砂	焼成 良 赤色塗彩? 高台高0.6cm
195	3区 SD1003	黒色土器 椀				(7.6)	(1.5)	30	外:ヨコナデ、底部:回転ヘラ切りのちナデ、貼付高台 内:板ナデのちヘラミガキ	外:にぶい橙7.5YR7/4 内:黒色10YR1.7/1	石・雲・赤	焼成 良 高台高0.7cm
196	3区 SD1003	弥生土器 壺				(5.4)	(2.2)	30	外:板ナデのちヨコナデ 内:板ナデ	外:褐灰色10YR4/1 内:褐灰色10YR4/1	石・赤	焼成 良
197	3区 SK1003	土師器 杯	(16.2)			(13.0)	2.4	15	外:ヨコナデ、底部:回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:浅黄色2.5Y7/3 内:浅黄色2.5Y7/3	石・雲・長	焼成良好
198	3区 SK1004	須恵器 杯				(9.6)	(1.4)	35	外:回転ナデ、底部:回転ナデ・回転ヘラ切りのちナデ 貼付高台 内:回転ナデのちナデ	外:灰色N6/ 内:灰色N6/	石・砂	焼成 良 高台高0.4cm
199	3区 SK1004	須恵器 壺				16.1	(10.5)	20	外:回転ナデのちナデ、底部:ナデ 内:回転ナデのちナデ、底部板ナデ	外:青灰色5PB5/1 内:青灰色5PB5/1	石・雲・砂・片	焼成 良 外面一部に自然釉
200	3区 SP1151	須恵器 壺					(5.9)	20	外:回転ナデ・自然釉 内:回転ナデ	外:灰色N4/ 内:灰色N6/	石・長・赤	焼成 良
201	3区 SP1160	土師器 杯	(14.0)			(7.2)	3.6	40	外:ヨコナデ、底部:回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:浅黄橙7.5YR8/6 内:浅黄橙7.5YR8/4	石・雲・片・赤	焼成やや不良
202	3区 SP1171	土師器 坏	(12.7)			(7.0)	(3.7)	30	外:ヨコナデ、底部:同転ヘラ切りのちナデ? 内:ヨコナデ?全体に摩滅している	外:橙5YR6/8 内:橙5YR6/8	石・雲・砂・片・赤・白色粒子	焼成不良
203	3区 SP1171	土師器 皿				(6.4)	(1.0)	35	外:ヨコナデ、底部:同転ヘラ切りのちヘラケズリ 内:ヨコナデ	外:橙7.5YR6/8 内:黄橙7.5YR7/8	雲・長・赤・白色粒子	焼成やや不良
204	3区 SP1171	須恵器 甕					(11.5)		外:タタキ 内:青海波文のちタタキのち一部ナデ	外:灰色5Y6/1 内:灰色5Y5/1	石・片	焼成 良 内面に自然釉
206	3区 SP1172	土師器 杯	(13.2)				(3.2)	40	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	外:にぶい黄橙 10YR7/4 内:にぶい黄橙 10YR7/4	石・赤	焼成不良
207	3区 SP1172	須恵器 壺	7.1	4.5	13.6	6.8	18.5	100	外:回転ナデ、回転ヘラケズリ、底部:回転ヘラ切りのちナデ、高台貼付 内:回転ナデ、頸部からは絞にかけて横撫状の工具痕有り	外:灰色5B5/1 内:紫灰色5P6/1	石・長	焼成 良 高台高0.5cm

第30表　出土遺物観察表　土器（10）

遺物番号	遺構番号	器種	法量(cm) 口径	頸部径	胴部最大径	底径	器高	残存率(%)	成形・調整	色調	胎土	備考
208	3区 SP1173	土師器杯	(12.5)				(2.9)	25	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	外:黄灰色2.5Y4/1 内:黄灰色2.5Y4/1	石・長・赤	焼成良好
209	3区 SP1173	須恵器壺		4.2	14.1	7.4	(13.8)	98	外:回転ナデのちナデ、径の1/3程度ユビオサエの部分有り、底部;回転ヘラ切りのちナデ、貼付高台 内:回転ナデ	外:灰色N6/ 内:灰色N6/	石・雲・砂・長	焼成　良 外面炭化物付着 自然釉 高台高0.8cm
210	3区 SP1192	須恵器杯				(6.8)	(1.3)	12	外:回転ナデのちナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:黄灰色2.5Y6/1 内:灰黄色2.5Y7/2	石・雲・砂	焼成やや不良 内外面炭化物付着
211	3区 SP1200	黒色土器椀					(3.0)	10	外:ヨコナデ 磨滅気味、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ミガキ	外:橙7.5YR6/6 内:暗灰色N3/	石・雲	焼成ややもろい
212	3区 SP1200	須恵器杯	(11.7)				(2.8)	10	外:回転ナデ 内:回転ナデ	外:明オリーブ灰色2.5GY7/1 内:灰色5Y6/1	石・長・黒	焼成　良
213	3区 SP1271	土師器杯	(14.9)			(9.6)	2.2	25	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ　端部分すい	外:浅黄橙7.5YR8/4 内:橙5YR7/6	石・雲・長・赤・白色粒子	焼成不良
214	3区 SP1271	土師器椀				(7.2)	(1.6)	20	外:ヨコナデ　貼付高台 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR7/6	石・雲・赤	焼成　良 内外面無赤色塗彩 高台高0.9cm
216	3区 SP1277	土師器椀				6.0	(2.1)	80	外:ヨコナデ・底部;回転ヘラ切りのちナデ　貼付高台 内:ヨコナデ	外:にぶい橙7.5YR7/3 内:にぶい橙5YR7/4	石・雲・赤	焼成やや良 高台内以外の内外面共赤色塗彩 高台高0.9cm
218	3区 SP1503	土師器椀				(8.3)	(2.6)	10	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	外:灰黄色2.5Y7/2 内:灰黄色2.5Y7/2	雲・長	焼成ややもろい 高台高1.0cm
219	6区 SP1745	土師器椀	(16.3)				(3.5)	25	外:ヨコナデ　貼付高台 内:ヨコナデ	外:橙7.5YR7/6 内:浅黄橙7.5YR8/4	雲・長・片・赤・白色粒子	焼成やや不良
220	6区 SP1754	瓦器椀				(6.1)	(4.0)	35	外:ヨコナデ、ヨコナデのちユビオサエ、底部回転ヘラ切りのちナデ　貼付高台 内:ヨコナデのちミガキ回線2条有り、ヨコナデのちハケ5条/cmのちミガキ	外:灰白色5Y7/1 内:灰白色5Y7/2	石・砂・白色粒子	焼成　良 高台高0.7cm

第31表　出土遺物観察表　土器（11）

遺物番号	出土位置	器種	法量(cm) 口径	頸部径	胴部最大径	底径	器高	残存率(%)	成形・調整	色調	胎土	備考
221	2区 AB-11	須恵器 碗	(16.5)				(5.2)	10	外:回転ナデ 内:回転ナデ	外:青灰色5PB5/1 内:灰色N6/	石・雲	焼成 良
222	3区 T-27	土師器 甕	(27.2)	(23.6)			(8.3)	25	外:口縁部ヨコナデ、胴上部ハケ5〜7条/cm 内:口縁端部ヨコナデ、口縁部ハケ5条/cm、胴上部ユビオサエのち粗ナデ	外:にぶい黄橙 10YR6/3 内:にぶい黄橙 10YR6/3	石・雲・砂・片・赤	焼成やや良 内面炭化物付着
223	3区 V-22	土師器 甕	(14.2)	(11.3)			(4.3)	20	外:口縁部・頸部ヨコナデ、胴上部ハケ6条/cm 内:口縁部・頸部ナデ、胴上部ヘラケズリ	外:褐色7.5YR4/6 内:明赤褐色5YR5/6	石・雲・砂・片・長・赤	焼成やや劣
224	3区 Q-22	土師器 杯	(13.8)			(8.0)	3.5	20	外:ヨコナデ、底部;回転ナデ 内:ヨコナデ	外:にぶい黄色 2.5Y6/4 内:にぶい黄色 2.5Y6/4	石・片・長・赤	焼成やや良
225	3区 S-27	土師器 杯	13.1			8.0	3.7	60	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切り 内:ヨコナデのちナデ	外:灰白色7.5YR8/2 内:灰白色10YR7/1	雲・長・赤・白色粒子	焼成やや劣 外面底部工具痕有り
226	3区 R-23	土師器 杯				(8.4)	(1.0)	50	外:ヨコナデ、回転ヘラ切り 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・片・長・赤	焼成やや良
227	3区 V-26	土師器 皿				(10.2)	(1.2)	25	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:浅黄橙7.5YR8/4 内:浅黄橙7.5YR8/4	石・片・赤・白	焼成良好
228	3区 S-28	土師器 杯				(6.9)	(2.4)	25	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ、底面に一方向のナデ有り 全体に摩滅している	外:にぶい橙7.5YR7/3 内:にぶい橙5YR7/4	石・雲・砂・片・赤・白色粒子	焼成やや不良 底部外面に黒斑有り 外体部かすかに赤彩の痕跡有り
229	3区 V-26	土師器 杯				(8.8)	(1.9)	20	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:にぶい黄橙 10YR7/4 内:にぶい黄橙 10YR7/4	石・赤・白	焼成良好
230	3区 S-27	土師器 杯				(7.2)	(2.4)	40	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:にぶい橙7.5YR6/4 内:橙5YR6/6	石・雲・長赤	焼成良好 底部外面に黒斑有り
231	3区 AA-22	土師器 杯				(7.3)	(1.2)	40	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ、底部に一方向のナデ有り	外:橙5YR7/6 内:橙5YR7/6	石・雲・赤・白	焼成やや不良
232	3区 U-27	土師器 椀				(6.4)	(3.6)	25	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切り 内:ヨコナデ？摩滅のため不明	外:浅黄橙7.5YR8/6 内:浅黄橙7.5YR8/6	石・片・赤・白色粒子	焼成もろい 高台高0.6cm
233	3区 R-28	土師器 椀				7.9	(3.2)	90	外:ヨコナデ、回転ヘラ切りのちナデ、貼付高台 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/8 内:橙5YR6/8	石・雲・片・赤・白色粒子	焼成やや良 接合痕有り 高台高1.75cm
234	3区 S-28	黒色土器 椀				(6.7)	(3.4)	25	外:ヨコナデ　貼付高台 内:ヘラミガキ	外:にぶい黄橙 10YR7/2 内:黒色10YR1.7/1	石・片・長	焼成 良 外面赤彩 高台高1.0cm
235	3区 V-26	土師器 椀				(7.4)	(3.7)	25	外:ヨコナデ、回転ヘラ切りのちナデ、貼付高台 内:ヨコナデ	外:浅黄橙7.5YR8/6 内:浅黄橙7.5YR8/6	石・片・赤・白色粒子	焼成ややもろい 高台高0.9cm
236	3区 U-26	土師器 杯	(13.6)			(7.2)	3.9	40	外:ヨコナデ、回転ヘラ切りのちナデ、貼付高台 内:ヨコナデ	外:にぶい橙7.5YR7/4 内:浅黄橙7.5YR8/4	石・雲・長・赤	焼成ややもろい 外底面以外に赤色塗彩 高台高0.9cm
237	3区 T-27	土師器 皿	(15.3)			(12.6)	1.5	12	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/8 内:橙5YR6/8	石・雲・片・赤	焼成不良
238	3区	土師器 皿	(14.2)			(10.8)	1.2	25	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙7.5YR7/6 内:橙7.5YR7/6	石・雲・片・赤・白色粒子	焼成ややもろい
239	3区 T-25	土師器 皿	(14.4)			(9.4)	1.6	50	外:ヨコナデ、回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデのちナデ	外:にぶい橙5YR7/4 内:にぶい橙5YR7/4	石・片・赤	焼成 良
240	3区 U-25	土師器 皿	(14.0)			(11.1)	1.3	50	外:ヨコナデ、回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙7.5YR7/6 内:橙7.5YR7/6	石・雲・長・赤	焼成 良
241	3区 S-27	土師器 皿	(13.7)			(11.3)	1.6	40	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:にぶい黄橙 10YR7/3 内:にぶい黄橙 10YR7/2	石・長・赤	焼成ややもろい 内外面に煤付着
242	3区 T-27	土師器 皿	(15.4)			(12.2)	1.7	20	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	灰白色2.5Y7/1 灰黄色2.5Y7/2	石・雲・長	焼成やや良
243	3区 T-27	黒色土器 椀				6.8	(1.2)	100	外:ヨコナデ、底部;木口刺突文有り？貼付高台 内:ヘラミガキ	外:にぶい褐色 7.5YR6/3 内:黒色7.5YR1.7/1	石・雲・長・赤	焼成 良 高台高0.8cm
244	3区 V-26	土師器 椀				(8.8)	(2.0)	25	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ、摩滅気味	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	雲・砂・長	焼成やや良 内面赤色塗彩 内外面炭化物付着 高台高1.0cm

第32表　出土遺物観察表　土器（12）

遺物番号	出土位置	器種	法量(cm) 口径	頸部径	胴部最大径	底径	器高	残存率(%)	成形・調整	色調	胎土	備考
245	3区 V-26	土師器 椀				(7.5)	(2.1)	15	外:ヨコナデ?高台部回転ナデ？　貼付高台？ 内:ヨコナデ？	外:浅黄橙10YR8/4 内:浅黄橙10YR8/4	石・片・長	焼成 劣 高台高0.9cm
246	3区 U-23	土師器 杯				(8.5)	(1.8)	40	外:ヨコナデ、回転ヘラ切りのちナデ、貼付高台 内:ヨコナデ	灰黄色2.5Y7/2 灰白色2.5Y7/1	石・長・赤	焼成 良 内外面赤色塗彩 高台高0.5cm ※須恵質のような土師質土器
247	3区 T-27	土師器 椀				(7.8)	(2.0)	30	外:ヨコナデ、回転ヘラ切りのちナデ、貼付高台 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/8 内:橙5YR6/8	石・雲・片・赤・白色粒子	焼成ややもろい 貼付から高台内以外は赤色塗彩 高台高1.0cm
248	3区 V-26	土師器 椀				(7.1)	(2.7)	25	外:摩滅不明・ヨコナデ？、回転ヘラ切りのちナデ、ヨコナデ？ 内:摩滅不明、ヨコナデ？	外:にぶい橙7.5YR7/4 内:浅黄橙7.5YR8/4	石・雲・砂・片・赤	焼成ややもろい 高台高1.0cm
249	3区 V-26	黒色土器 椀				(8.3)	(1.7)	20	外:ヨコナデ、回転ヘラ切りのちナデ、貼付高台 内:ミガキのちナデ	外:橙5YR6/6 内:黒色 5YR1.7/1	石・雲・赤	焼成ややもろい 高台高0.7cm
250	3区 R-28	土師器 椀				(9.5)	(2.8)	40	外:ヨコナデ、貼付高台 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR7/6	石・雲・片・赤・白色粒子	焼成 良 内外面赤色塗彩 高台高1.0cm
251	3区 S-27	須恵器 壺	8.7				(5.2)	18	外:回転ナデ、自然釉 内:回転ナデ、自然釉	外:褐灰色7.5YR6/1 内:灰褐色7.5YR6/2	石・砂	焼成 良 内外面に自然釉
252	3区 Q-22	須恵器 壺	(6.4)	(4.0)			(5.2)	70	外:回転ナデ、自然釉付着 内:回転ナデ	外:青灰色5PB5/1 内:灰白色7.5Y7/1	石・長・黒	焼成 良
253	3区 S-27	須恵器 壺	(11.7)	(8.0)			(9.8)	20	外:口縁部、頸部回転ナデのちナデ、胴上部回転ナデのちタタキ3条/cmのちナデ 内:口縁部、頸部回転ナデのちナデ、胴上部回転ナデ	外:灰色N6/ 内:灰色N6/	石・砂・長	焼成 良 内面に自然釉
254	3区 T-25	須恵器 壺		(9.0)			(4.9)	40	外:回転ナデ、自然釉 内:回転ナデ、頸部上部分自然釉	外:灰色N6/ 内:灰色N6/	石・雲・砂・片	焼成 良
255	3区 U-26 Y-27	須恵器 壺				(13.9)	(8.2)	30	外:回転ナデ・格子目タタキのちナデ、底部回転ナデ 内:回転ナデ	外:灰色N6/ 内:灰色N7/	石・砂・赤	焼成やや良 高台高0.5cm
256	3区 S-27 T-27	須恵器 壺				(10.4)	(5.0)	25	外:回転ナデ、貼付高台 内:回転ナデ	外:灰色N6/ 内:灰色N6/	石・片・赤	焼成 良 高台高0.6cm
257	3区 U-24	須恵器 壺				(13.8)	(4.3)	25	外:回転ナデ、回転ヘラ切りのち回転ナデ、貼付高台 内:回転ナデ、底部回転ナデのちナデ	外:灰色N5/ 内:灰色N5/	石・雲・片	焼成 良 胴部 粘土膨張している部分有り 高台高1.0cm
258	3区 T-22	須恵器 壺				(10.6)	(7.3)	10	外:回転ナデ、自然釉付着　貼付高台 内:回転ナデ	外:灰色N5/ 内:灰白色N7/	石・雲・赤	焼成 良 高台高0.5cm
259	3区 T-27	須恵器 杯蓋	(14.2)			天井部 (8.7)	(1.3)	25	外:回転ナデのちナデ、天井部回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデのちナデ	外:灰色N6/ 内:灰色N6/	雲・赤	焼成 良
260	3区 W-22	須恵器 杯蓋	(16.2)				(0.8)	10	外:回転ナデ 内:回転ナデ	外:灰色5Y6/1 内:灰色5Y6/1	石・片・赤	焼成 良
261	3区 T-27	須恵器 蓋	(18.2)			天井部 (10.2)	1.2	16	外:回転ナデ、天井部回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ、天井部回転ナデのちナデ	外:灰白色7.5Y7/1 内:灰白色N7/	長・黒	焼成 良 自然釉 ※内外面共重ね焼きの様な粘土塊が残る
262	3区 S-28	須恵器 杯				(11.6)	(2.0)	20	外:回転ナデ、回転ヘラ切り 内:回転ナデ	外:灰色N5/ 内:紫灰色5P5/1	石・片・赤・白色粒子	焼成やや良 高台高0.4cm
263	3区 V-26	須恵器 杯				(10.3)	(1.8)	15	外:回転ナデ、底部:回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:灰色N6/ 内:灰色N6/	長	焼成 良 高台高0.4cm
264	3区 V-23	須恵器 杯				(9.4)	(2.3)	35	外:回転ナデ、回転ヘラ切りのちナデ、貼付高台 内:回転ナデ	外:青灰色5PB6/1 内:灰白色N7/	石・雲・片	焼成 良 高台高0.6cm
265	3区 W-22	須恵器 椀				(8.5)	(1.6)	10	外:回転ナデ、回転ヘラ切りのちナデ、自然釉、貼付高台 内:回転ナデ、底部回転ナデのちナデ	外:灰白色5Y7/2 内:灰白色N7/	石	焼成 良 外面高台内に自然釉 高台高0.4cm
266	3区 T-27	須恵器 皿	(12.9)			(9.6)	1.8	25	外:回転ナデ、底部:回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ、底面に一方向のナデ有り	外:灰白色2.5Y7/1 内:灰黄色2.5Y7/2	石・赤	焼成不良 うまく焼けていない
267	3区 T-27	須恵器 皿	(13.7)			(9.5)	2.0	30	外:回転ナデ、底部:回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:灰色7.5Y6/1 内:褐灰色10YR6/1	石・長	焼成 良
268	3区 U-25	須恵器 椀	(17.4)				(6.2)	10	外:回転ナデ、一部回転ナデのちナデ？ 内:回転ナデ	外:灰白色N7/ 内:灰白色N7/	雲	焼成 良

第33表　出土遺物観察表　土器（13）

遺物番号	出土位置	器種	法量(cm) 口径	頸部径	胴部最大径	底径	器高	残存率(%)	成形・調整	色調	胎土	備考
269	3区 S-27	須恵器 杯	(12.4)			(7.6)	3.5	40	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:灰白色2.5Y7/1 内:灰白色2.5Y7/1	石・雲・長・砂	焼成やや不良
270	3区 T-27	須恵器 杯	(12.0)			(7.6)	3.0	15	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:灰白色10YR8/1 内:灰白色10YR8/1	石・長・片・赤	焼成良好
271	3区 T-25 S-28	須恵器 杯	11.6			6.2	3.3	80	外:回転ナデのちナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:灰色N6/ 内:灰色N6/	石・雲・赤	焼成やや不良 半分焼きが甘い
272	3区 S-27	須恵器 杯	(13.4)			(8.1)	3.6	40	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:浅黄橙7.5YR8/4 内:浅黄橙7.5YR8/2	石・雲・赤・白	焼成良好
273	3区 T-27	須恵器 杯	(12.2)			(7.9)	3.2	25	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:灰白色2.5Y7/1 内:にぶい黄橙10YR7/2	石・雲・赤	焼成良好
274	3区 S-27	須恵器 杯	(11.6)			(6.8)	3.7	40	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切り 内:回転ナデ、外面底部磨耗のため調整不明	外:浅黄色2.5Y7/4 内:灰白色2.5Y8/1	石・雲・長・片	焼成不良
275	3区 S-27	須恵器 杯	(12.8)			(6.8)	3.7	35	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:灰白色2.5Y7/1 内:灰白色2.5Y7/1	石・長・砂	焼成良好 外面底部に粘土塊付着
276	3区 S-27	須恵器 椀	(13.7)				(3.3)	25	外:回転ナデ 内:回転ナデ	外:灰白色2.5Y8/1 内:灰白色5Y8/1	石・長・片	焼成やや不良
277	3区 R-23	須恵器 椀				(7.2)	(5.2)	20	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:橙5YR6/6 内:にぶい褐色7.5YR5/4	石・雲・片	焼成 良
278	3区 V 26	須恵器 杯				(6.2)	(1.9)	20	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:灰色N6/ 内:灰色N6/	石・雲・砂・片	焼成良好
279	3区 S-27	須恵器 杯				(7.0)	(1.6)	40	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:灰白色5Y8/1 内:灰白色5Y8/1	石・雲・片・赤	焼成良好
280	3区 U 24	須恵器 杯				(7.4)	(1.2)	10	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:灰色5Y5/1 内:灰オリーブ色5Y6/2	石・片・赤	焼成 良
281	3区 T 25 T-27	須恵器 杯				6.6	(2.4)	70	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:灰白色5Y7/1 内:灰白色5Y7/1	石・片・赤 白色粒子	焼成良好
282	3区 U-26	須恵器 杯				(6.8)	(2.8)	20	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:灰黄色2.5Y7/2 内:灰黄色2.5Y7/2	石・雲・赤	焼成良好
283	3区 S 27	須恵器 杯				6.8	(2.3)	35	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ、底面に一方向のナデ有り	外:灰白色10YR7/1 内:黄灰色2.5Y5/1	石・砂・赤	焼成やや不良 内面残存範囲一面が黒っぽくなっている 黒色土器？
284	3区 U-27	須恵器 杯				7.5	(1.6)	85	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切り 内:回転ナデ	外:灰黄色2.5Y7/2 内:灰白色2.5Y7/1	石・長・ 白色粒子	焼成不良
285	3区 T-24	須恵器 杯				(6.2)	(1.9)	25	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ、底部に一方向のナデ有り	外:灰白色5Y7/1 内:灰白色5Y7/2	石・雲	焼成やや不良 内面炭化物付着
290	4区 耕作土	須恵器 杯	(13.4)			(8.6)	4.2	30	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデのち板ナデ 内:回転ナデ	外:灰白色N7/ 内:灰白色N7/	石・雲・長	焼成良好
291	4区 Q-16	須恵器 杯				(10.0)	(1.3)	45	外:回転ナデ、回転ヘラ切りのちナデ、貼付高台 内:回転ナデ	外:灰白色N7/ 内:灰白色N7/	石・砂	焼成 良 接合痕有り 高台高0.5cm ※内面重ね焼きの貼り付き有り
292	4区 Q-16	須恵器 皿	(13.1)			(10.8)	1.9	60	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ、中心部一方向のナデ有り	外:灰オリーブ色5Y6/2 内:灰色5Y6/1	石・長・黒	焼成 良
294	5区 L-22	須恵器 壺		(7.0)			(10.1)	25	外:回転ナデ、自然釉 内:回転ナデ、自然釉	外:灰色5Y5/1 内:灰色N5/	石・雲・砂	焼成 良 内外面に自然釉
295	5区 M-17	須恵器 杯				(8.1)	(1.4)	40	外:回転ナデ、回転ヘラ切りのちナデ、貼付高台 内:回転ナデ、中心部一方向のナデ有り	外:灰色5Y6/1 内:灰色N5/	石・黒	焼成 良 内Vに自然釉 高台高0.45cm
296	5区 O-19	須恵器 杯	(13.2)			(8.2)	4.0	25	外:回転ナデ、回転ヘラ切り、貼付高台、自然釉 内:回転ナデ、内底面にナデ一条	外:黄褐色2.5Y5/3 内:灰色5Y7/1	石・片・赤	焼成 良 自然釉 高台高0.4cm
297	6区 Q 72	土師器 甕	(30.4)	(25.8)			(5.6)	15	外:口縁部ヨコナデ、体部磨滅不明 内:口縁部ヨコナデ、磨滅不明(板ナデもしくはハケ？)体部ユビオサエのち板ナデ？磨滅している	外:橙7.5YR7/6 内:橙7.5YR7/6	石・砂・長・赤	焼成ややもろい

第34表　出土遺物観察表　土器（14）

遺物番号	出土位置	器種	法量(㎝) 口径	頸部径	胴部最大径	底径	器高	残存率(%)	成形・調整	色調	胎土	備考
298	6区 Q-72 Q-73	土師器 甕	(28.5)	(24.0)			(6.4)	23	外:口縁部ヨコナデ、体部ハケ7条/16㎜のちヨコナデ→ハケ7条/16㎜ 内:口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエのちナデ	外:にぶい赤褐色5YR5/4 内:明赤褐色2.5YR5/6	石・雲・片	焼成やや良 外面黒斑有り
299	6区 Q-72	土師器 甕	(15.0)	(12.8)			(4.9)	35	外:口縁部ヨコナデ、体部ハケ5条/㎝ 内:口縁部ヨコナデ、体部ナデ	外:にぶい橙5YR6/4 内:灰褐色5YR5/2	石・雲・長・赤	焼成 良
300	6区 Q-70	黒色土器 椀				8.0	(2.4)	75	外:ヨコナデ、回転ヘラ切りのちナデ、貼付高台 内:板ナデのちヘラミガキ	外:にぶい橙7.5YR7/4 内:黒色5Y2/1	石・片・赤・白色粒子	焼成ややもろい 外面赤彩 高台高0.5㎝
301	6区 N-70	土師器 椀				(7.0)	(2.4)	60	外:ヨコナデ、底部;ヨコナデ・回転ヘラ切りのちナデ 貼付高台 内:ヨコナデのち板ナデ　摩滅気味	外:にぶい橙7.5YR7/4 内:にぶい黄橙10YR7/4	石・片・赤・白色粒子	焼成やや不良 外面赤色塗彩あるが畳付から高台内はなし 高台高0.7㎝
302	6区 N-70	黒色土器 椀				(7.7)	(2.4)	20	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 貼付高台 内:ヘラミガキ	外:にぶい黄橙10YR7/2 内:黒色10YR2/1	石・雲・赤	焼成良好 外面に黒斑有り 高台高0.6㎝
303	6区 H-68	土師器 椀	(16.0)				(4.8)	12.5	外:口縁部ヨコナデのちミガキ、体部ミガキ 内:ハケ10条/㎝のちミガキ	外:黒色10YR2/1 内:黒色10YR2/1	石・雲・赤	焼成良好 黒色土器
304	6区 N-70	黒色土器 椀				(6.8)	(2.8)	20	外:ヨコナデ　貼付高台 内:ヘラミガキ	外:にぶい橙7.5YR7/4 内:黒色10YR2/1	石・雲・片・赤	焼成良好 接合痕有り 外面赤色塗彩 高台高0.6㎝
305	6区 Q-71 Q-72	須恵器 壺	(7.0)	(4.8)			(5.3)	50	外:回転ナデ、自然釉 内:口縁部回転ナデ、頸部ユビオサエのちヨコナデ、胴上部回転ナデ	外:灰色N6/ 内:灰色N6/	石・長・黒	焼成 良 外面に自然釉 平瓶か?
306	6区 Q-72	須恵器 壺			(13.6)		(8.5)	15	外:回転ナデ 内:回転ナデ	外:灰色10Y6/1 内:灰色N6/	雲・長	焼成 良 外面に自然釉
307	6区 Q-70	須恵器 壺			(14.6)	(8.1)	(13.9)	40	外:回転ナデ、回転ヘラ切りのちナデ、ヘラ記号有り、貼付高台 内:回転ナデ	外:灰白色N7/ 内:灰色N6/	石・長	焼成 良 外面に自然釉 高台高0.5㎝
308	6区 Q-73	須恵器 蓋	(13.6)			天井部 (7.2)	1.5	25	外:回転ナデのちナデ、天井部回転ヘラ切り、つまみ;回転ナデのちナデ 内:回転ナデ、天井部回転ナデのちナデ	外:灰色N6/ 内:灰白色N7/	長	焼成 良 宝珠つまみ 径2.1㎝高さ6.5㎜
309	6区 Q-72	須恵器 蓋	(15.2)			天井部 (11.0)	2.3	25	外:回転ナデ、天井部回転ヘラ切り、 つまみ;回転ナデのちナデ 内:回転ナデのちナデ	外:灰色7.5Y6/1 内:灰色7.5Y6/1	石・長	焼成 良
310	6区 Q-72	須恵器 杯蓋	(13.6)			天井部 (9.5)	(1.0)	15	外:回転ナデ、天井部回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:灰色7.5Y6/1 内:灰白色N7/	雲・砂	焼成 良 外面に自然釉
311	6区 Q-72	須恵器 杯蓋	(14.2)			天井部 (9.0)	(1.0)	15	外:回転ナデ、天井部回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:灰オリーブ色7.5Y6/2 内:灰白色2.5Y7/1	片・長	焼成 良 外面に自然釉
312	6区 L-69	須恵器 椀				(6.4)	(2.3)	50	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切り 自然釉 内:回転ナデ	外:灰オリーブ色5Y6/2 内:灰色5Y6/1	長・黒	焼成 良 外面、高台内に自然釉 高台高0.2㎝
313	6区 O-69	須恵器 椀				(6.5)	(2.9)	40	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 貼付高台 内:回転ナデ	外:灰白色2.5Y8/1 内:灰白色2.5Y8/1	石・赤・白	焼成不良 全体的に成形、整形、焼成がわるく、表面の凹凸が目立ち、白色化し、もろい 高台高0.8㎝
314	6区 Q-72	須恵器 杯				(9.2)	(2.8)	20	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 貼付高台 内:回転ナデ	外:灰色N4/ 内:灰色N6/	石・雲・砂・片	焼成 良 接合痕有り 高台高0.3㎝
315	6区 Q-72	須恵器 杯				8.7	(1.6)	90	外:回転ナデ、底部ヨコナデ・回転ヘラ切りのちナデ・つめ跡　貼付高台 内:回転ナデのちナデ(中央部ヘラ状のもので一周円をえがいてとめてある)	外:灰白色2.5Y7/1 内:灰白色N7/	石・雲・砂	焼成やや良 高台内つめ跡有り 高台高0.5㎝
316	6区 E-67	須恵器 杯				(10.2)	(3.2)	20	外:回転ナデ、回転ヘラ切りのちナデ、貼付高台 内:回転ナデのちナデ	外:灰白色N5/ 内:灰黄色2.5Y6/2	石・雲・砂・片	焼成 良 接合痕有り 高台高0.7㎝
317	6区 Q-71	須恵器 杯	(15.2)			(11.6)	3.5	60	外:回転ナデ、回転ヘラケズリのちナデ、 貼付高台 内:回転ナデ	外:灰白色5Y7/1 内:灰色N7/	石・長・黒	焼成 良 高台高0.5㎝
318	6区 Q-71	須恵器 杯	(17.5)			(13.3)	(4.5)	23	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ、貼付高台 内:回転ナデ	外:灰黄色2.5Y7/2 内:灰黄色2.5Y7/2	石・雲・片	焼成 良 接合痕有り 高台高0.75㎝

第35表　出土遺物観察表　土器（15）

遺物番号	出土位置	器種	法量(cm) 口径	頸部径	胴部最大径	底径	器高	残存率(%)	成形・調整	色調	胎土	備考
319	6区 Q-72 Q-73	須恵器 杯				10.2	(4.2)	30	外:回転ナデ、底部:ヨコナデ・回転ヘラ切りのちナデ・つみ痕 内:回転ナデ、底部回転ナデのちナデ	外:灰色5Y6/1 内:灰白色5Y7/1	粗・片・炭・赤	焼成やや良 内面大小多数の黒土の斑点有り 高台内つめ痕有り 高台高0.7cm
320	8区 Q-72	須恵器 杯	(13.7)			(9.3)	3.2	40	外:回転ナデ、底部:回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:灰白色10YR8/1 内:灰白色10YR8/1	石・雲・赤	焼成不良
321	6区 Q 72	須恵器 杯	(12.8)			(8.5)	3.8	30	外:回転ナデ、底部:回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ、底面に2方向のナデ有り	外:灰白色2.5Y7/1 内:灰白色2.5Y8/1	石・雲・砂・赤・白色粒子	焼成不良
322	6区 Q-72	須恵器 杯	(16.0)				(3.8)	20	外:回転ナデ 内:回転ナデ	外:灰色7.5Y6/1 内:灰白色7.5Y7/1	石・片・赤	焼成　良 内面の黒土小さく脱落
323	6区 Q-72	須恵器 鉢				8.6	(5.3)	70	外:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り　貼付高台 内:回転ナデ	外:灰色7.5Y6/1 内:灰色7.5Y6/1	片・炭・赤	焼成　良 外面底部以外に自然釉 高台高0.5cm
324	6区 I.-69 西村系	須恵器 鉢	(18.4)			(8.5)	5.0	25	外:口縁部・体上部:回転ナデのちナデのちミガキ、体下部:回転ナデのちヨコナデ、底部:ヨコナデ・回転ヘラ切りのちナデ　貼付高台 内:口縁部・体上部:底転ナデのちミガキ、体下部・底部:内転ナデのち板ナデのちミガキ	外:灰白色5Y7/1 内:灰白色5Y7/1	石・雲・砂	焼成やや不良 接合痕有り 高台高0.8cm
325	6区 I.-69 西村系	須恵器 鉢				(6.6)	(5.2)	18	外:回転ナデ・一部ユビオサエ、底部:回転ヘラ切りのちナデ　貼付高台 内:回転ナデ、ヘラミガキ	外:灰白色2.5Y7/1 内:黄灰色2.5Y6/1	石・雲・片	焼成良好 接合痕有り 高台高0.8cm
326	6区 L 69	須恵器 鉢				6.0	(3.6)	60	外:ユビオサエのちナデ、底下部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切りのちナデ　貼付高台 内:磨滅不明	外:黄橙10YR8/6 内:浅黄橙10YR8/4	石・片・赤　白	焼成やや不良 接合痕有り 張りコロコロ状は瓦器焼の粘土? 高台高0.9cm

第36表　出土遺物観察表　土器・陶磁器（１）

遺物番号	遺構番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径 高台径	高台高	頸部径	残存率(%)	成形・調整	色調	胎土	備考
327	6区 SP1763	土師器 皿	(9.0)	1.1	(7.4)			15	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・赤	焼成やや不良
328	6区 SP1763	土師器 皿	(8.6)	1.3	(6.7)			10	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切り?摩滅のため不明 内:ヨコナデ	外:明黄褐色10YR7/6 内:にぶい黄褐色10YR6/4	石・長・赤	焼成良好
329	6区 SP1807	土師器 杯		(1.5)	5.0			75	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切り 内:ヨコナデ、底部;ヨコナデのちナデ(一方向に1回)	外:橙5YR7/8 内:橙5YR7/8	雲・長・赤・白色粒子	焼成不良
330	6区 SP1807	黒色土器 椀		(2.7)				25	外:ヘラミガキ、ナデ、高台接合面回転ナデ 内:ヘラミガキ	外:にぶい黄橙10YR7/2 内:黒色10YR2/1	石・雲・片・赤	焼成良好
331	6区 SP1807	土師器 皿	(8.7)	1.8	(6.4)			25	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切り 内:ヨコナデ、底面に一方向のナデ	外:にぶい黄橙10YR7/4 内:にぶい黄橙10YR7/4	石・雲・砂・赤・白色粒子	焼成やや不良
332	6区 SP1807	土師器 小皿	(8.5)	1.5	(6.0)			13	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切り 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	雲・砂・赤・白色粒子	焼成良好
333	6区 SP1807	土師器 小皿	(6.7)	1.1	(4.8)			15	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:にぶい橙7.5YR7/4 内:にぶい橙7.5YR7/4	石・雲・砂・赤	焼成やや不良
334	6区 SP1807	土師器 皿	(7.7)	1.2	(5.9)			40	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切り 内:ヨコナデ	外:にぶい橙7.5YR7/4 内:にぶい橙7.5YR7/4	石・雲・赤・白色粒子	焼成やや不良 外面底部粘土塊付着
335	6区 SP1807	土師器 皿	(7.9)	1.3	(6.4)			25	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切り 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/8 内:橙5YR6/8	雲・長・赤	焼成良好
336	6区 SP1807	土師器 皿	8.8	1.7	6.4			85	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのち板ナデ・ナデ 内:ヨコナデ、底面に一方向のナデ	外:にぶい黄橙10YR6/3 内:灰黄褐色10YR6/2	石・雲・砂・長・赤	焼成やや不良 内外面、底面に重ね焼きによる黒斑有り
337	6区 SP1807	土師器 皿	9.8	2.2	6.5			70	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ・工具痕有り 内:ヨコナデ	外:にぶい黄橙10YR7/4 内:にぶい黄橙10YR7/4	石・雲・片・赤・白色粒子	焼成良好　内外面黒斑有り(外面の1/2に黒斑)
338	6区 SP1807	瓦器 椀	(14.0)	(3.1)				12.5	外:ヨコナデ 内:ヘラミガキ	外:暗灰黄色2.5Y5/2 内:浅黄色2.5Y7/3	石・片・赤	焼成良好
339	6区 SP1807	陶器(碗) 瀬戸焼	(15.2)	(2.5)				20	外:ロクロ 内:ロクロ	釉:にぶい黄8Y7.5/3S 胎:浅黄色2.5Y7/3	石	焼成良好
340	1区 SK1005	土師器 皿		(1.2)	(6.6)			20	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/8 内:橙5YR6/8	石・雲・片・赤	焼成やや不良
341	5区 SK1034	土師器 杯	11.8	2.7	7.0			60	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ・ハケ6本/cm 内:ヨコナデ	外:明褐色7.5YR5/6 内:明褐色7.5YR5/6	雲・長・赤	焼成やや不良
342	5区 SK1034	土師器 杯	(12.8)	3.4	(9.0)			50	外:ナデ 内:上位ヨコナデ、下位底部ナデ	外:明赤褐色5YR5/6 内:明赤褐色5YR5/6	石・雲・片・赤	焼成　良 外面黒斑有り
343	5区 SK2002	土師器 皿		(1.8)	(8.0)			20	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:にぶい褐色7.5YR5/3 内:橙5YR6/6	石・雲・赤	焼成やや不良 外面炭化物付着
344	6区 SK1036	土師器 釜	(34.0)	(8.7)	鍔部径 (37.0)			12	外:口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエのちユビナデ 内:口縁部ヨコナデ、体部板ナデのちユビオサエ	外:橙2.5YR6/8 内:橙2.5YR6/8	石・雲・片	焼成やや不良 体部内面2次的な煤付着 接合痕有り 鍔径36.6cm
345	6区 SK1038	土師器 鍋		(6.5)				15	外:板ナデのちユビオサエ 内:板ナデのちユビオサエ	外:橙5YR6/8 内:橙7.5YR7/6	石・片・赤・白色粒子	焼成良好 内面下半に2次的な煤付着 接合痕有り
346	6区 SK1038	土師器 脚						100	外:ユビオサエ、ユビナデ 内:ユビオサエ、ハケ? 残存長9.5cm　幅2.8cm	外:にぶい黄橙10YR6/4 内:橙5YR6/6	石・砂・長・赤	焼成良好 内面黒斑有り 外面炭化物付着
347	6区 SK1051	土師器 杯		(2.3)	7.5			13	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切り 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成良好
348	6区 SK1055	土師器 杯		(2.0)	(6.9)			25	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:にぶい褐色7.5YR5/4	石・雲	焼成良好 内面炭化物付着
349	6区 SK1055	土師器 皿	(8.2)	1.2	(5.2)			20	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切り 内:ヨコナデ	外:明赤褐色5YR5/8 内:明赤褐色5YR5/8	雲・片・長・赤	焼成やや不良
350	6区 SK1055	土師器 杯		(0.9)	(5.3)			30	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切り 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・片	焼成良好

第37表　出土遺物観察表　土器・陶磁器（2）

遺物番号	遺構番号	器種	法量 (cm) 口径	器高	底径 高台径	高台高	頸部径	残存率 (%)	成形・調整	色調	胎土	備考
351	6区 SX1060	土師器 埦	(28.8)	(3.2)			(23.8)	10	外:口縁部～胴部ロクロナデ 内:口縁部ヨコナデ・板ナデ、胴部横ナデ	外:にぶい赤褐色 5YR5/4 内:にぶい橙色 7.5YR6/3	石・雲・砂・片・赤	焼成 良
352	3区 SD1004	須恵器 杯		(1.6)	(6.8)			20	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切り(完全には静止糸切り?) 内:回転ナデ	外:灰黄色2.5Y7/2 内:灰黄色2.5Y7/2	心・片・白色粒子	焼成やや不良
353	1区 SP1015	陶器 皿	(9.4)	1.8	(6.2)			40	外:内:施釉 内底面に粒の厚い部分と薄い部分有り 高台内に糸切痕分有り	釉:くすい黄 5Y6.5/5S 地:にぶい黄色 2.5Y6/3	砂・微雲	焼成良好
354	2区 SP1095	土師器 皿	(7.4)	(1.3)	(4.6)			25	外:ロクロナデ、底部;回転ヘラ切り 内:ロクロナデ	外:にぶい橙 7.5YR6/4 内:橙7.5YR6/6	雲・長・赤	焼成やや不良
355	4区 SP1532	土師器 羽釜	(25.0)	(6.2)	胴径林 (28.7)			12	外:口縁部ユビオサエのちヨコナデ、体部ユビオサエ 内:口縁部ヨコナデ、板ナデ	外:橙5YR6/6 内:褐5YR6/6	心・雲・長・砂	焼成やや不良 外面煤付着 底部以下に炭焼成の痕跡有 最大径28.7cm
356	4区 SP1552	土師器 杯	(12.0)	3.0	(6.7)			50	外:ロクロナデ 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成やや不良
357	4区 SP1582	土師器 羽釜 脚						100	外面ユビナデ 脚径長10.9cm 厚2.6cm	外:褐7.5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成やや不良 外面煤付着 外面に黒斑有り
357	4区 SP1552	土師器 羽釜	(22.8)	(11.3)	胴部径 (26.6)			40	外:口縁部ヨコナデ→板状工具で押さえたのちナデ ついている。体部縦ナデのちナデ 内:口縁部ロクロナデ、体部ユビオサエのちユビナデ	外:赤褐2.5YR5/8 内:にぶい橙 7.5YR6/4	心・雲・片・赤	焼成やや不良 外外面煤付着 内外面黒斑有り 胴径26.3cm
358	5区 SP3009	土師器 杯		(1.2)	7.2			50	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ロクロナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・長・赤	焼成不良
359	6区 SP1600	土師器 杯	(12.7)	4.2	8.0			65	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/8	雲・片・長・赤	焼成やや良
360	6区 SP1600	土師器 杯	11.9	3.5	7.4			50	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ロクロナデ	外:橙5YR6/6 内:にぶい橙5YR6/4	石・雲・片・赤	焼成良好 外面に黒斑有り
361	6区 SP1600	土師器 杯	(11.6)	3.5	(8.7)			50	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ロクロナデ	外:にぶい黄橙 10YR6/4 内:にぶい橙 7.5YR6/4	雲・砂・片	焼成やや不良 内外面炭化物付着
362	6区 SP1600	須恵器 杯		(2.4)	(9.4)			22	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのち板ナデ 内:回転ナデ	外:灰色N6/ 内:灰色N6/	石・雲・砂・片	焼成良好
363	6区 SP1603	土師器 杯	(12.0)	2.7	8.1			75	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのち板ナデ・ナデ 内:ヨコナデ、底面一方向のナデ	外:橙5YR7/6 内:橙5YR7/6	石・雲・砂・片・赤	焼成やや不良 内外面炭化物付着
364	6区 SP1626	須恵器 鉢		(2.3)	(5.0)	0.7		25	外:回転ナデ 貼付高台 内:回転ナデ	外:黄灰色2.5Y6/1 内:灰色5Y6/1	石・雲・片・赤	焼成良好 強く水挽き
365	6区 SP1614	土師器 鉢	(26.2)	(6.3)	胴部径 (28.6)			15	外:口縁部ユビオサエ、体部板ナデのちユビオサエ 内:口縁部ユビオサエ、体部板ナデのちユビオサエ	外:橙7.5YR7/6 内:橙7.5YR7/6	心・片・赤・白色粒子	焼成不良 外面煤付着 胴径28.3cm
366	6区 SP1980	土師器 杯	(11.8)	3.2	(6.4)			25	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ロクロナデ	外:橙7.5YR6/6 内:橙7.5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成良好
367	6区 SP1980	土師器 小皿	(7.1)	1.1	(3.4)			20	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちていねいなナデ 内:ロクロナデ	外:橙7.5YR6/6 内:橙7.5YR6/6	白・雲・砂・赤	焼成良好 内外面煤有り 内外面炭化物付着
368	6区 SP1980	土師器 皿		(1.9)	(6.6)			30	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:にぶい黄橙 10YR6/4 内:にぶい黄橙 10YR6/4	雲・長	焼成やや不良
369	6区 SP11001	土師器 杯		(2.1)	(8.6)			40	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのち粗目暗文 内:ヨコナデ	外:にぶい橙 7.5YR7/4 内:にぶい橙 7.5YR7/4	心・雲・片・赤	焼成やや不良
370	6区 SP11030	土師器 小皿	(9.1)	1.7	(6.1)			20	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ロクロナデ	外:橙7.5YR6/6 内:橙7.5YR7/6	石・雲・砂・片・赤	焼成不良
371	6区 SP11059	土師器 杯		(0.8)	(7.4)			18	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:橙2.5YR6/6	石・雲・砂・赤	焼成不良

第38表　出土遺物観察表　土器・陶磁器（3）

遺物番号	出土位置	器種	口径	器高	底径 高台径	高台高	頸部径	残存率(%)	成形・調整	色調	胎土	備考
372	1区	土師器 杯		(1.5)	(7.2)			25	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ、底部;ヨコナデのち一方向へのナデ1条有り	外:赤褐色5YR4/6 内:赤褐色5YR4/6	雲・長・赤	焼成良好
373	1区 AB-7	土師器 杯	(13.0)	3.2	(9.4)			25	外:ナデ 内:口縁部ヨコナデ、ナデ	外:橙2.5YR6/6 内:赤橙10R6/8	石・雲	焼成ややもろい
374	1区 AB-8	土師器 杯	(12.3)	3.0	(8.2)			25	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちヘラケズリのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成良好
375	1区 X-8	土師器 杯		(2.8)	(7.0)			25	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのち一定方向の工具痕有り 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/8 内:橙7.5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成良好
376	1区	土師器 杯	(11.2)	2.9	(7.0)			25	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのち丁寧なナデ 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成良好
377	1区 AB-8	土師器 杯	(12.4)	3.3	(8.4)			20	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙7.5YR6/6 内:橙7.5YR6/6	石・雲・砂・赤	焼成良好 内外面炭化物付着
378	1区 AB-7	土師器 杯	13.1	2.8	8.7			100	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ・工具痕有り 内:ヨコナデ、底面に2方向のナデ有り	外:にぶい赤褐色5YR5/4 内:橙5YR6/6	石・雲・砂	焼成良好 内外面炭化物付着
379	1区	土師器 杯	(11.9)	2.8	7.3			30	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのち丁寧なナデ 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成良好 内外面炭化物付着
380	1区	土師器 杯	(11.9)	2.8	(8.0)			25	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちヘラケズリのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成良好
381	1区 Z-7	土師器 杯	12.7	3.2	7.0			100	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちヘラケズリ・ナデ 内:ヨコナデ、底面に一定方向のナデ有り	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成良好
382	1区 AB-8	土師器 皿	6.9	1.2	4.1			80	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ 内外底面に一方向のナデ	外:橙5YR6/6 内:にぶい褐色7.5YR5/4	石・雲・片・赤	焼成良好
383	1区 AB-8	土師器 皿	7.5	1.4	5.7			70	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成良好
384	1区 X-8	土師器 釜	(22.2)	(11.6)	鍔部径 (25.3)			25	外:口縁部ユビオサエのちヨコナデ、体部ユビオサエのちナデ 内:板ナデ	外:にぶい黄橙10YR7/4 内:にぶい黄橙10YR6/4	石・雲・片	焼成やや不良 内外面煤付着 接合痕有り 鍔径25.2㎝
385	1区 X-8	土師器 羽釜	(22.7)	(9.8)	鍔部径 (26.4)			13	外:口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエ・ユビナデ 内:口縁部ヨコナデ、体部ハケ5条/㎝のちナデ・ユビオサエ	外:黒褐色5YR2/1 内:にぶい赤褐色2.5YR5/4	石・雲・砂・片・赤	焼成良好 内面黒斑有り 外面煤付着 接合痕有り 鍔径26.2㎝
386	1区 AB-8	土師器 脚部						100	内:板ナデのちユビオサエ 脚部:ユビオサエ、ユビナデ 残存長11.8㎝　幅3.1㎝	外:にぶい黄橙10YR7/4	石・長・片・赤	焼成やや不良 全体的に磨滅している
387	1区 Y-7	土師器 脚部						100	内:板ナデのちナデ？ 脚部:ユビオサエ、ユビナデ 残存長11.1㎝　幅4.5㎝	外:浅黄色2.5Y8/4	石・片・赤	焼成やや不良
388	1区 X-8	土師器 脚部						100	内:ナデのちユビオサエ 脚部:ユビオサエ、ユビナデ 残存長12.6㎝　幅2.9㎝	外:橙7.5YR6/6	石・長・片・赤	焼成やや不良
389	1区 X-8	土師器 脚部						100	脚部:ユビナデ 残存長16㎝　幅3.15㎝	外:にぶい黄褐色10YR5/4	石・雲・片	焼成やや不良
390	1区 AB-9	土師器 釜	(13.9)	(5.5)			(14.5)	25	外:口縁部ヨコナデ、体部板ナデ 内:口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエのちナデ	外:にぶい橙7.5YR7/4 内:にぶい橙7.5YR7/4	石・雲・片・赤	焼成良好 接合痕有り 焼成前に外→内方向に穿孔(何ヶ所あるかは不明)
391	1区 Y-7	土師器 釜	(21.9)	(22.6)			(22.6)	20	外:口縁部ヨコナデ、体部ナデ、表面に輪積みの凹凸が残る 内:口縁部ヨコナデ、体部板ナデ	外:にぶい橙2.5YR6/4 内:にぶい橙2.5YR6/3	石・雲・片・赤	焼成良好 外面煤付着
391	1区 Y-7	土師器 釜		(5.4)	(19.6)			70	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい褐色7.5YR5/4 内:にぶい橙5YR6/4	石・雲・片・赤	焼成良好 内外面煤付着
392	1区 X-9	土師器 鍋	(38.6)	(7.2)			(33.6)	10	外:口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエ・ユビオサエのち板ナデ 内:口縁部ヨコナデ、体部板ナデ	外:にぶい黄褐色10YR5/3 内:橙7.5YR7/6	石・雲・長・砂・片・赤	焼成良好 外面煤付着 接合痕有り
393	1区 X-7	土師器 鍋	(37.6)	(9.6)			(32.3)	20	外:口縁部ヨコナデ、体部ナデのちユビオサエ 内:口縁部ヨコナデ、体部板ナデ	外:にぶい黄褐色10YR5/3 内:明黄褐色10YR6/6	石・雲・長・片	焼成良好 外面煤付着

第39表　出土遺物観察表　土器・陶磁器（4）

遺物番号	出土位置	器種	法量(cm) 口径	器高	底径 高台径	高台高	頸部径	残存率(%)	成形・調整	色調	胎土	備考
394	1区 X-7・X-8・Y-9	土師器 鍋	(45.2)	(13.0)			(39.8)	30	外:口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエのち板ナデ 内:口縁部板ナデ、体部ユビオサエのち板ナデ	外:にぶい黄褐色10YR5/3 内:にぶい黄橙10YR7/4	石・雲・長・砂・赤	焼成良好 外面煤付着
395	1区 Y-8	陶器 循鉢? 大甕		(7.8)	(46.6)			10	外:ハケ5～6条/cm、体下部ヨコナデ 内:板ナデ	外:赤褐色10R5/3 内:暗赤灰色5R4/1	石・雲・長・片	焼成良好
396	1区 AA-7	陶器 椀		(3.1)	(8.0)	1.5		10	外:ロクロ、施釉 内:ロクロ、施釉　ロクロにしては不明な凹凸があ る。文様が施されている可能性有り	釉:にぶい黄8Y7.5/3S 胎:オリーブ黄色5Y6/3	石・雲・長・片	焼成良好
398	2区 AB-13	土師器 小皿	8.1	1.1	5.7			100	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ、底面に一方向のナデ有り	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・赤	焼成良好 内外面炭化物付着
399	2区 AB-12	土師器 皿	(8.4)	1.3	(6.0)			23	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切り 内:ヨコナデ	外:にぶい橙7.5YR6/4 内:にぶい橙7.5YR6/4	雲・長・赤	焼成やや不良
400	2区 Y-19	土師器 杯		(1.9)	(5.8)			40	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ・板ナデ? 内:ヨコナデ	外:橙7.5YR7/6 内:橙7.5YR7/6	石・雲・片・赤	焼成良好
401	2区 Y-16	土師器 杯	(13.0)	3.4	(9.0)			30	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:にぶい黄橙10YR7/4 内:にぶい黄橙10YR7/3	石・雲・片・赤	焼成やや不良 外面炭化物付着
402	2区 AA-14	土師器 杯	(12.6)	3.1	(7.2)			25	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ(底部回転糸切りの可能性有り) 内:ヨコナデ	外:にぶい黄橙10YR7/4 内:にぶい黄橙10YR7/4	石・雲・片・赤	焼成良好
403	2区 AA-12	土師器 杯	(11.3)	3.1	(5.8)			20	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙7.5YR6/6 内:橙7.5YR6/6	石・雲・赤	焼成良好
404	2区 AA-12	土師器 鍋	(21.7)	(9.8)			(19.5)	23	外:口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエ 内:口縁部板ナデのちヨコナデ、体部板ナデ	外:にぶい褐色7.5YR5/4 内:橙5YR7/6	石・雲・片	焼成やや不良 外面全体に煤付着
405	2区 Y・Z-14・15	土師器 脚部						100	脚部:ユビオサエ、ユビナデ 最大長14.8cm　最大幅3.5cm	外:にぶい褐色7.5YR5/4	石・雲・長・片・赤	焼成良好 外面煤付着
406	2区 AA-16	瓦器 椀	15.5	5.2	5.0	0.4		80	外:口縁部ヨコナデ、体部ヨコナデのちユビオサエ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ、底部ナデ	外:灰黄色2.5Y7/2 内:灰色5Y4/1	石・雲・長	焼成やや不良
407	2区 Y-19	青磁 碗		(3.5)	5.4	0.8		25	外:ロクロ、施釉、底部;回転ヘラ切り 高台内露胎　貼付高台 内:ロクロ、施釉	釉:グレイみの黄8Y6.5/3S 胎:灰黄褐色10YR6/2	緻密	焼成良好 外面蓮弁文 内底面花文?
409	4区 S-17	土師器 杯	(13.8)	3.6	(7.8)			25	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:黄橙10YR8/6 内:黄橙10YR8/6	石・長・片・赤	焼成良好 外面底部に黒斑有り
410	4区 Q-16	土師器 脚部						100	脚部:ユビナデのちユビオサエ 残存長17.7cm　最大幅5.2cm	外:にぶい黄褐色10YR5/4	石・雲・片	焼成やや不良 全体に煤付着
411	4区 耕作土	土師器 脚部						100	脚部:ユビオサエ、ユビナデ 残存長10.35cm　幅5.25cm	外:黄褐色2.5Y5/3	石・長・片・赤	焼成良好 外面に黒斑有り
412	4区 R-16	須恵器 椀	(13.7)	(3.4)				25	外:口縁部回転ナデ、体部回転ナデのちユビオサエ 内:回転ナデ、体部ハケ10条/cm	外:灰白色2.5Y8/2 内:灰黄色2.5Y7/2	雲・砂・赤	焼成やや不良 内外面口縁部に黒斑有り(外面が幅広)
413	5区 M-19	土師器 杯	(11.3)	2.7	8.5			50	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデのち板ナデ 内:ヨコナデ	外:にぶい黄褐色10YR5/4 内:橙5YR6/6	雲・長・赤	焼成良好
414	5区 M-16	土師器 杯	(12.8)	3.1	(8.0)			30	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ・工具痕有り(板ナデ) 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成やや不良
415	5区	土師器 杯		(3.0)	(7.2)			40	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙7.5YR6/6 内:橙7.5YR6/6	石・雲・長・片	焼成やや不良
416	5区 N-17	土師器 釜	(21.8)	(7.6)	鍔部径 (23.9)			25	外:口縁部ユビオサエのちヨコナデ、体部ユビオサエのちナデ 内:口縁部ヨコナデ、体部板ナデ	外:橙5YR7/6 内:橙5YR7/6	石・雲・片・赤	焼成良好 外面に二次的な煤付着 接合痕有り 鍔径23.6cm
417	5区 M-17	青磁 碗	(12.6)	(3.1)	(10.6)			10	外:ロクロ、施釉 内:ロクロ、施釉	釉:あかるいグレイみの緑14BG7.5/1S 胎:灰色10Y6/1	緻密	焼成良好 外面体部に蓮弁文
418	5区 M-19	土師器 擂鉢		(5.0)	(12.0)			13	外:ユビオサエのち板ナデ、底部;ナデ 内:ナデ　地に擂り目	外:にぶい褐色7.5YR5/3 内:にぶい橙5YR6/4	石・雲・砂・片・赤	焼成良好 外面炭化物付着 内面カキメ2ヶ所有り
422	6区 Q-71	土師器 杯	(16.1)	4.2	(9.4)			40	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデのち板状痕 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・赤	焼成やや不良

第40表　出土遺物観察表　土器・陶磁器（5）

遺物番号	出土位置	器種	法量(cm) 口径	器高	底径 高台径	高台高	頸部径	残存率(%)	成形・調整	色調	胎土	備考
423	6区 P-68	土師器 杯	(14.3)	3.8	(9.2)			20	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙7.5YR6/8 内:橙7.5YR6/8	石・雲・片・赤	焼成不良
424	6区 O-70	土師器 杯	(12.6)	3.3	(8.6)			30	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:にぶい黄橙10YR6/3 内:にぶい黄橙10YR6/3	石・雲・長	焼成やや不良 外面炭化物付着
425	6区 O-71	土師器 杯	(12.5)	3.6	7.6			45	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ、底面に一方向のナデ有り	外:橙5YR6/6 内:橙5YR7/6	石・雲・片・赤	焼成やや不良
426	6区 Q-72	土師器 杯	(12.4)	3.7	(8.6)			40	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのち板ナデ 内:ヨコナデ	外:にぶい橙7.5YR7/4 内:にぶい黄橙10YR7/4	石・雲・長・片・赤	焼成やや不良
427	6区 J-70	土師器 杯	(13.7)	2.7	(8.0)			50	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切り 内:ヨコナデ 内外面共摩滅が激しく調整不明	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・長・赤	焼成やや不良
428	6区 J-72	土師器 杯		(3.0)	(8.8)			50	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:にぶい橙7.5YR6/4 内:にぶい橙7.5YR6/4	雲・長	焼成やや不良
429	6区 耕作土	土師器 小皿	(7.7)	1.4	(5.8)			45	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切り 内:ヨコナデ	外:にぶい橙7.5YR7/4 内:にぶい橙7.5YR7/4	石・雲・砂・赤	焼成良好
430	6区 O-71	土師器 皿	8.8	1.8	(6.0)			50	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切り 工具痕有り 内:ヨコナデ	外:にぶい橙7.5YR7/4 内:褐灰色7.5YR6/1	石・雲・長・赤	焼成やや不良
431	6区 L-69	土師器 皿	7.6	1.4	5.6			90	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:灰黄褐色10YR6/2 内:橙7.5YR7/6	石・雲・長・片・赤	焼成良好
432	6区	土師器 小皿	8.0	2.0	5.4			80	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成やや不良
433	6区 O-71	土師器 小皿	6.6	1.1	6.2			90	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:にぶい黄橙10YR7/4	石・雲・片・赤	焼成やや不良
434	6区 N-68	土師器 小皿	7.4	1.6	6.2			85	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのち丁寧なナデ 内:ヨコナデ、底面に一方向のナデ	外:橙5YR6/6 内:にぶい黄橙10YR7/3	石・雲・砂・赤	焼成良好
435	6区 N-68	土師器 皿	(7.4)	1.3	5.8			85	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:にぶい橙7.5YR7/4 内:にぶい橙7.5YR6/4	石・雲・片	焼成やや不良
436	6区 Q-71・72	土師器 小皿	7.9	1.2	5.6			90	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙7.5YR7/6 内:橙7.5YR7/6	石・片・赤 白色粒子	焼成不良
437	6区 N-68	土師器 皿	(8.4)	1.1	(6.1)			40	外:ヨコナデのちナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:にぶい橙7.5YR7/4 内:にぶい橙7.5YR7/4	石・雲・長	焼成やや不良
438	6区 Q-71	土師器 鍋	(22.9)	(19.6)	(9.8)		(19.8)	20	外:口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエ・ナデ 内:口縁部ヨコナデ、体部ナデ	外:褐灰色10YR5/1 内:褐灰色10YR5/1	石・雲・砂・片	焼成やや不良 外底面煤付着
439	6区 Q-73	土師器 鉢	(46.2)	(12.2)			(38.8)	12.5	外:口縁部ヨコナデ、体部上位ハケ7条/cm・ユビオサエ有り、下位ハケ3条/cm 内:口縁端部ヨコナデ、口縁部ハケ6条/cmのちナデ、体部上位ナデ、下位板ナデ	外:灰黄褐色10YR5/2 内:橙5YR6/6	石・雲・赤	焼成 良
440	6区 Q-70	須恵器 こね鉢	(29.6)	(4.6)				6	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ、一部ナデ	外:灰色N6/ 内:灰色7.5Y6/1	石・赤	焼成良好
441	6区 Q-70	白磁 碗	(15.5)	(1.9)				10	外:ロクロ、施釉 内:ロクロ、施釉	釉:黄みの白10YC8.5/15 胎:灰白色N8/	緻密	焼成良好 ※外面に蓮弁文とも思われる陰線があるが線が弱く、残存も少ないため、判断できない
445	7区 N-82	土師器 杯		(1.9)	(7.8)			40	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:にぶい橙7.5YR6/4 内:橙5YR7/6	石・雲・赤	焼成良好
446	7区 P-81	土師器 杯	(14.2)	3.7	(9.2)			25	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ、底面に一方向のナデ有り	外:橙7.5YR7/6 内:橙7.5YR7/6	石・片・赤・ 白色粒子	焼成良好
447	7区 O-82	土師器 杯	(13.0)	3.0	(7.4)			25	外:口縁部;ヨコナデ、体部;ヨコナデのちユビオサエ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:口縁部;ヨコナデ、体・底部;ヨコナデのちユビオサエ	外:にぶい黄橙10YR7/4 内:暗灰黄色2.5Y5/2	石・雲・片・赤	焼成やや不良
448	7区	土師器 小皿	8.4	1.6	6.2			85	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙7.5YR6/6 内:橙7.5YR6/6	石・雲・片・赤	焼成やや不良

第41表　出土遺物観察表　土器・陶磁器（6）

遺物番号	出土位置	器種	法量(cm) 口径	器高	底径 高台径	高台高	頸部径	残存率(%)	成形・調整	色調	胎土	備考
449	7区 P-82	土師器 小皿	6.5	1.1	5.4			100	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/8	石・雲・片	焼成やや不良
450	7区 P-81	土師器 小皿	(7.0)	1.6	(5.2)			40	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ、	外:にぶい橙 7.5YR7/4 内:にぶい黄橙 10YR7/4	石・赤	焼成良好
451	7区 O-82	土師器 杯	(7.6)	1.6	(4.6)			40	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙7.5YR7/6 内:橙7.5YR7/6	雲・片・赤・白色粒子	焼成やや不良
452	7区 O-82	土師器 小皿	(8.7)	1.3	(6.2)			40	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/6	雲・砂・片・白色粒子	焼成やや不良 外面黒化物付着
453	試掘8トレンチ	土師器 小皿		(1.4)	(7.2)			25	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:ヨコナデ	外:橙5YR6/6 内:橙5YR6/8	石・雲・片・赤	焼成やや不良
454	試掘8トレンチ	土師器 鍋		(1.7)	(3.6)	0.5		35	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 貼付高台 内:ヨコナデ	外:灰白色10YR7/1 内:灰黄色2.5Y7/2	雲・片・赤	焼成やや不良 底部器壁の極薄であるいは漏水者材質の販売器種の模倣？
455	7区 P-82	土師器 椀		(2.4)	(5.7)	0.6		50	外:ヨコナデ、底部;回転ヘラ切り 内:ヨコナデ、全体的に摩耗のため調整不明瞭	外:灰白色10YR8/2 内:灰白色10YR8/2	石・雲・長	焼成不良
456	7区 O-82	土師器 椀		(3.1)	(6.0)	0.7		50	外:ヨコナデ、ヨコナデのちユビナデオサエ、底部;ヨコナデ、回転ヘラ切りのちナデ 貼付高台 内:ヨコナデ	外:浅黄橙10YR8/3 内:浅黄橙10YR8/3	石・片・赤・白色粒子	焼成やや不良
457	7区 O-82	須恵器 椀	(15.6)	5.9	6.6	0.8		底100	外:回転ナデのちミガキ、体下部;ケズリのち回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 貼付高台 内:回転ナデ	外:灰黄2.5Y7/2 内:灰黄色2.5Y7/2	石・雲・片・赤	焼成やや不良
458	7区 P-82	須恵器 椀	13.3	5.5	5.1	0.5		100	外:回転ナデのち回転ヘラミガキ、底部;回転ヘラ切り 内:回転ナデ・弱いハケ目6条/cmのちヘラ工具による内面ロ縁部付近への刻み目	外:灰白色7.5Y7/1 内:灰白色7.5Y7/1	雲・長・砂	焼成やや不良 外面炭含無有り
459	7区 N-82	須恵器 椀		(3.5)	(7.0)	0.7		25	外:回転ナデのちユビオサエのちヘラミガキ、底部;回転ナデ、回転ヘラ切り 1.5条有り 内:ヘラミガキ	外:灰白色7.5Y7/1 内:灰色7.5Y6/1	長・黒・白色粒子	焼成やや不良
460	7区 P-82	須恵器 椀		(2.2)	6.7	0.5		12	外:回転ナデのちミガキ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデのちミガキ	外:灰黄色2.5Y6/2 内:灰色5Y6/1	石・雲・砂・白色粒子	焼成良好 畜材質
461	7区 I-16	須恵器 杯		(2.4)	(6.0)	0.7		30	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切りのちナデ 内:回転ナデ	外:灰白色2.5Y8/1 内:灰白色2.5Y8/2	石・雲・黒	焼成やや不良
462	7区 O-82	須恵器 小皿	(8.3)	1.5	(5.4)			50	外:回転ナデ、底部;回転ヘラ切り 内:回転ナデ、底面に一方向のナデ有り	外:灰白色5Y8/1 内:灰白色5Y8/1	砂・赤	焼成やや不良
463	7区 O-82	灰釉 杯	(13.8)	(4.8)				40	外:ヨコナデのちユビナデ 内:ロクロナデのちヨコナデ、体下部;ヨコナデのち横ナデ	外:灰白色5Y8/1 内:灰白色5Y8/1	石・雲	焼成やや不良
464	7区 N-83	灰釉 椀	(15.8)	5.4	(7.0)	0.9		40	外:ヨコナデ、ヨコナデのちユビナデオサエ、底部;ヨコナデ、回転ヘラ切りのちナデ 貼付高台 内:ヨコナデ・ヨコナデのちミガキ	外:灰色5Y5/1 内:灰色5Y5/1	石	焼成やや不良 内外面炭化物付着
465	7区 P-82	山茶碗	(13.9)	(4.0)				10	外:ロクロ、施釉 内:ロクロ、施釉	釉:黄みの灰 10YR5.5/15 胎:灰白色5Y7/1	雲・砂	焼成良好
466	7区 I-81	白磁 皿	(17.7)	(1.8)				10	外:ロクロ、施釉 内:ロクロ、施釉	釉:グレイみの灰 5Y7.5/3以 胎:灰白色2.5GY8/1	緻密	焼成良好 内外面施釉、貫入有り
467	7区 P-81	陶器 (天目)碗		(2.6)	5.0	1.0		75	外:ロクロ、施釉、底部;ロクロ、露出、回転ヘラ切り 内:ロクロ、施釉	釉:くらいグレイみのオリーブ 胎:橙2.5YR6/6	石・砂	焼成良好 外面ほぼ全体にかかる 高台内露胎 瀬戸・美濃系

第42表　出土遺物観察表　陶磁器（1）

遺物番号	出土位置	器種	法量(cm) 口径	器高	底径 高台径	高台高	残存率(%)	成形・調整	色調	胎土	備考
471	2区 Z-15	磁器 皿	(11.0)	(2.5)			13	外:ロクロ、施釉 内:ロクロ、施釉 底内無釉　染付	釉:青みの白 16gR8.5/1S 胎:灰白色5GY8/1	緻密	
472	5区 L-16 M-17	土師器 焙烙	(40.1)	5.8	(9.5)		25	外:口縁部回転ナデ、ヨコナデ・体底部ナデ 内:回転ナデ	外:にぶい黄橙 10YR7/3 内:灰白色10YR7/1	石・片・赤	焼成やや不良 内面に黒斑有り 外面口縁部煤付着
473	5区 L-16 M-17	陶器 皿	(7.5)	(1.2)	(4.2)		50	外:回転ナデ、底部:回転糸切り　施釉 内:回転ナデ	釉:つよい黄みのオレンジ6YO7.5/7S 胎:橙7.5YR7/6	石・砂・赤	口縁部に煤付着
474	5区 M-17	陶器 皿	6.6	1.3	2.4		100	外:ロクロ、底部:回転糸切り 内:ロクロ、施釉	釉:くらいグレイみのブラウン4RO2.4/3S 胎:不明	緻密	重ね焼きで下側の器が釉着
475	5区 M-17	素焼き 陶器？ 灯明皿	7.1	1.1	2.8		70	外:ロクロ、回転ヘラ切り 内:ロクロ 内面全体にうすく施釉	釉:あさい赤みのブラウン4RO4.5/5S 胎:赤色10R5/6	雲・片	
476	5区 M-15	陶器 灯明皿	7.4	1.3	2.7		70	外:ロクロ、回転ヘラ切り 内:ロクロ、施釉	釉:あさい赤みのブラウン4RO6.5/5S 胎:赤褐色2.5YR4/6	緻密	
477	5区 M-17	陶器 灯明皿	7.1	1.3	3.6		60	外:ロクロ、回転ヘラ切り 内:ロクロのちナデ、底面に一方向のナデ有り 内外面の口縁の一部に施釉	釉:赤みのブラウン4RO3.5/5S 胎:赤褐色2.5YR4/6	緻密	
478	5区 M-17	陶器 灯明皿	9.2	1.4	3.3		80	外:ロクロ、底部:回転ヘラ切り 内:ロクロのちナデ	胎:橙2.5YR6/6	石・砂	口縁端部内外面に煤付着 体部は内外面に広々と炭化物付着
479	5区 L-16	陶器 灯明皿	9.7	1.8	3.0		80	外:ロクロ、回転ヘラ切り 内:ロクロ 内外面口縁上部施釉	釉:赤みのブラウン4RO4.5/5S 胎:赤褐色2.5YR4/6	緻密	
480	5区 K-18	陶器 灯明皿	(8.2)	1.5	(4.2)		40	外:ロクロ、回転ヘラ切り 内:ロクロ、施釉	釉:グレイみのブラウン4RO4.5/3S 胎:にぶい赤褐色5YR4/3	緻密	
481	5区 M-17	陶器 灯明皿	8.5	1.5	4.2		70	外:ロクロ、回転ヘラ切り 内:ロクロ、コビオサエ 口縁部内外面に施釉	釉:赤みのブラウン4RO4.5/5S 胎:赤褐色2.5YR4/6	緻密	外面口縁部のわずかな範囲にタール付着
482	5区 L-17	陶器 椀		(1.8)	4.8	3.5	80	外:ロクロ、施釉、体下部:ロクロ・糜台、底部:回転ヘラ切り　貼付高台 内:ロクロ、施釉	釉:くらい黄6Y6.5/5S 胎:赤褐色10R5/3	砂・緻密	焼成良好 内底面に黄砂4ヶ所、高台部にも黄砂4ヶ所有り 唐津焼
483	5区 L-17 M-17	陶器 小型 甕	(5.7)	6.3	3.2		45	外:ロクロ、施釉、底部:回転糸切り 内:ロクロ、施釉	釉:くらいグレイみのブラウン6YO3.5/3S 胎:赤色10R5/6	緻密	
484	5区 L-16 L-17 M-16	陶器 小型 甕	5.5	6.3	3.3		90	外:ロクロ、施釉、底部:回転糸切り　糜胎 内:ロクロ、施釉	釉:グレイみのブラウン6YO4.5/3S 胎:橙2.5YR6/8	緻密	
485	5区 M-17	陶器 椀		(3.4)	(5.2)	1.1	50	外:ロクロ、施釉 内:ロクロ、施釉 畳付無釉	釉:グンイみの黄緑10YG6.5/3S 胎:灰オリーブ色5Y6/2	石・砂	
486	5区 M-17	陶器 香炉	10.1	5.2	4.0		50	外:ロクロ、施釉、底部:回転糸切り 内:ロクロ、施釉	釉:くらいグレイみのブラウン4RO2.4/3S 胎:明赤褐色2.5YR5/6	緻密	脚状の突起があるが一ヶ所のみの残存で完全に残っていたとしても2ヶ所に留まると思われる
487	5区 M-17	陶器 水瓶	1.9	11.7	4.1	0.8	70	外:ロクロ、施釉 内:ロクロ、施釉 畳付内面無釉　染付　花文？	釉:青みの白 16gR8.5/1S 胎:灰白色N8/	緻密	
488	5区 M-17	陶器 甕		(10.2)	(12.3)		25	外:ロクロ、施釉、底部:回転ヘラ切りのちナデ 内:ロクロ、施釉	釉:くらい赤みのブラウン4RO2.4/3S 胎:にぶい黄橙10YR6/3	緻密	
489	5区 M-17	陶器 擂鉢	(19.0)	6.3	(9.1)		45	外:ロクロ、底部:ナデ 内:ロクロ、施釉、カキメ	釉:あさい赤みのブラウン4RO4.5/5S 胎:赤色10R5/6	石・砂	外面炭化物付着

第43表　出土遺物観察表　陶磁器（2）

遺物番号	出土位置	器種	法量(cm) 口径	器高	底径 高台径	高台高	残存率(%)	成形・調整	色調	胎土	備考
490	5区 M-17	磁器 碗		(3.1)	(5.2)	0.9	60	外:ロクロ、施釉 内:ロクロ、施釉 畳付無釉　染付　内底面畳砂が一周する	釉:緑みの白 14BG8.5/1S 胎:灰白色2.5GY8/1	緻密	
491	5区 M 17	磁器 碗		(4.1)	4.9	0.9	30	外:ロクロ、染付 内:ロクロ、染付 見込み釉剥ぎ、畳砂、畳付無釉、高台内施釉、貼付高台	釉:青みの白 16gB8.5/1S 胎:灰白色7.5Y8/1	緻密	
492	5区 L-16	磁器 碗		(2.8)	(5.1)	1.0	90	外:ロクロ、施釉 内:ロクロ、施釉 畳付無釉　染付	釉:黄みの白 10YG8.5/1S 胎:灰白色7.5Y8/1	緻密	
493	5区 M 17	磁器 碗		(3.3)	(3.7)	0.7	50	外:ロクロ、施釉 内:ロクロ、施釉 畳付、高台内も施釉、染付	釉:青みの白 16gB8.5/1S 胎:灰白色N8/	緻密	
494	5区 M-17	磁器 碗 (口縁)	(13.8)	(3.8)			10	外:ロクロ、施釉 内:ロクロ、施釉 染付　外面工具痕有り	釉:青みの白 16gB8.5/1S 胎:灰白色2.5Y8/1	緻密	
495	5区 M-17	磁器 碗 (体底部)		(5.0)	(5.2)	0.8	50	外:ロクロ、施釉 内:ロクロ、施釉 畳付無釉　染付　内面畳砂3ヶ所	釉:青みの白 16gB8.5/1S 胎:灰白色2.5Y8/1	緻密	
496	5区 M-17	磁器 皿	(12.5)	(2.7)	(6.4)	0.4	30	外:ロクロ、施釉 内:ロクロ、施釉 畳付無釉　染付　内面無釉範囲有り	釉:青みの白 16gB8.5/1S 胎:灰白色7.5Y7/1	緻密	
497	5区 M 17	磁器 皿	(19.0)	4.1	(10.1)	0.6	20	外:ロクロ、施釉 内:ロクロ、施釉 畳付無釉、畳砂付着、染付	釉:青みの白 16gB8.5/1S 胎:明青灰色5B7/1	緻密	

第44表　出土遺物観察表　鉄器

遺物番号	出土位置	種類	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	備考
293	4区 Q 15	刀	28.9	2.8	1.6	338.30	
420	5区 K-17	古銭	-	-	-	2.31	「熙寧元寶」
421	5区 L-16	古銭	-	-	-	2.25	「皇宋通寶」
469	7区 P-82	鉄滓	6.7	5.4	2.8	88.10	

第45表　出土遺物観察表　石器・石製品

遺物番号	出土位置	種類	法量 (cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石材	素材	備考
15	3区 SK1014	剥片	1.8	3.25	0.25	1.2	サヌカイト	剥片	
65	3区 SR1001	剥片	2.2	2.5	3.5	2.1	サヌカイト	剥片	
70	3区 SP1153	敲石	10.05	9.85	8.65	1176.9	閃緑岩	礫	
72	6区 SP1997	石鏃	8.30	21.40	1.95	410.4	結晶片岩	石鏃	
73	1区 Y-8	剥片	3.5	3.1	0.5	5.0	サヌカイト	剥片	
74	1区 X-8	石鏃	4.0	6.1	1.85	44.0	頁岩	石鏃	
81	2区 Y-Z-14-15	剥片	2.4	2.85	0.425	2.5	サヌカイト	剥片	
111	3区 Y-23	剥片	6.7	10.1	0.95	53.2	サヌカイト	剥片	
119	5区 L-19	敲石	24.2	5.25	3.45	594.2	結晶片岩	礫	
128	6区 D-67	R剥片	2.7	2.7	0.45	2.8	サヌカイト	剥片	
129	6区 Q 72	剥片	1.65	4.59	0.49	3.5	サヌカイト	剥片	
130	6区 E-67	剥片	2.25	4.6	0.35	4.2	サヌカイト	剥片	
131	6区 Q-72	石包丁	5.0	7.6	0.75	47.2	紅簾片岩	剥片	
135	7区 精作土	石包丁 (未製品)	5.0	11.35	1.15	133.5	結晶片岩 (砂質)	礫	
194	6区 SK1059	剥片	2.75	2.9	0.4	3.5	サヌカイト	剥片	
289	3区 U-27	石錘	4.8	4.7	0.76	22.97	緑色凝灰岩		上面、側面(剥5面)研磨がなされている
			孔序 上 (時計回り)	1(左下)…0.2cm 2 ……0.15cm 3 ……0.15cm 4 ……0.15cm		孔序 下 (反時計回り)		1(右上)…0.35cm 2 ……0.45cm 3 ……0.3cm 4 ……0.25cm	透かし孔幅 (MAX) 上面 0.35cm 下面 0.3cm

第46表　出土遺物観察表　土製品

遺物番号	出土位置	器種	法量 (cm) 長軸	短軸	厚さ	最大径	孔径	重さ(g)	成形・調整	色調	胎土	備考
176	3区 SP1242	土製品 土錘	4.2			1.4	0.3	5.8	ナデ、ユビオサエ	灰白色5Y8/1	石・片・赤	焼成やや不良 黒斑有り
177	3区 SP1242	土製品 土錘	3.2			1.2	0.4	3.9	ナデ	黄灰色 2.5Y4/1	石・片	焼成良好 全体に黒斑有り 縦ずれ痕有り
205	3区 SP1171	土製品 土錘	2.9			1.2	0.3	2.8	ナデ	灰白色 2.5Y8/2	石・片・赤	焼成やや不良 黒斑有り 弱い縦ずれ痕あり
215	3区 SP1271	土製品 土錘	3.8			1.2	0.4	3.4	ナデ	黒褐色 2.5Y3/1	石・片	焼成やや不良 黒斑有り
217	3区 SP1372	土製品 土錘	3.7			1.2	0.3	4.01	ユビオサエ のちナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	石・雲・片	焼成良好 黒斑有り
286	3区 P 25	土製品 土錘	3.2			1.2	0.4	4.1	ナデ	褐灰色 10YR4/1		焼成良好 両孔に偏ずれ痕あり
287	3区 P 25	土製品 土錘	3.4			1.3	0.25	4.37	ナデ	灰白色 7.5Y8/1	石・雲	焼成やや不良
288	3区 U-21	土製品 土錘	3.1			1.5	0.3	5.8	ユビオサエ、ユビナデ	灰白色 2.5Y7/1	石・片・赤	焼成良好 全体的に黒斑有り
397	1区 AB-7	礫土	10.2	7.7	3.9							
408	3区 R-23	土製品 羽口	4.40	4.50	2.50			39.1	ナデ			滓付着
419	5区 I.-16	土製品 土錘	5.7			2.5	0.6	25.05	ナデ	橙7.5YR6/6	石・雲・長	焼成良好 縦ずれ痕有り
442	6区 Q-72	土製品 羽口	5.95	7.4	2.4							
443	6区 Q-72	土製品 羽口	6.55	4.4	2.55							
444	6区 Q 70	土製品 土錘	3			1.2	0.3	3.7	ナデ、ユビオサエ	黒褐色 10YR3/1	石・片	焼成良好 全体的に黒斑有り 縦ずれ痕有り
468	7区 O 82	土製品 羽口	12.0	6.90	2.80			223.4	ナデ			不純物が付着
470	7区 N-82	土製品 土錘	3			1.3	0.35	3.4	ナデ	橙7.5YR7/6	石・雲・片	焼成良好

写真図版